

令和4年度
成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業
(文部科学省)

「ふくい型アプレンティス」
キャリア形成プログラム
(産学官金連携によるD X人材養成)

成果報告書

令和6年3月

はじめに

3年連続で実施したリカレント教育推進事業の取組を振り返り、 今後を展望する

1. 事業の概要について

本学では、一昨年度の文部科学省の事業「就職・転職支援のための大学リカレント教育推進事業」の採択、昨年度の文部科学省の事業「DX 等成長分野を中心とした就職・転職支援のためのリカレント教育推進事業」の採択に引き続き、本年度も文部科学省の採択を受け、「成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業」に関するプログラムを実施しました。



当事業・プログラムは、社会におけるデジタル化や脱炭素化といった大きな変化に対応するために、デジタル等成長分野に関する能力を身に付けた人材の養成が求められている中、地域産業界からは「システム開発」、「DX」の能力を有する人材の確保が強く求められていることを受け、これらの能力を学歴やスキルに関係なく、意欲さえあれば集中的に身に付けることができるプログラムを構築しました。さらに本プログラムは、地域産学官金の連携協力の下、昨年度に実施した「産学官金連携による「ふくい型アプレンティス」プログラム (DX 人材養成)」の内容をブラッシュアップして、UI ターン希望者を含む失業者、非正規雇用労働者、転職希望者等の地域への定着を促進し、地域共創に寄与することを目的として実施したものです。

プログラムの募集人員は 30 名、実施時期は 10～11 月の 2 か月、授業はコア科目、スキル養成科目、アプレンティス科目（システム開発・設計クラスまたは DX（現代社会のデジタル化）クラス）の他、就業体験 24 時間以上（地域企業へのインターンシップまたは企業視察・実証型の事業化可能性調査）から構成され合計 128 時間以上となります。

2. 事業を振り返って

このプログラムを実施するにあたり、地域の産・学・官・金で構成する事業実施委員会を組織しました。そして本委員会を中心として、昨年度実施したプログラムの成果や課題を踏まえた上で、各々の機関が役割を果たしつつ、事業実施委員会で各取組状況に関する情報共有を密に行い運営の調整や改善を行うなど、事業の効率的かつ円滑な運営に努めました。その上で、達成を目指す数値目標として(1)受講者数 30 名程度、部分受講者数 300 名程度、(2)就職率 75%以上、就職・在職率 87%以上、新規就職・転職者数 10 名、(3)受講者満足度 90%以上、就業先企業満足度 90%以上、

(4)UI ターン希望の申込者数8名以上を掲げました。

(1)受講者数については、各機関が連携協力して、テレビCM、専用ホームページ・SNS等を活用した広報や対面・オンラインによる個別説明・相談会の実施などにより、応募者が募集人員30名を上回る33名あったことから、選考の結果31名となり目標値を達成することができました。なお、部分受講者数については、産学官金医が地方創生を目的として連携し設立された「未来協働プラットフォームふくい」が推進するリスキリングとして本プログラムの部分受講を位置付け、受講者獲得に向けて構成メンバーの経済団体及び福井県を通して企業・自治体の社員・職員をターゲットとしてチラシ等により広報を展開しましたが、将来的な自立自走も視野に今年度初めて受講料を徴収することとしたこと等も影響し目標値には達せず、応募者44名、受講者33名となりました。

(2)就職率、就職・在職率、新規就職・転職者数については、受講者選考面接時にインターンシップ受入承諾企業担当者の同席を依頼し雇用する側の視点を取り入れた選考の実施、少人数クラス分けのメンター制を取り入れた「キャリア概論」におけるキャリアコンサルティングの実施、ハローワークによる就職・転職相談強化週間の設置を含めた丁寧な就職・転職支援の実施などにより現時点(2月28日現在)で就職率17%、就職・在職率79%、新規就職・転職者数6名となっており、プログラム修了後3か月以内の目標値の達成に向けて今後も手厚い就職・転職支援を継続していく予定です。

(3)受講者満足度については、ワード、エクセル等補講用のオンデマンドコンテンツの作成とこのコンテンツをいつでも視聴できる環境の構築、修学に関する学生メンター(大学院生)の配置等の手厚い支援を行ったことにより、アンケート回答者の92%から満足を得ることができ目標値を達成しました。就業先企業満足度については、ITスキル、ビジネスマナー、プレゼンテーション力などの総合的な人間力を備えたDX人材の養成に向けて受講者31名を教育し29名を修了させたこと(修了率94%)等により全社100%(2月28日現在)の満足を得ることができました。

(4)UI ターン希望の申込者数については、福井県が県外事務所や福井Uターンセンター等を通じて首都圏を中心とした広報を展開した結果、目標値には達しなかったものの2名となり、一定の成果がありました。

以上のことから、本事業の趣旨に沿った一定の成果が得られたものと考えています。

なお、本来、事業の真の効果を測るためには、就職率よりもむしろプログラム修了者の追跡調査を行うことが重要であることから、今回、昨年度のプログラム修了者に対し調査を行い、身に付けたIT知識が仕事で活かされる場面が多々あること、様々な価値観を持った人たちとプログラムを最後まで学んだことが自分自身を見つめ直したりITを本格的に勉強するためのきっかけになった等の高い評価を受けたところ です。

3. リカレント事業の今後を考える

本学では、令和4年4月に、産学官連携本部、地域創生推進本部及び令和3年5月に設置したリカレント教育推進本部等をもって構成する「社会共創機構（機構長：学長）」を設置して、学び直しの機会提供を学長をトップとした全学体制で推進する仕組みを構築し、今回実施したプログラムを含め、地域自治体、各種関係機関・団体と連携してリカレント教育を推進しています。

また、令和3年11月に設立された「未来協働プラットフォームふくい」では、社会人教育としてリスキリングを推進することが合意されており、県内各高等教育機関が今年度から本格的に企業・自治体の社員・職員のスキルアップ等を目的とした取組を開始しました。本学では、上述のように手始めとして本プログラムの部分受講を当リスキリングとして位置付け実施したところであり、次年度以降も当プラットフォームと連携協力してリスキリングへの取組を継続していく予定です。

今後は、本学が保有する人的・物的資源を有効に活用するため、一昨年度、昨年度及び今回実施した文部科学省委託事業及び補助事業で得られた知見を活用しつつ、今年度本学を含め県内各高等教育機関が取り組んだ上記リスキリング及び本学が独自に取り組んだ他のリカレントやリスキリングの成果を検証し、上記プラットフォームにおける産業界の要望も踏まえて、取り組むべき分野・内容や対象者を絞り込んでいきたいと思えます。

また、リカレントやリスキリングを実施するための財源の確保とともに、教員・職員が関与する場合の財源確保等の課題を含めたインセンティブ措置のあり方についても、具体的検討を行っていかねばならないと考えています。

最後に、最後まで粘り強く授業を受講しプログラムを修了された受講者の皆さん、また、事業に多大なるご協力・ご支援を賜った各機関や企業の関係者の皆様には改めて感謝申し上げます。

福井大学理事／副学長
事業責任者 末 信一郎

CONTENTS

はじめに	1
1. 事業の概要	5
2. 事業の実施体制	7
3. プログラムの内容	11
4. 受講者の募集	49
5. プログラムの運営	70
6. 受講者の就職・転職支援	88
7. プログラムの目標達成状況	97
8. 事業の成果・課題	99
9. 事業終了後の継続等の今後の展望	130

1. 事業の概要

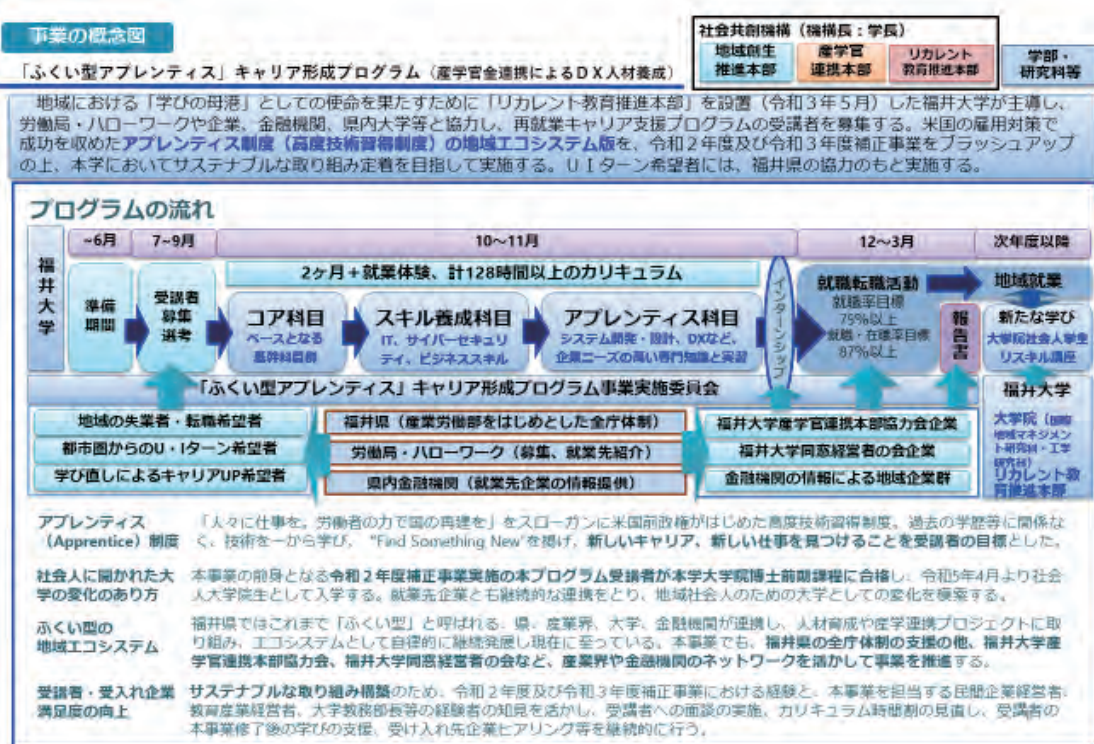
本学では、地域産業界や福井県とともに、これまで大学を中心とした「ふくい型」と呼ばれる極めて緊密な産学官金連携体制を構築してきた。令和2年度及び令和3年度補正事業では、米国にて失業者対策として成功を収めたアプレンティス制度（高度技術習得制度）に倣い、意欲さえあれば学歴やスキルに関係なく集中的に身に付けるプログラムを、地域産業界や福井県の協力のもと実施してきた。特に地域企業ではシステム開発・設計やDX（現代社会のデジタル化）においての能力に関し、引き続き高いニーズがあり、地方国立大学の使命として、地域産業の生産性向上に直結する本領域の人材育成が必須であると考えている。

一方で、これまでの事業実施経験から、その取り組みは地域企業に資する人材を育成し、就業するといった高い実績を上げてきたものの、就業した人材を継続して育成するニーズが新たに発生している。具体的には、令和2年度補正事業の受講者が、令和5年4月より本学大学院に社会人正規課程学生として入学した。前事業の評価と共に、カリキュラム約130時間に上積みすべき学びのニーズも顕在化してきている。そのため本事業では、受講者及び企業のニーズを踏まえ、受講修了者及び就業先企業に対し、継続的な学びを提供するための接続教育としての役割を意識した取り組みとした。

引き続き、定期的に実施している産業界に対するニーズ調査により、地域企業において必要とされる人材像を明らかにしたうえで、過去に実施したプログラムの内容を発展させた事業を展開する。過去2年間のプログラムでは、共に募集人員（30名）のおよそ2倍の受講申込者があったことから、受講者側にも本学のプログラム内容に対する強いニーズがあることは明らかであり、これまでの受講後アンケート等も反映し、よりニーズに即したコンテンツの提供を行った。

また、福井県による住居・交通費に関する各種補助と支援、企業による実務研修等の就業支援について、引き続き合意を得て、産学官金連携体制で地域創生の中心となる地域産業等の生産性向上を目的に取り組んだ。

資料 1-1：事業の概念図



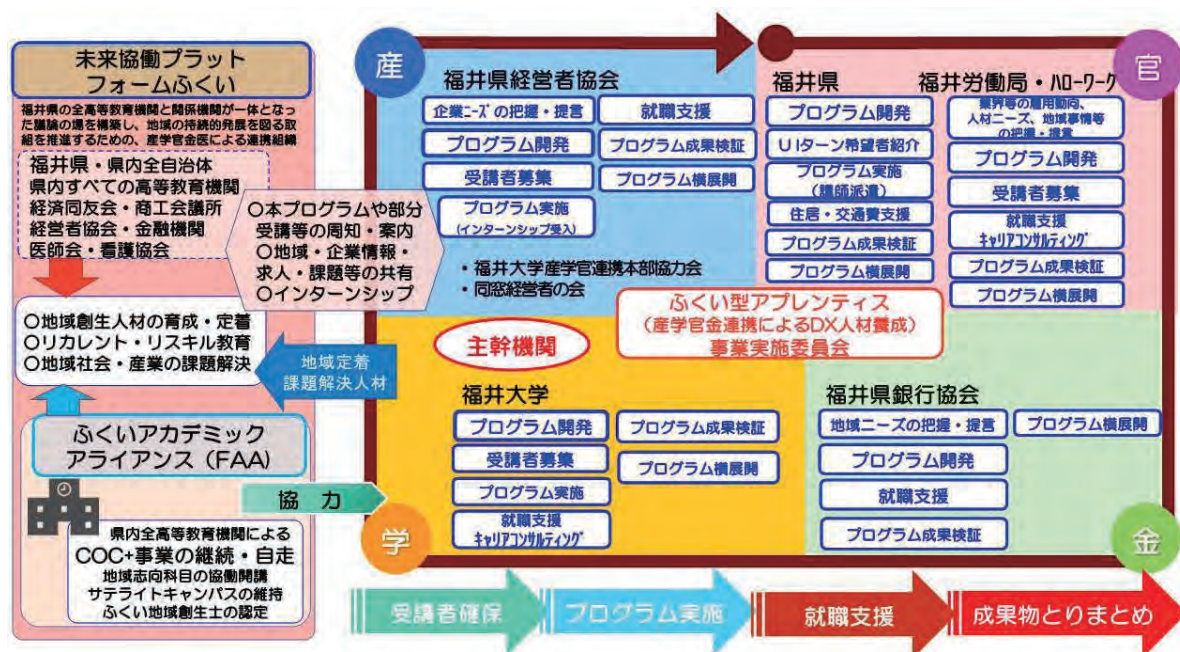
資料 1-2：取組の年間実績



2. 事業の実施体制

(1) 事業実施体制及び事業実施委員会の位置付け

資料 2-1：実施体制



産学官金を中心とした各機関が連携、情報共有し事業を協働する（個々の動きを調整し、統一性を持たせる）ために「ふくい型アプレンティス（産学官金連携によるDX人材養成）事業実施委員会」（以下「事業実施委員会」という。）を設けた。その位置付けは次のとおりである。

①目的・役割

- 事業の主幹機関は福井大学であるが、本事業では、各機関の連携の下で事業実施委員会を設置し、業界等の雇用動向や人材ニーズ及び地域事情の把握、プログラムの開発・実施、プログラムの成果検証、開発したプログラムの横展開等を図り、情報共有、協働した取組によって、従来の個々の活動に比してより高度で専門的な技術習得に有効で効率的な運営（「ふくい型アプレンティス」キャリア形成プログラム（産学官金連携によるDX人材養成））を行う。
- 事業実施委員会を月1回程度開催して情報共有を図ることにより、受講者に対して有効に事業が推進されているかについての検討が容易になり、受講者の達成度検証を多面的に評価することが可能となるなど、PDCAサイクルが円滑に機能する。
- 事業実施委員会のメンバーは、より現場に近い各機関の役職者で構成し、事

業の推進について柔軟かつ即応的に対応する。

②検討・実施内容

令和2年度、3年度補正事業のプログラムの課題や成果を踏まえ、次の事項について検討し、かつ、実施状況について随時情報共有し必要に応じ改善策を検討・実施した。

(イ) プログラムの開発・実施

県内企業等のDX人材に対するニーズや希望するプログラム内容に関する調査結果及び労働局・ハローワーク等からの最新の県内業界等の雇用動向・人材ニーズ・地域情報等に関する情報も参考にして、受講者・雇用者の双方にとって魅力あるプログラムの開発に向けて、本学が保有する資源・ノウハウを活かしつつ、実務家教員や企業・福井県から派遣された講師による授業の開講、及び就業体験の実施方法について検討した。

(ロ) 受講者確保の方策

これまでの事業で効果が高かった方法も踏まえ、労働局・ハローワーク、福井県、産業界、金融界及び本学広報担当部署と連携した効果的な方策を検討した。

(ハ) プログラムの運営

受講者・運営者双方にとって負担が小さく、かつ、受講者が安心して満足して受講し修了できるような運営のあり方を検討するとともに、常に運営状況に関する情報を共有し、必要に応じ見直しの方策を検討した。

(ニ) 就職・転職の支援

受講者・雇用者の双方のニーズの捉え方・マッチングのあり方、及び労働局・ハローワークや金融界等との連携のあり方について検討するとともに、常に就職・転職状況に関する情報を共有し、必要に応じ支援のあり方を検討した。

(ホ) 成果の検証

本学はもとより他の関係機関の今後の事業展開に資するため、プログラム内容、受講者数、修了率、就職率、就職・在職率など事業の成果を検証して成果物として取りまとめ、社会に広く提供した。

③構成員

- 福井大学理事（研究、産学・社会連携、ダイバーシティ担当）／副学長【事業責任者】
- 福井大学学長補佐（リカレント教育推進本部附属リカレント研修センター長）【事業副責任者】
- 福井大学地域創生推進本部教授（附属創生人材センター長）【プログラム開発・事業実施責任者】

- 厚生労働省福井労働局職業安定部長
- 福井県産業労働部副部長
- 福井県経営者協会専務理事
- 福井県銀行協会事務局長
- 福井大学同窓経営者の会理事長
- 福井大学産学官連携本部協力会事務局長（福井経済同友会専務理事）

（２）各機関が果たした役割及びプログラムの開発・実施に当たって協力を得た事項

福井大学が主幹機関となり、②～⑥の各機関から多方面にわたる協力を得て、雇用者側の求める能力、活躍してほしい分野に応じた内容で、求職者にとってより就業に繋がることが期待できる教育プログラムを構築し実施した。

①福井大学【学】

主幹機関として、大学の有する資源を有効活用するとともに各機関の協力を得て本事業推進全体の責任母体となり、受講者及び地域企業のニーズに有効かつ効率的に対応するため、事業実施委員会をリードした。

②福井労働局・県内ハローワーク【官】

福井県内の業界等の雇用動向・人材ニーズ・地域事情等のほか、国・都道府県及び認定民間教育訓練機関が行っている求職者を対象とした公的職業訓練とプログラムとの制度上の相違点も把握している。その情報・ノウハウを活かし、かつ、プログラムの内容や養成する人材像の理解の下、就職・転職支援のほか、受講対象者やカリキュラム等に関するプログラムの開発、受講者の募集、キャリアコンサルティング、就職・転職状況等に関するプログラムの成果検証、求職者や求人企業に対する部分受講を含めたプログラムの横展開等に関し、幅広く協力を得た。

③福井県（産業労働部、交流文化部、未来創造部、総務部）【官】

福井県内の産業構造や雇用状況等に精通しており、ＵＩターン希望者の獲得にも力を注いでいる。ＵＩターン希望者に向けて県外事務所等を通じた周知・広報及び受講者に対する住居・交通費支援とともに、受講対象者やカリキュラム等に関するプログラムの開発、プログラムの実施面ではコア科目「地域産業論」において県内企業に就職するために必要な県内産業構造等に関する講義担当、ＵＩターン受講者数や就職状況等に関するプログラムの成果検証について協力を得た。また、令和３年１１月に設立された県内の産・学・官・金・医の全３４の機関・団体が連携した「未来協働プラットフォームふくい」の先導役として、産業界等のニーズを踏まえた県内高等教育機関によるリカレント教育の推進にも取り組んでおり、当プラットフォームに置かれた学生教育・社会人教育の実行部門会議の場を活用し、県内高等教育機関、産業界等への本プログラムの部分受講を含めた横展開に係る協力を得た。

④福井県経営者協会【産】

県内主要企業約 210 社を会員とする福井県内の主要な経済団体の一つである。特に雇用・労働問題等を主なテーマとして活動しており、福井労働局との関係も深く、また、「未来協働プラットフォームふくい」に産業界から参加しており、本事業への関心が高い。企業ニーズの提言、受講対象者やカリキュラム等に関するプログラムの開発、受講者募集、就職・転職支援、就職・転職状況等に関するプログラムの成果検証、会員企業へのプログラムの部分受講も含めた横展開に係る協力を得た。

⑤福井県銀行協会【金】

地元の金融機関で組織されている団体で、地元経済の動向、個別企業の情報に密接に関わっている。「未来協働プラットフォームふくい」における金融界からの参加団体であり、本事業への関心は高い。地域ニーズに基づく提言、雇用ニーズのある企業の情報提供、受講対象者やカリキュラム等に関するプログラムの開発、就職・転職状況等に関するプログラムの成果検証、会員企業へのプログラムの部分受講も含めた横展開に係る協力を得た。また、当協会会員企業である（株）福井銀行傘下の職業紹介事業を展開する企業に、受講者の求職登録・職業紹介の協力を得た。

⑥福井大学産学官連携本部協力会、福井大学同窓経営者の会【産】

両組織は、福井大学を支援する企業で構成されており、リカレント教育、技術者の中途採用という視点で本事業に注目している。人材ニーズやプログラム内容に関するアンケート調査、企業インターンシップ受入、就職・転職支援、就職・転職状況や企業インターンシップ受入等に関するプログラムの成果検証、会員企業への本プログラムの部分受講も含めた横展開について協力を得た。

3. プログラムの内容

(1) プログラム設計前の地域ニーズの把握

本年度の事業である「「ふくい型アプレンティス」キャリア形成プログラム（産学官金連携によるD X人材養成）」は、D X人材を養成するための産学官金連携に基づくものである。このプログラムは、昨年度事業「産学官金連携による「ふくい型アプレンティス」プログラム（D X人材養成）」及び一昨年度事業「産学官金連携による「ふくい型アプレンティス」プログラム（企業 I T人材養成）」にて実施された同様の事業の成果を基に、地域のニーズにさらに焦点を当てブラッシュアップし、これを反映させた内容で構成されている。

①本事業の一昨年度事業である「産学官金連携による「ふくい型アプレンティス」プログラム（企業 I T人材養成）」の設計にあたって

福井大学では令和元年のリカレント教育実施に至るニーズ調査（地域企業において必要な人材の調査）など地域ニーズの把握に努めてきた。ニーズ調査は、福井大学同窓経営者の会会員企業、福井大学産学官連携本部協力会会員企業に對し行った。その後となる一昨年度事業の公募が行われた際、主な受講者を企業社会人から失業者・転職希望者へ変更した場合における企業ニーズ調査（地域企業が新たに採用したい人材の調査）を行い、一昨年度事業の提案に至った。

(令和元年) 11 月 12 月	定例会でリカレント教育に係るアンケート調査実施の承認 アンケート依頼（同窓経営者の会、産学官連携本部協力会計 346 社） アンケート調査の取りまとめ（資料 3－1 参照）
(令和 2 年) 2 月 6 月 10 月 11 月	アンケート結果も踏まえ、同窓経営者の会と大学役員がリカレント教育の進め方を協議 リカレント教育の推進について、総会です承 定例会において、全国的にも著名な講師を招き、D Xとは何か、何故、今、求められるのかについて講演会開催、講演終了後にアンケート調査実施（資料 3－2 参照） 同窓経営者の会と大学関係者、企業も交えて、D X関連リカレント教育の進め方について協議
(令和 3 年) 3 月 4 月 7 月	リカレント教育事業の推進に先立ち、デジタル化やD X関連のワークショップを開催し、各企業において解消したいと考える具体の業務課題を収集 大手電機メーカーと IT 教育推進・地域ニーズに関する打合せ 地域 IT 教育企業と IT 教育推進・地域ニーズに関する打合せ 福井労働局・ハローワークと連携・地域ニーズに関する打合せ（資料 3－

8 月	3 参照) 福井県情報システム工業会と地域ニーズに関する打合せ
-----	------------------------------------

資料 3-1：福井大学の将来像設計にあたっての企業経営者へのアンケート調査 (令和元年 12 月 16 日、関係箇所のみ一部抜粋)

本アンケート調査は、今後10年間の社会変化を見越して、本学の役割や機能、そのための組織・規模を検討するにあたり、県内外の関連企業346社の経営者に対し、人材育成や研究等に係るニーズ把握のために、令和元年11月に実施したもので、101社から回答があった。

1. リカレント教育(社会人の学び直し)についてお尋ねします。

- ① 福井大学では、社会人の方を対象としたリカレント教育(社会人の学び直し)に、今後、力を入れていく予定です。御社におかれまして、福井大学を活用して社員や職員の教育を行おうと考えられた場合、どのような分野、内容を希望されますか？(複数選択可)

(結果概要)リカレント教育の希望分野について、「AIやIoT、ICT関連」分野が最も多く、約7割の企業がこの分野の教育を希望している。また、「経営学等のマネジメント関連」についても、約半数の企業が希望しており、マネジメント人材の教育についても関心が高い。次いで、多様性が必要とされる今後に向けて、「様々な分野の基礎関連」が多く、また、海外展開企業が多い福井県の地域性を反映して、「語学・コミュニケーション関連」や「海外情勢や海外事業関連」の分野に関心が高い。

	(回答数)	
AIやIoT、ICT関連	72	71.3%
経営学等のマネジメント関連	50	49.5%
知的財産関連	23	22.8%
MBA・社会保険労務士といった資格取得関連	13	12.9%
語学・コミュニケーション関連	30	29.7%
海外情勢や海外事業関連	20	19.8%
様々な分野の基礎関連	35	34.7%
医療・福祉系の基礎関連	5	5.0%
その他	2	2.0%

- ・まず福大の強みとしてのリカレント教育がどこにあるのかを教えてください。
- ・工学部機械科で学習するような基礎知識
- ・専門分野(有機化学)

- ② リカレント教育に社員や職員の方を派遣しようとする動機についてご記入ください(複数選択可)。また、その分野についてもご記入ください。

(結果概要)リカレント教育を受けさせたいと考える動機について、「現状の担当分野の基礎知識の向上」の回答数が最も多く、回答企業数の半数以上となっている。また、分野についても、①での回答と同様に、「AI、IoT、ICT関連」分野が多い。次に多かった動機は、「専門知識の向上」であり、その分野も「AI、IoT、ICT関連」であり、多くの企業が「Society 5.0とIndusutroy 4.0への対応を課題と捉えている」。

(回答数)	
現状の担当分野の基礎知識の向上	58 57.4%
分野	<ul style="list-style-type: none"> ・AI、IoT、ICT関連(7) ・ビッグデータ ・ソフトウェア(2) ・経営、経営層(2) ・管理職のマネジメント教育 ・EC事業、管理業務 ・従業員の問題意識、目的意識にもとづく分野 ・開発職における知的財産権に関わるもの ・知的財産(2) ・製造・営業 ・語学(2) ・工学系基礎知識 ・電気工学 ・機械工学 ・機械製造 ・建築・土木に関する知識や資格勉強 ・建築学 ・繊維(ニット)工業 ・医療系基礎知識 ・医療、福祉 ・金融全般 ・体系的に知識を習得出来ていない
現状の担当の分野外の基礎知識の向上	37 36.6%
分野	<ul style="list-style-type: none"> ・AI、IoT、ICT関連(6) ・経営学等のマネジメント ・経営学(2) ・経営として戦略を考える基本知識不足 ・MBA・社会保険労務士といった資格取得関連 ・MBA・経営学 ・知的財産 ・製造・営業 ・語学 ・語学力が弱い人がほとんど ・語学・コミュニケーション関連 ・グローバル人材の育成 ・海外事業強化 ・海外情勢や海外事業関連(2) ・オフショアに向けてグローバルな知識向上 ・従業員の問題意識、目的意識にもとづく分野 ・様々な分野の基礎知識 ・具体的にないが視野を広げるため ・温暖化防止の基礎知識

専門知識の向上	46 45.5%
分野	<ul style="list-style-type: none"> ・AIやIoT、ICT関連(9) ・自動化、省力化 ・日々進化するデジタル技術 ・経営学(2) ・マネジメント関連(3) ・経営及びマネジメント力向上(2) ・管理者・後継者育成 ・従業員の問題意識、目的意識にもとづく分野 ・知的財産関連(3) ・法務、労務 ・社会保険労務士等の資格取得(2) ・社会保険労務士 ・語学・コミュニケーション関連(2) ・海外情勢や海外事業関連 ・繊維(ニット)工業 ・材料(新規) ・有機化学 ・半導体製造(組立)の効率化、材料ごとの特性と生産性の向上 ・物理学の部門 ・ファクトリーオートメーション制御システムの設計 ・機械設計 ・機械加工 ・機械設計、部品製作(SUS)、機械組立 ・電気・電子設計 ・ソフトウェア設計 ・CFRPIによる軽量化成形技術及び性能評価方法 ・生産工学、統計的手法を含む生産性向上関連 ・工学 ・マテハン ・社会資本(公共施設)整備分野 ・工務部局
定年後に備えた社員のスキル、能力等向上の支援	3 3.0%
分野	
その他	3 3.0%
分野	<ul style="list-style-type: none"> ・営業分野における様々な顧客とのコミュニケーション ・後継者育成 ・現状は派遣しようと考えていません。ただ、コミュニケーション能力が低い社員が多いと感じているため①は回答しています。 ・まず、現在、どのようなカリキュラムをお考えですか。

資料３－２：福井大学同窓経営者の会のリカレント教育(社員教育)についてのアンケート調査結果（令和２年１０月２９日、関係箇所のみ一部抜粋）

１－１ 企業におけるＤＸに関する学び

Ｑ１ 上記のような学びに興味がありますか。

業種１	県内外	①参加したい	②興味がある	③興味が無い	④その他
１ 建築・建設	１ 県内企業			6	1
	２ 県外企業		1	2	1
２ 製造	１ 県内企業			7	1
	２ 県外企業		1		1
３ その他	１ 県内企業			2	
総計			2	17	4

Ｑ２ 経営課題の解決等のために、どのようなテクノロジーに興味がありますか。（複数選択可）

業種１	県内外	①クラウドサービス	②ＩＯＴ	③ＡＩ	④その他
１ 建築・建設	１ 県内企業		4	3	4
	２ 県外企業		2	4	2
２ 製造	１ 県内企業			5	5
	２ 県外企業		2	1	2
３ その他	１ 県内企業		1	1	2
総計			9	14	15

１－２ 企業における社員のデジタル化スキルの底上げに関する学び

Ｑ１ イ. その際の課題（複数選択可）

業種１	県内外	①方法が分からない	②業務の見直しが分からない	③ＳＥに頼りきり	④学ばせ方が分からない	⑤マンパワー・予算不足	⑥その他
１ 建築・建設	１ 県内企業	3	3	2	4	4	1
	２ 県外企業	3	1	1	1	1	
２ 製造	１ 県内企業	2	3	4	3	3	
	２ 県外企業	1		1	1	1	
３ その他	１ 県内企業				1	1	
総計		9	7	8	10	10	1

Ｑ２ デジタル化を進めるに当たり、経営者や社員の方が必要な知識やスキルを学ぶことが出来るとしたら、どのような内容・方法を希望されますか。（複数選択可）

業種１	県内外	①基礎から	②全体をモデル的に	③企業グループでケースディ	④オーダーメイド型	⑤セミナー・ワークショップ	⑥オンデマンド	⑦土日利用
１ 建築・建設	１ 県内企業	1	2	3	3	1		1
	２ 県外企業	1	1	2	1	2	2	1
２ 製造	１ 県内企業	1	4		3		2	
	２ 県外企業	1	1					1
３ その他	１ 県内企業			1			1	
総計		4	8	6	7	3	5	3

Q 3 上記の学びはどのような方を対象にしたいと考えておられますか。(複数選択可)

業種 1	県内外	①経営者や 幹部職員	②中堅職員	③若手職員	④その他
1 建築・建設	1 県内企業	6	3		3
	2 県外企業	3	2		
2 製造	1 県内企業	2	5		3
	2 県外企業	1	2		
3 その他	1 県内企業	1	1		1
総計		13	13		7

資料３－３：地域企業が求める職種と有効求人倍率について
(県内のある地域のハローワークのデータ（抜粋）)

職種別有効求人・求職状況(令和３年６月)

フルタイム			職 種	パート		
有効 求人数	有効 求職者数	求人倍率		有効 求人数	有効 求職者数	求人倍率
1,106	686	1.61	職 業 計	1,505	592	2.54
3	5	0.60	A 管理的職業	0	0	-
213	66	3.23	B 専門的・技術的職業	41	36	1.14
10	3	3.33	07 開発技術者	0	0	-
20	15	1.33	08 製造技術者	0	4	-
66	6	11.00	09 建築・土木技術者等	0	2	-
23	7	3.29	10 情報処理・通信技術者	0	2	-
5	0	-	12 医師、薬剤師等	3	0	-
36	9	4.00	13 保健師、助産師等	15	7	2.14
11	2	5.50	14 医療技術者	5	4	1.25
1	3	0.33	15 その他の保健医療	2	2	1.00
28	5	5.60	16 社会福祉の専門的職業	12	11	1.09
6	9	0.67	22 芸術家、デザイナー等	1	1	1.00
4	6	0.67	05 06 17～21 23 24 その他の専門的職業	3	3	1.00
91	124	0.73	C 事務的職業	56	87	0.64
58	108	0.54	25 一般事務員	27	81	0.33
8	6	1.33	26 会計事務員	1	2	0.50
14	5	2.80	27 生産関連事務員	22	2	11.00
9	1	9.00	28 営業・販売関連事務員	3	1	3.00
2	1	2.00	30 運輸・郵便事務	2	0	-
0	3	-	31 事務用機器操作の職業	1	1	1.00
134	26	5.15	D 販売の職業	695	14	49.64
82	11	7.45	32 商品販売の職業	695	13	53.46
20	2	10.00	33 販売類似の職業	0	0	-
32	13	2.46	34 営業の職業	0	1	-
148	50	2.96	E サービスの職業	125	64	1.95
55	22	2.95	36 介護サービスの職業	45	20	2.25
13	2	6.50	37 保健医療サービス	4	0	-
14	0	-	38 生活衛生サービス	12	0	-
20	16	1.25	39 飲食調理の職業	24	27	0.89
33	9	3.67	40 接客・給仕の職業	33	11	3.00
1	0	-	41 居住施設・ビルの管理	1	2	0.50
2	1	2.00	42 その他のサービス	6	4	1.50
17	7	2.43	F 保安の職業	0	6	-
14	7	2.00	G 農林漁業の職業	14	5	2.80
179	112	1.60	H 生産工程の職業	68	33	2.06
8	3	2.67	49 生産設備（金属）	0	0	-
15	2	7.50	50 生産設備（金属除外）	3	2	1.50
12	0	-	51 生産設備（機械）	0	0	-
36	10	3.60	52 金属材料製造等	4	2	2.00
43	25	1.72	54 製品製造・加工処理	50	16	3.13
21	2	10.50	57 機械組立の職業	0	1	-
12	9	1.33	60 機械整備・修理の職業	0	0	-
2	1	2.00	61 製品検査（金属）	2	0	-
7	4	1.75	62 製品検査（金属除外）	8	2	4.00
3	4	0.75	63 機械検査の職業	1	1	1.00
20	52	0.38	64 生産関連・生産類似	0	9	-
115	23	5.00	I 輸送・機械運転の職業	14	11	1.27
77	17	4.53	66 自動車運転の職業	10	7	1.43
0	0	-	67 船舶・航空機運転	0	0	-
6	2	3.00	68 その他の輸送の職業	1	0	-
32	4	8.00	69 定置・建設機械運転	3	4	0.75
107	6	17.83	J 建設・採掘の職業	1	0	-
6	0	-	70 建設総体工事の職業	0	0	-
13	0	-	71 建設の職業	1	0	-
18	2	9.00	72 電気工事の職業	0	0	-
69	3	23.00	73 土木の職業	0	0	-
85	59	1.44	K 運搬・清掃等の職業	491	143	3.43
51	32	1.59	75 運搬の職業	104	11	9.45
9	4	2.25	76 清掃の職業	73	25	2.92
2	1	2.00	77 包装の職業	7	5	1.40
23	22	1.05	78 その他の運搬等の職業	307	102	3.01
0	201	-	分類不詳の職業	0	193	-

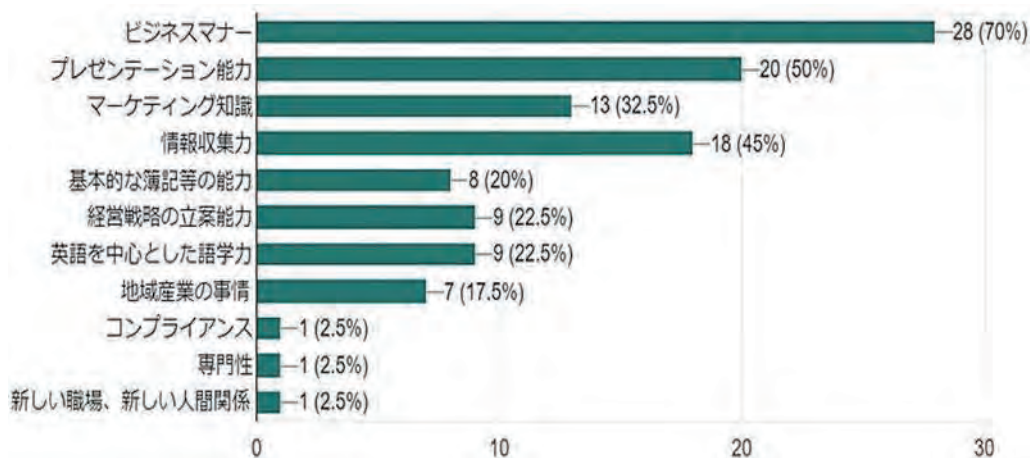
②昨年度事業「産学官金連携による「ふくい型アプレンティス」プログラム（D X人材養成）」の設計にあたって

昨年度事業の設計においては、一昨年度の内容をベースとしつつ、受講者側のニーズについては一昨年度事業の受講者の生の声、ならびにアンケート結果をもとに、また企業ニーズについては一昨年度事業同様に聞き取り調査とアンケート調査を実施した。

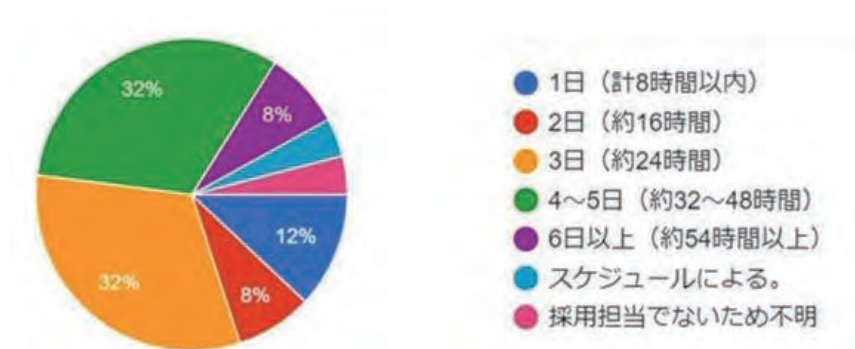
(令和3年)	
10月	「産学官金連携による「ふくい型アプレンティス」プログラム（企業IT人材養成）」の授業期間開始
11月	受講者に中間アンケートを実施
12月	受講者に最終アンケートを実施
(令和4年)	
3月	地域企業に対しアンケートを実施（資料3-4、3-5参照）
4月以降	労働局、ハローワーク、福井県、地域企業等に、昨年度に続き本事業への協力依頼を行うとともに、ヒアリングを実施

資料3-4：地域企業へのアンケート結果

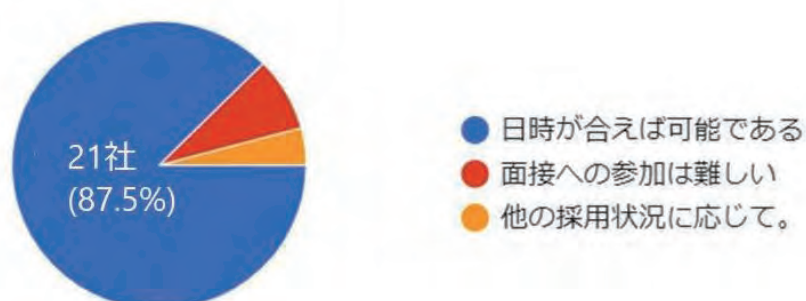
[地域企業が中途採用者に期待する汎用的なスキル]



[中途採用候補者のインターンシップ受け入れ可能日数]



[中途採用者をインターンシップ受入可とした地域企業の面談参加可否]



資料３－５：地域企業へのアンケート

リカレント教育受講者受入に関するアンケート

本学では2021年10月から2カ月間、失業者や転職希望者を対象として「サイバーセキュリティ」「システム開発」の2つのコースを設置し150時間以上の授業を実施しました（インターンシップ含）。今後の大学リカレント教育に関する事業についての検討を進めるにあたり、企業様のご意見やご要望をお聞かせください。

回答先 <https://forms.gle/JAgAn1STyF2QLLK16>



（QRコード）

上記のオンラインでのご回答が難しい場合、本日終了時にこの用紙に記載の上、ご提出ください。

*必須項目です。

御社名（貴団体名） *

ご回答者所属部署（ご役職等）・お名前 *

1. 御社（貴団体）が採用検討を前提とした場合、リカレント教育受講者に対し、「期待される学びの内容」をすべてご選択ください。 *

- ☐ サイバーセキュリティ（情報を扱ううえで必要な知識）
- ☐ サイバーセキュリティ（突発的な事象に対するインシデント対応）
- ☐ システム開発（自社システム受発注や管理担当者としての全体像の把握）
- ☐ システム開発（特定の言語でコードが書けるなどの専門性）
- ☐ データサイエンス（データを用いて新たな科学的および社会に有益な知見を引き出そうとするアプローチ）
- ☐ DXに関する知識（情報技術の普及・浸透による「社会のデジタル化」がもたらす組織や社会の変革）
- ☐ 電子商取引（インターネット上などにおけるマーケティングの知識）
- ☐ 上記にはない（他の内容の場合は下記「その他」をご選択の上ご記入ください、具備すべき基本スキルのほうが大切な場合は「次の設問」でご回答ください）
- ☐ その他: _____

2. 御社（貴団体）が採用を前提とした場合、リカレント教育受講者が「基礎的なものとして学んでおくべき内容」をすべてご選択ください。 *

- ☐ ビジネスマナー
- ☐ プレゼンテーション能力
- ☐ マーケティング知識
- ☐ 情報収集力
- ☐ 基本的な簿記等の能力
- ☐ 経営戦略の立案能力
- ☐ 英語を中心とした語学力
- ☐ 地域産業の事情（福井県、北陸地方）
- ☐ その他: _____

3. 御社（貴団体）では 2022 年度に中途採用（第二新卒採用を含む）をされる予定はございますか？ *

- ☐ する予定である
- ☐ 予定はない
- ☐ その他: _____

4. 「中途採用をされる予定がある」企業・団体様は、本質問にご回答ください。このような学び

をする受講者を、御社で 3 日間程度の就業体験として受け入れていただける可能性はありますでしょうか？

- ☐ 中途採用でも積極的にインターンシップを受け入れる予定である。
- ☐ インターンシップを受け入れることの検討が可能である。
- ☐ 中途採用の面接は可能であるが、インターンシップを受け入れる予定はない。
- ☐ その他: _____

5. インターンシップについて、「受け入れ予定」または「検討が可能」である企業・団体様は、本質問にもご回答ください。就業体験の受け入れとして適切だとお考えの日数をお教えてください。

(1 日を 8 時間と想定し、2 日であっても各 4 時間の場合は 1 日とご回答ください)

- ☐ 1 日 (計 8 時間以内)
- ☐ 2 日 (約 16 時間)
- ☐ 3 日 (約 24 時間)
- ☐ 4～5 日 (約 32～48 時間)
- ☐ 6 日以上 (約 54 時間以上)
- ☐ その他: _____

6. インターンシップについて、「受け入れ予定」または「検討が可能」である企業・団体様は、本質問にもご回答ください。本事業では受講者を決定するに際し、受講希望者を事前に面接しております。その際に、インターンシップの受け入れ可能性をご判断いただくことを目的として、同面接にご臨席いただくことは可能でしょうか？

- ☐ 日時が合えば可能である
- ☐ 面接への参加は難しい
- ☐ その他: _____

7. 大学リカレント教育事業に関しまして、アドバイスやご要望、ご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

--

8. 最後に、本件に関して本学からご連絡を差し上げます際、窓口となっていただけます御社の部署名およびお電話番号、メールアドレス等をご記入ください。

窓口部署名

お電話番号

_____ () _____

メールアドレス

_____ @ _____

ご回答を誠にありがとうございました。

③本事業「「ふくい型アプレンティス」キャリア形成プログラム（産学官金連携によるDX人材養成）」の設計にあたって

本事業の設計においては、昨年度の内容をベースとしつつ、受講者側のニーズについては昨年度事業の受講者の生の声、ならびにアンケート結果をもとに、また企業ニーズについては昨年度事業同様に聞き取り調査を実施した。

(令和4年) 10月 11月 12月	「産学官金連携による「ふくい型アプレンティス」プログラム（DX人材養成）」の授業期間開始 受講者に中間アンケートを実施（資料3－6参照） 受講者に最終アンケートを実施（資料3－7参照）
(令和5年) 4月以降	労働局、ハローワーク、福井県、地域企業等に、昨年度に続き本事業への協力依頼を行うとともに、ヒアリングを実施

資料３－６：昨年度事業受講者に対する中間アンケート結果（要約版）
アプレンティス受講者アンケート（中間）結果

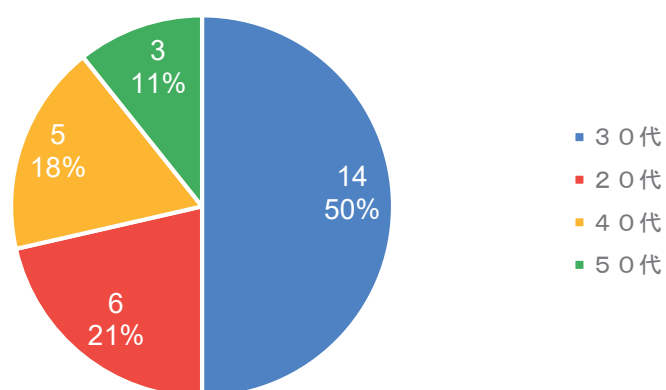
実施期間：令和４年１０月３０日～１１月９日

対象者：正規受講者３３名

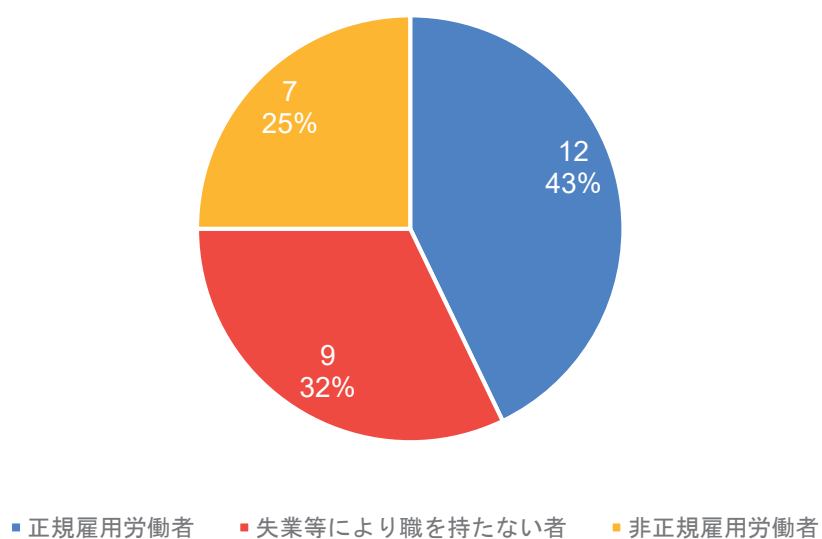
回答者数：２８名（回答率８４．８％）

実施形式：Google フォームを利用した Web アンケート方式

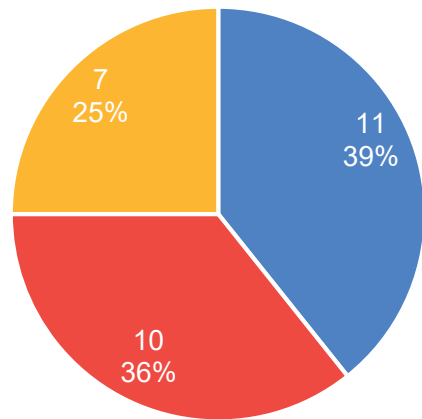
質問１．あなたの年代は？



質問２．あなたの受講申込時の就労状況は？

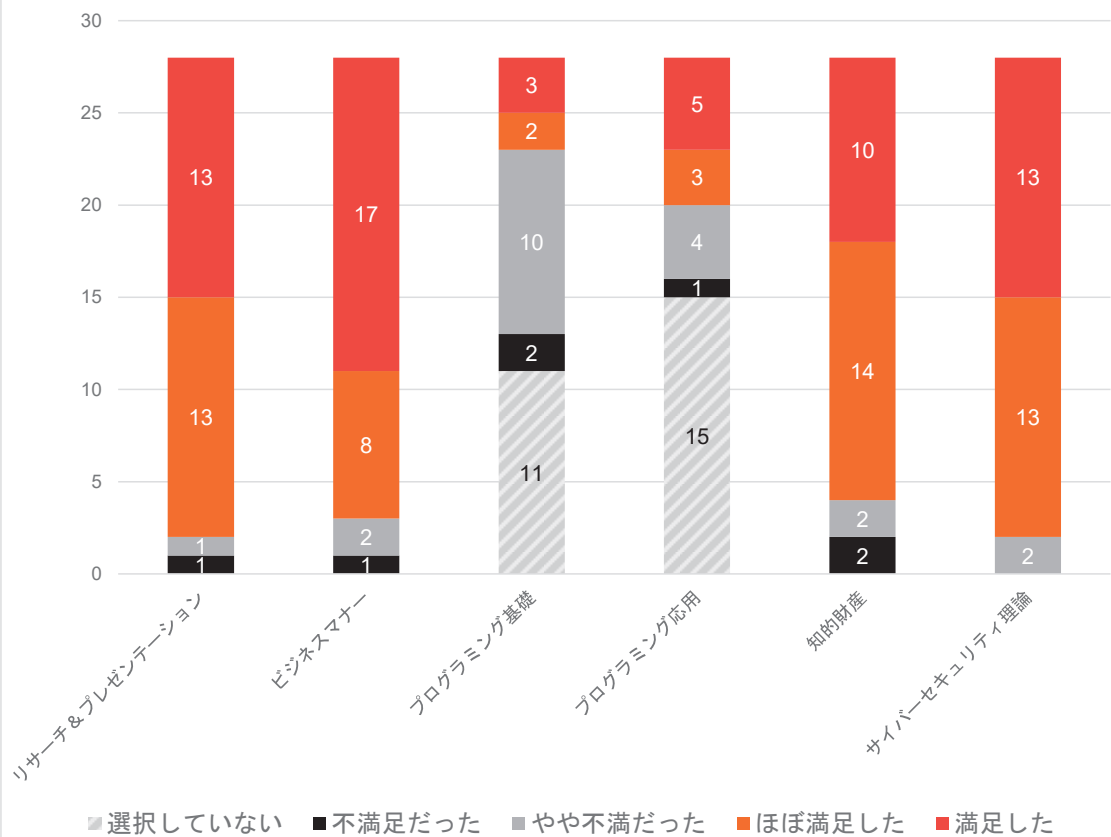


質問3. あなたの現在の就労状況は？



■ 正規雇用労働者 ■ 失業等により職を持たない者 ■ 非正規雇用労働者

質問4. 授業に対する満足度についてご回答ください。



■ 選択していない ■ 不満だった ■ やや不満だった ■ ほぼ満足した ■ 満足した

質問4-1、4-2.「満足した」「ほぼ満足した」を選んだ科目名とその理由をお書きください。(主な意見を抽出)

○リサーチ&プレゼンテーション

- ・実際自分で何か事業を始める時や、商品を開発するときなどにどのような手順で進めるといいのかわかり、すごくためになった授業でした。

○ビジネスマナー

- ・今更ビジネスマナーか、と全く期待していなかったが、講師の豊富な経験談と自分の性格判断など、私が新人時代と比べ全く違うビジネスマナー講義だった。40代だが参考になった。

○プログラミング基礎

- ・独学でやるよりも、わからないところは適宜質問で解決できるのでよかった。メールでの質問や、わからないところを授業外でのスライドや動画で親身に解説してくれてありがたかった。

○プログラミング応用

- ・分かりやすく説明し、できるだけ技術をたくさん教えることを重点にされていてよかったと感じた。

○知的財産論

- ・普段自分が何気なく使っているもの、目にしているものの権利について学ぶことができ、思わぬところで権利侵害してしまう可能性があるということを学び、気を付けようと思うことができました。

○サイバーセキュリティ理論

- ・苦手意識を持っている分野だったが、現代人として最低限知っておくべき知識ばかりでためになった。勉強の目的としても、社会人の最低限のスキルとしても、ITパスポートの試験を受けてみたいと感じた。

質問4-3、4-4.「不満足だった」「やや不満足だった」を選んだ科目名とその理由をお書きください。(主な意見を抽出)

○ビジネスマナー

- ・特に真新しい情報はなく、面白みに欠けた。マナーは必要ないとは思わないが、一方で日本企業の社内も昔よりもルールが緩くなり、実態とそぐわない教えもあるのではないかと感じる部分も多かった。

○プログラミング基礎

- ・講師の教え方はよかったけれど、もっと実技…実際プログラミングをする時間を増やしてほしい、もっと練習問題的なものがあったらよかった。プログラミングは言葉で聞くより場数を踏むものだと思っていたから、尚更そう思った。

○プログラミング応用

- ・仕組みや特徴もいずれ必要となる知識ではあるが、何か一つでも使いこなせる程度の指導を受けたかったのと、いろんな角度からの説明や方法の変更が多く、目の前の進捗状況とズレがあり混乱が生じた。

○サイバーセキュリティ理論

- ・授業が詰め込みすぎな感じがしました。

質問5. その他プログラムに関し、自由に意見をお書きください。（主な意見を抽出）

○プログラム内容、カリキュラム編成、スケジュール等

- ・休日みっちりの講義と出される課題で平日も忙しいですが、どの講義内容もすごく面白く（正直プログラム受ける前は、ビジネスマナーやプレゼンテーションはあまり期待していませんでした…）、現代社会において必須だと身に沁みて感じました。どの講師の方々も短い講義時間内に凝縮してたくさんの知識を教えようと、質問にも丁寧に答えてくれたり、充実した講義資料を準備してくださったりととてもありがたく感じます。11月からも引き続き頑張りたいです。
- ・最初はDXと関係あるの？という授業もあったが経験してみると新たな自分の側面にも気づき、仕事に対しても違う視点でみる癖ができた。ビジネスマナーの講義にあったように前回の振り返りを発表する方式は良い。1週間あとに発表しないといけないので授業で学んだ事を意識して行動するようになる。
- ・キャリア概論で復習することで、更に理解が深まり、他の人とのコミュニケーションをとるきっかけになっています。
- ・全てのプログラムに関して、日程的な事情だとは思いますが、詰め込みすぎに感じます。2ヶ月間とは言わず、3～4ヶ月かければ、より習熟度を増すことができると思います。

○授業環境等

- ・食事をするための別部屋を用意していただけてありがたいです。
- ・マイクを使用しない場合は、スクリーン側を向いて話されると、ほとんど聞き取れないことが時々ありました。
- ・ビジネスマナーのCクラス廃止による授業時間繰り上げ、とても助かりました。

○企業インターンシップと事業化可能性調査

- ・インターンシップをプログラムの一環として行うことに、どれだけ主催者が重点を置いて取り組んでいるのかが分からない。受講者と主催者側で重さの違いを感じる。インターンシップがその企業への就職につながる可能性があるのであれば、受講者に希望アンケートなどを実施してもらえれば、希望が通らなくとも納得できると思います。
- ・事業化可能性調査は外部講師の方々の説明が分かりやすく、普段できない経験をさせて頂けてとても為になっている。ついていくのが大変だがやりがいがある。

資料３－７：昨年度事業受講者に対する最終アンケート結果（要約版）

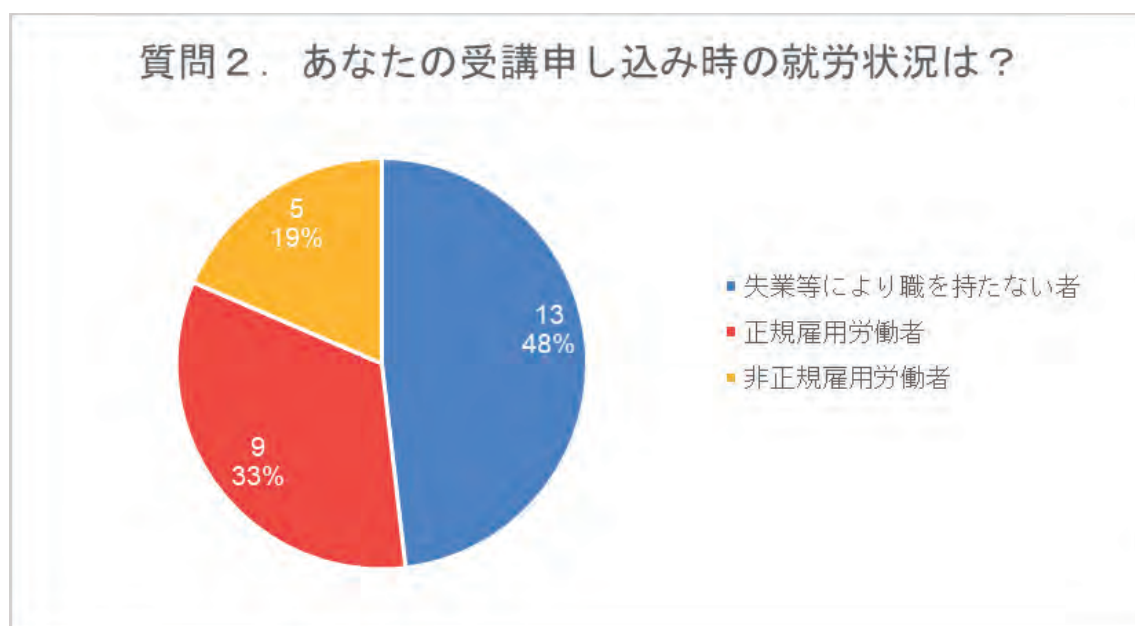
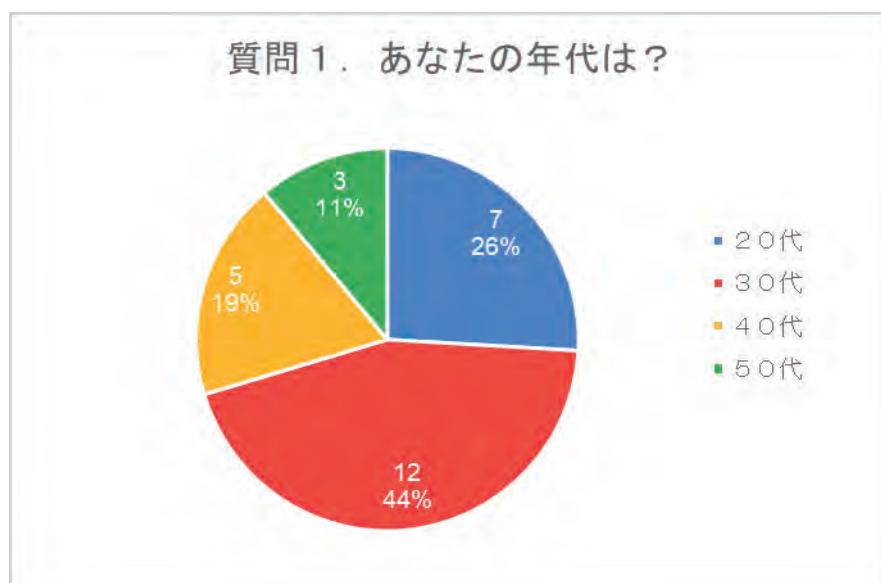
アプレンティス受講者アンケート（最終）結果

実施期間：令和４年１２月１９日～令和５年１月１０日

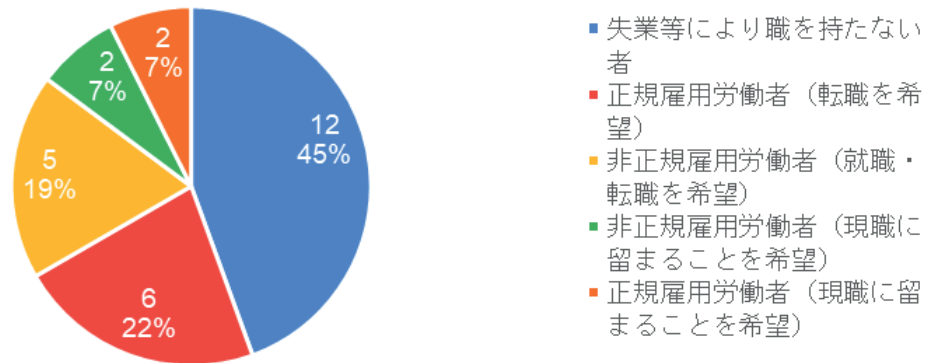
対象者：正規受講者 33 名

回答者数：27 名（回答率 81.8%）

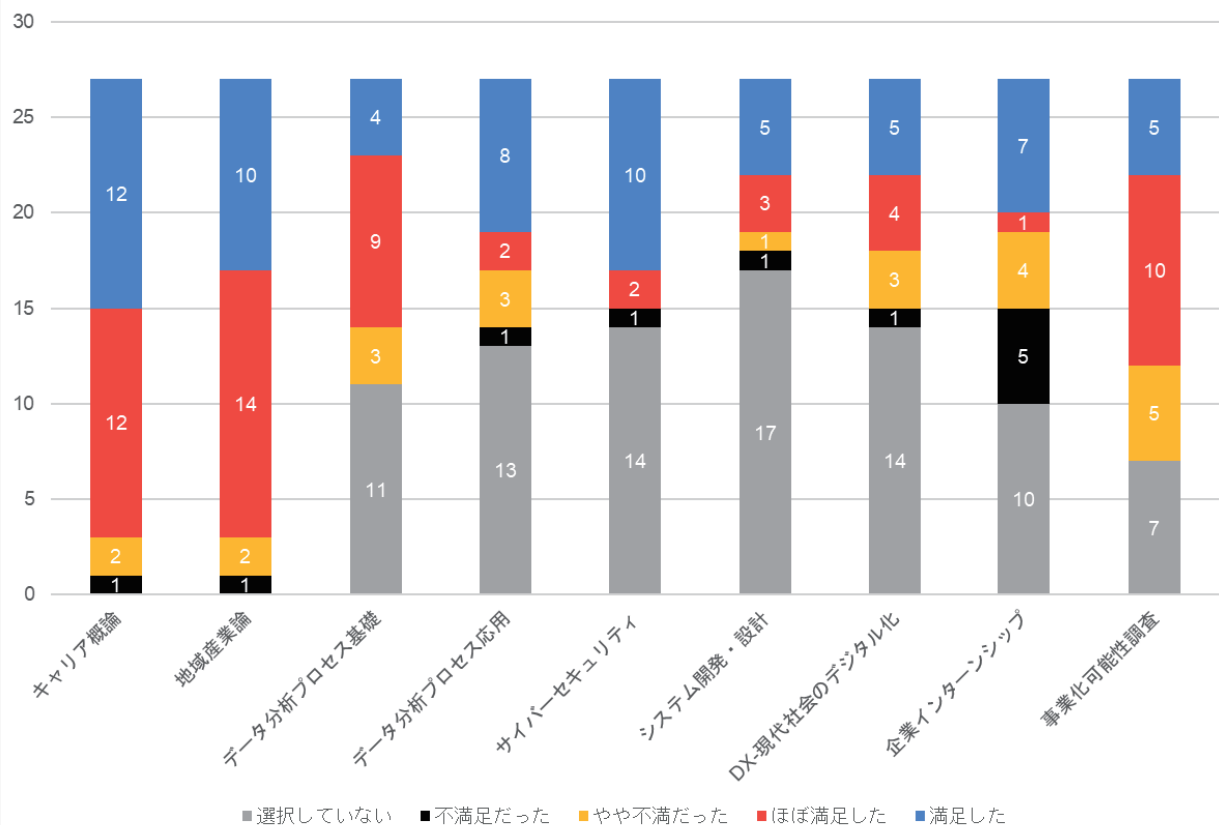
実施形式：Google フォームを利用した Web アンケート方式



質問3. あなたのプログラム終了時（11月末）
の就労状況は？



質問4. 授業に対する満足度についてご回答ください。



質問４－１、４－２.「満足した」「ほぼ満足した」を選んだ科目名とその理由をお書きください。(主な意見を抽出)

○全体

- ・全体を通して、よく練られたプログラムだったと実感した。

○キャリア概論

- ・少人数制で話しやすい雰囲気があり、宿題は多かったが、みんなの前で話す事や文章をまとめる力がついたと思う。インプットとアウトプットができる環境で、他の人の捉え方も異なりとてもいい経験になった。

○地域産業論

- ・県内の産業構造や問題点など、全体的なことを学べて、今後の就職に活かせると感じた。

○データ分析プロセス（基礎）

- ・データの分析方法について実際の統計やエクセルを使用した分析ができて今後仕事で使う事があれば役に立ちそうだった。

○データ分析プロセス（応用）

- ・データ分析のやり方を学べ、知識や視野が広がったと感じたため。

○サイバーセキュリティⅠ～Ⅳ

- ・非常に興味のある分野であり、面白かったから。サイバーセキュリティを理解するためには、ネットワークや OS 等の基礎知識が要るということも明確になり良かった。

○システム開発・設計Ⅰ～Ⅳ

- ・初心者が段階的に学べる内容で、良かった。講師の方も、わかりやすい説明だった。

○DX-現代社会のデジタル化Ⅰ～Ⅳ

- ・知識がほとんどない状態からでも分かりやすく、最終的には身近な問題解決の手段として活用するまで学ぶことが出来たため。

○企業インターンシップ

- ・普段は入ることが出来ない会社の企業の環境を見ることができ、そこで働く人に直接話を聞くことが出来たので、仕事に対するイメージが持ちやすくなりとても有意義だった。

○事業化可能性調査

- ・新規事業を考えるという特別な機会だったから。考え方を学べたことは経験として良かった。

質問４－３、４－４.「やや不満だった」「不満足だった」を選んだ科目名とその理由をお書きください。(主な意見を抽出)

○データ分析プロセス（応用）

- ・データ分析の一連の流れを体験はできたが、講義期間が短期間のため体験するだけで終わってしまったので、これとは別にデータ分析の基礎理論の講義もあるとよいと思う。また python でのデータ分析を行ったが、プログラミング応用でも python も扱うようにして連携が取れるとよい。

○DX-現代社会のデジタル化Ⅰ～Ⅳ

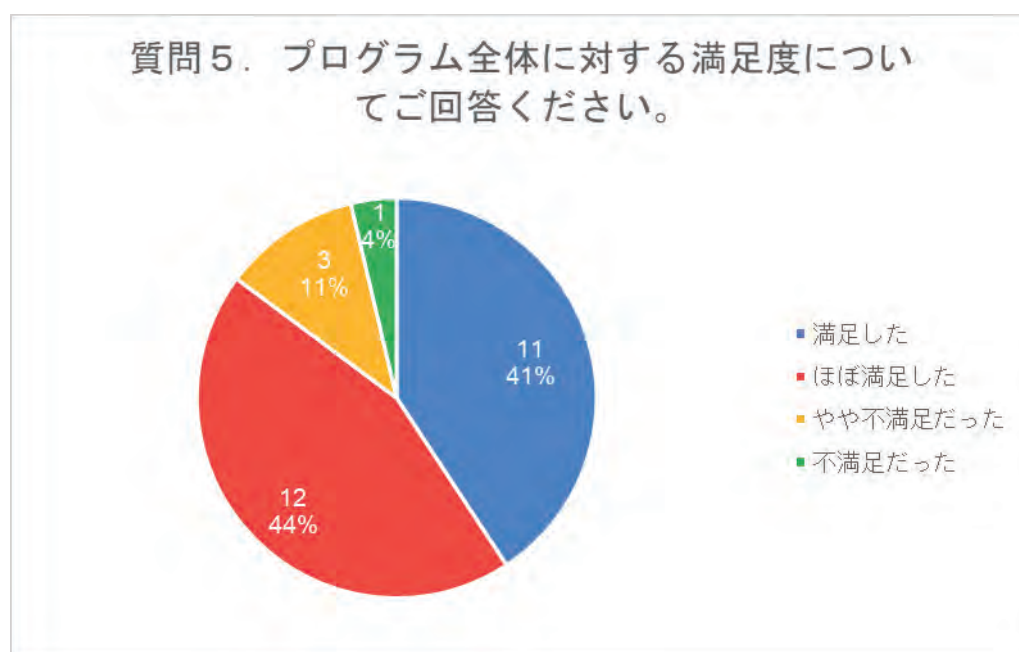
- ・どう膨らませていくかだが、より専門的な部分のウェイトを望んでいた。

○企業インターンシップ

- ・企業インターンシップに参加できなかったのが残念でした。企業の絶対数が足りていないのか、企業側とのマッチングが上手く働いていないのか、受講者側もインターンシップ先企業を複数の中から選択できるようにすべきである。

○事業化可能性調査

- ・講義中では、作業がほぼできず、自分たちでやりくりしてやらなければならない、仕事中に作業するしかなかった。



質問5-1、5-2. 「満足した」「ほぼ満足した」を選んだ理由をお書きください。（主な意見を抽出）

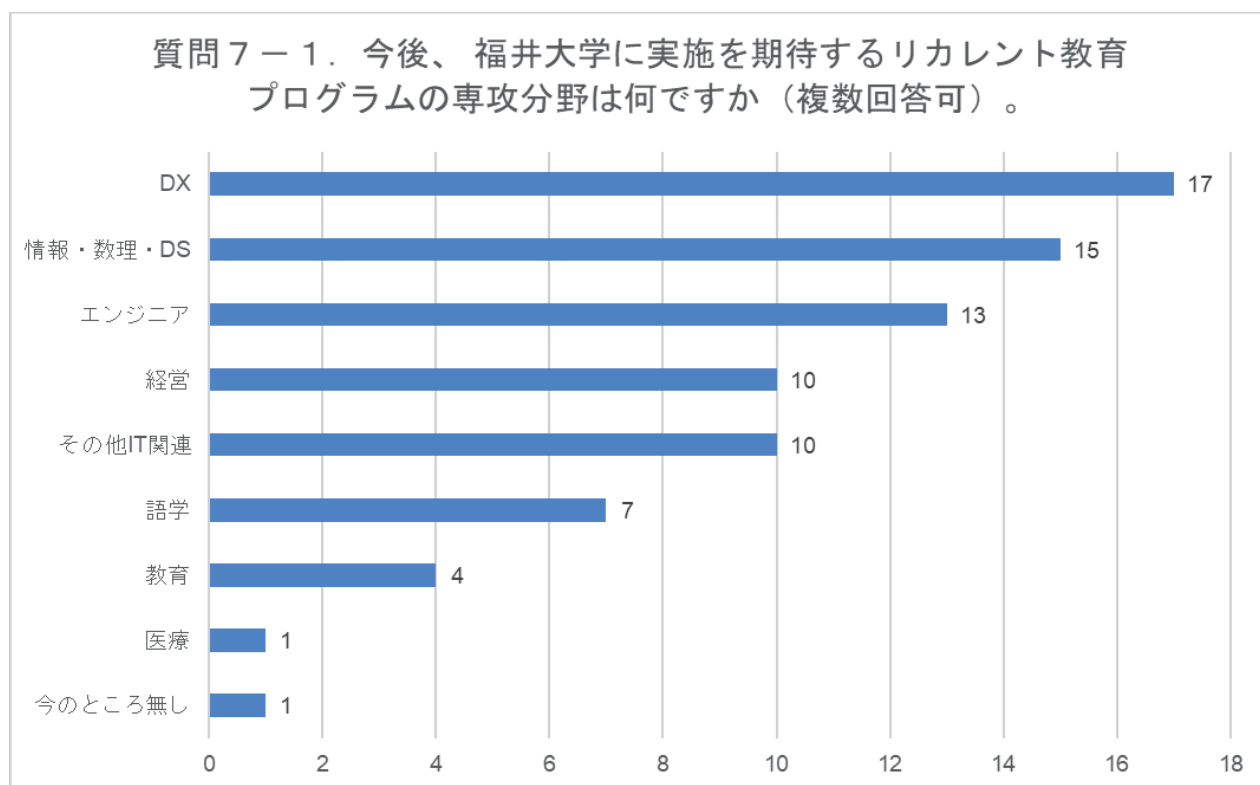
- ・講義内容は充実しており、各自、または受講生同士で議論して進める内容が多く、知識を得るだけでなく、学びを深め、今後に活かせる経験が多く得られた。
- ・今後を進む方向性を決めるきっかけとなった。自分のやりたいこと、もっと学びたいことを見つけられた。同じ目標を持つ仲間に出会えた。

質問５－３、５－４.「やや不満足だった」「不満足だった」を選んだ理由をお書きください。(主な意見を抽出)

- ・インターンがもう少し選択肢があると考えていたため。
- ・企業側が必要としている資格（IT パスポートや基本情報技術者等）が取得できるとか、疑似ではなく本当の実務（サーバやネットワーク構築、WEBプログラミングなど）が経験ができるようなプログラムを組み入れた方が有効だったのではないかとと思われる。企業側が求めている人材と本プログラムが育てる人材が、余りにも乖離しているのではないか。

質問６. その他プログラムに関しご自由にご意見をお書きください。(主な意見を抽出)

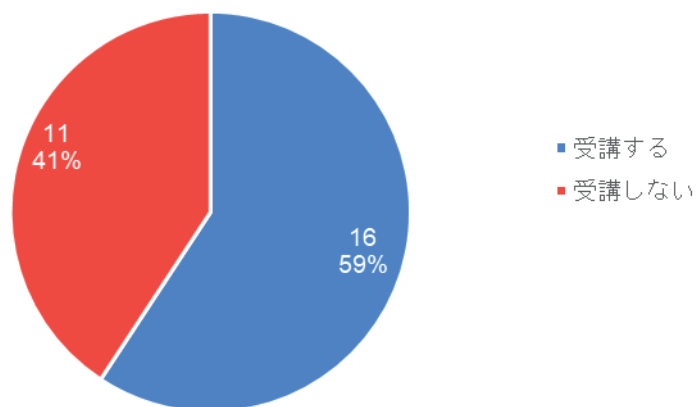
- ・素晴らしいプログラムだったので、ぜひたくさんの方が受講できるよう年に１度でなく、複数回開講されるのもありだと思いました。周囲の友人も、自分も参加したいと希望している方が多くおります。
- ・次年度以降もよりブラッシュアップされた本プログラムが開催され、福井大学がリカレント教育受講後再就職率ランキングでも、毎年全国１位になるように望んでいます。
- ・在職者には、スケジュールが非常にハードだった。日曜日は休みで、金・土曜日のみの開講など、ゆとりをもたせ、プログラムを３か月くらいの期間だとよいのではないかと感じました。



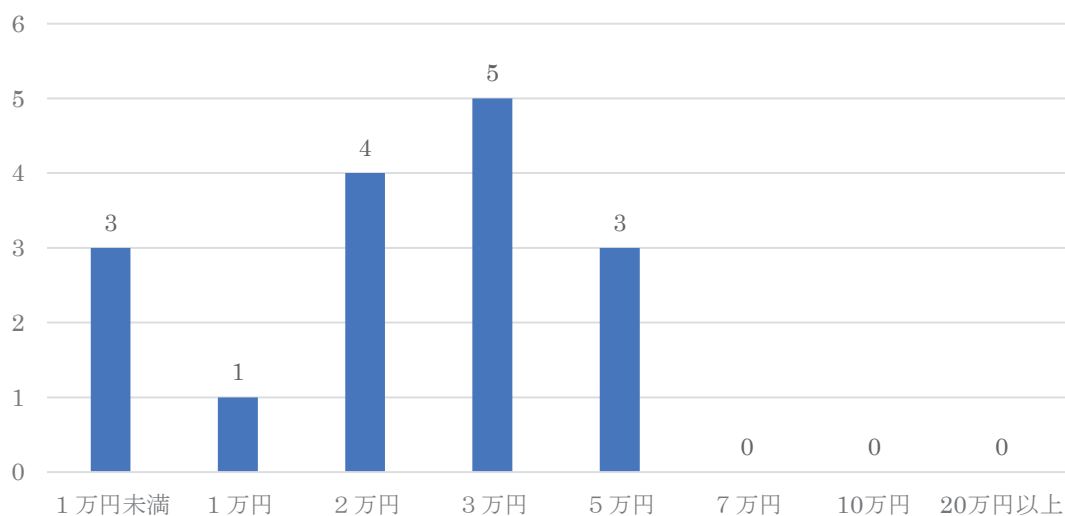
質問 7-2. 前の質問で、「その他 IT 関連」または「エンジニア」を選択された方は、具体的な分野についてご記入ください。（主な意見を抽出）

- ・サイバーセキュリティや、プログラミングなど
- ・ネットワークエンジニア、インフラエンジニア
- ・ウェブデザインやデータシステムなど
- ・福井の産業にあった、製造や農業系の開発

質問 8. もし、本プログラムが有料であった場合、受講されたと思いますか？



質問 9. 質問 8 で「受講する」と回答された方にお聞きします。いくらまでなら受講されますか？



(2) プログラムの趣旨・概要

本事業では、労働局・ハローワーク、福井県、企業、金融機関、県内大学等と連携協力して、令和5年10月、11月の2カ月間を就業活動前の教育期間として、選択必修科目を含め1人当たり128時間以上の教育プログラムを実施した。

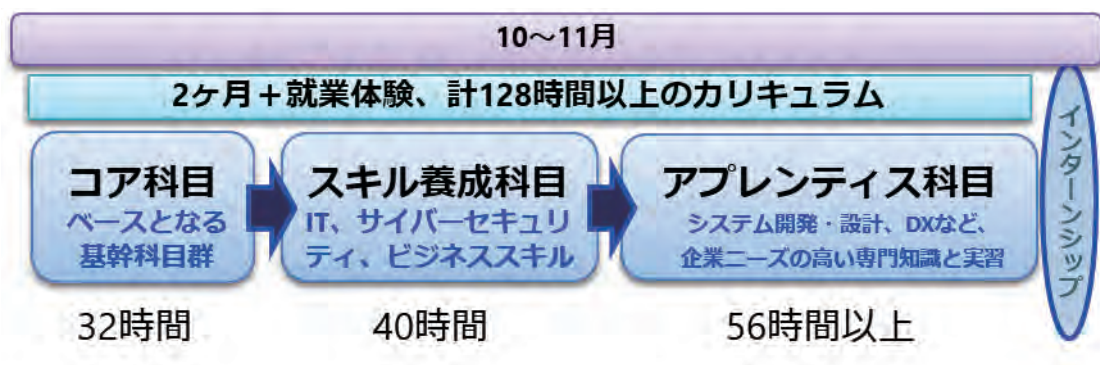


図3-8：カリキュラムの概念図

本教育プログラムでは米国のアプレンティス（Apprentice）制度に倣い、次のような方針でカリキュラムを設計した。

※アプレンティス（Apprentice）制度

「人々に仕事を与えたい。労働者の力で国を再建」をスローガンに米国トランプ政権が取り組んだ高度技術習得制度。過去の学歴等に関係なく、技術を一から学び、“Find Something New”を掲げ、新しいキャリア、新しい仕事を見つけることを受講者の目標とした。

(3) 輩出する人物像

大学・高専と、実務家教員や企業による授業を組み合わせ、全受講者がサイバーセキュリティやDXに関連する知識を学ぶとともに、専門的なシステム開発・設計またはDX（現代社会のデジタル化）に関する高度技術習得者となることを目標とした。30名の募集人員のうち、システム開発・設計コース、DX（現代社会のデジタル化）コースとして、それぞれ次のような人物像を目標とした。



図3-9：本事業が輩出する人物像

(4) 設置科目一覧

コア科目 32 時間、スキル養成科目 40 時間、アプレンティス科目 56 時間、別途 IT 基礎に関する動画を配置し、計 128 時間以上の科目と補講コンテンツを設置した。

		科 目	講義時間	講義形態	担当教員・実務家
コア科目	必修	キャリア概論	8	対面	福井大学地域創生推進本部 末・小嶋・竹本・勝木・坂井・舟木・鈴木 他
	必修	地域産業論	8	対面	福井大学国際地域学部、福井県（未来創造部） 峠岡 伸行 他
	必修	リサーチ&プレゼンテーション	8	対面	ジャートム株式会社 光成 章（実務家）
	必修	ビジネスマナー	8	対面	一般社団法人オルタナイト 松木 海穂（実務家）
スキル養成科目	必修	企業とデータサイエンス	16	対面	福井大学 長谷川 達人・井上 博行
	必修	プログラミング	16	対面	株式会社ビジュアルソフト 企業担当者（実務家）
	必修	サイバーセキュリティ	8	対面	福井工業大学経営情報学部 北上 真二
アプレンティス科目	選択 必修	アプレンティス演習： システム開発・設計	32	対面	株式会社アフレル 企業担当者（実務家）
		アプレンティス演習： DX（現代社会のデジタル化）			特定非営利活動法人エル・コミュニティ 企業担当者（実務家）
	選択 必修	アプレンティス実習： 企業インターンシップ	24以上	対面	福井大学地域創生推進本部 末・竹本・舟木
		アプレンティス実習： 事業化可能性調査			福井大学・国際ファッション専門職大学・青山学院大学 竹本 拓治・平松 隆円・林 拓也

※「アプレンティス演習」、「アプレンティス実習」はどちらか1科目選択

図 3-10：科目一覧

(5) 各科目の紹介

[コア科目]

キャリア概論

担当/末 信一郎・小嶋 啓介・竹本 拓治・勝木 一雄・坂井 博昭・舟木 幸雄・鈴木 梓

キラリと光る強みを持って、あなたのキャリアをより戦略的に！



プログラム全体では、「ビジネスの各場面」に必要なスキルとその土台となる知識から、「システム開発・設計」または「DX」の専門性までを身につける内容になっています。しかしそれらを習得したとしても、活かす場面がなければ、宝の持ち腐れになってしまいかもしません。一方で専門性を身につけたとしても、学校時代の学びが仕事に直結していないと感ずることがあるように、そのまま活かすことができる業種や職種は多くないかもしれません。しかしどのような仕事に就くにせよ、日々の業務をこなす中で、これらの知識が役に立つ場面もでてくる可能性があります。

この科目では、「キャリアの考え方」や「キャリアのデザイン」の学びを通じ、受講者みなさんが受講修了後も自身のキャリアを主体的に構築できることを目指します。

[コア科目]

地域産業論

担当/峠岡 伸行・福井県(未来創造部) 他

幸福度日本一を支えるのは産業の力！成長する福井の企業を知ろう！



福井県は「幸福度日本一」(日本総合研究所調査)とランキングされていますが、それを支えているのが「産業の力」です。福井県内には、日本のトップクラスの技術力を持ち、自動車や電子機器、航空宇宙産業などの先端産業を支える企業がたくさんありますが、そのほとんどが皆さんの普段の生活の中では出会わない企業です。このような成長する企業の実際の姿を知り、また今後の更なる成長に向けて必要とされている人材像についても知ることで、皆さんが将来、成長する企業の中で活躍する姿をイメージすることができます。

また、来年春に迫った北陸新幹線福井県内開業に向けた福井県の取り組みの紹介や県内産業への経済効果にも触れながら、仕事内容の変化についても考えます。

[コア科目]

(コア科目)

リサーチ & プレゼンテーション

担当/光成 章

データに頷かせ、説明で唸らせる。あなたの事業を「説得力」で切り開く！



どんな事業も、お客さまがいなければ成り立ちません。提供する製品やサービスを購入してもらうには、できるだけ優れたものを作り、それが優れていることを、お客さま(になりそうな人)にわかりやすく伝える必要があります。製品開発過程でお客さまの要望を正しく収集するリサーチ力と、製品の良さをわかりやすく伝えるプレゼンテーション力。これらの力に磨きをかけていきましょう。全4回。

1回目：マーケティングリサーチの有効活用

2回目：リサーチ計画

3回目：リサーチの実施と分析

4回目：レポートとプレゼンテーション

[コア科目]

(コア科目)

ビジネスマナー

担当/松木 海穂

また会いたい人になる。



知っているようで知らない、今さら人に聞けないのがビジネスマナー。ビジネスマナーを身につけていなければ、職場、取引先などに不愉快な感情を抱かせることがあります。また、ビジネス上、コミュニケーションが円滑に行われないと重大な問題にも繋がりがねません。相手に不愉快な思いをさせない、迷惑をかけないための基本ルールを理解した上で、直ぐに役立つ実践可能な応用編は、冠婚葬祭、接待マナーなど多岐におよび、必要不可欠な対人関係におけるスキルは強い魅力となり「また会いたい人」「選ばれる人」になります。知性、感性を併せもった表現力と存在感、人間力をも高めていくことを目指します。

1回目：出会った瞬間から始まる印象マナー 2回目：対話力マナー「選ばれる人になる」

3回目：良好な人間関係コミュニケーションマナー 4回目：これだけは知っておきたいTPOマナー

[スキル養成科目]

企業とデータサイエンス

担当／長谷川 達人・井上 博行



データから真実を見抜くための力。

現在、企業や国策などの様々なシーンでデータの重要性が説かれています。本講義では「データから真実を見抜くための力」を身につけるために、データの加工手法、集計手法、可視化手法、そして機械学習を用いた分析手法に関する説明をします。機械学習は人工知能(AI)技術の一種です。例えば、写真を入力として与え被写体が何かを自動で認識する技術や、売上のログ情報から顧客を自動でグループ分けする技術などがあります。受講後には、実社会にあふれるデータに対して、どのように集約することで、どのような課題改善が行えるのかといった、問題定義とその分析の一部が行えるようになります。

1回目：データハンドリング（データを収集・蓄積するための技術）

2回目：構造化データを扱う技術（Excelを用いた簡単な分析）

3回目：非構造化データを扱う技術（時系列データ解析と画像解析の基礎）

4回目：機械学習の基礎知識

データを正しく扱い、情報の宝を見つけよう。

ネット社会になり、様々なデータを容易に利用できるようになってきています。それらのデータから様々な情報を読みとり、ビジネスに利用したり政策立案に役立てたりすることが今後ますます重要になってきます。一方で、個人情報の流出などの問題が発生しており、データを扱う上での危険性を理解した上で、正しい倫理観を持ち合わせる必要があります。本講義では収集したデータを適切に処理し、それから様々なことを読み取る能力を身に着けることを目標とします。また、それらを安全に利用する方法についても触れます。具体的には、個人情報などを中心にデータの適切な扱い方、オープンデータなどの収集や可視化方法、情報の読み取り方などを学びます。

5回目：データと情報（データと情報の違い、可視化）

6回目：データ・情報の適切な扱い方、情報モラル

7回目：オープンデータの利用と統計手法による処理

8回目：多変量データやテキストデータの分析

[スキル養成科目]

プログラミング

担当/株式会社ビジュアルソフト



IT企業が語る「業界と仕事のリアル」 - 2つの開発手法を体験しITエンジニアを知る -

IT業界の第一線で活躍している講師が、実体験をもとにした切り口から講義を行います。実際に仕事で起きていることや感じていることを織り交ぜてお話しすることで、皆さんのIT業界への理解とイメージがより深まるような内容にしたいと考えています。

また、グループワークを交えた以下の開発体験を予定しています。

- 1 ノーコード開発ツールを用いたアプリ開発体験
- 2 Android開発環境でのアプリ開発体験

ノーコード開発とは、画面の作成や遷移などを直感的に操作することで、プログラミングの知識やスキルを持たない方でも短時間で開発を行うことが可能な手法です。

仕様書に従って開発を行うことで、システム開発の疑似体験をしていただきます。

その後、同様のアプリをプログラミングで開発していきます。

プログラミング言語は「Kotlin」、開発環境は「Android Studio」であり、実際のAndroidアプリ開発でも使用されているため、より実際の仕事に近い実践的な体験ができます。

サイバーセキュリティの知識と実践で企業活動を支えよう！



近年、サイバー攻撃やランサムウェアなどの様々なセキュリティ脅威が健全な企業活動を妨げるようになってきており、多くの企業が、これらの脅威に対処できるサイバーセキュリティ管理者を求めています。この科目では、実践的なサイバーセキュリティ管理者になることを目指して、サイバーセキュリティの基本的な考え方、暗号や認証などのセキュリティ基礎技術、企業におけるセキュリティ対策およびセキュリティ関連の法律について学びます。また、最先端のIoTやクラウド・コンピューティングのセキュリティに加えて、最近注目を集めているゼロトラスト・セキュリティについても学びを深めます。

第1回目：サイバーセキュリティの基本的な考え方

第2回目：セキュリティ基礎技術（暗号・認証）

第3回目：ネットワークセキュリティ

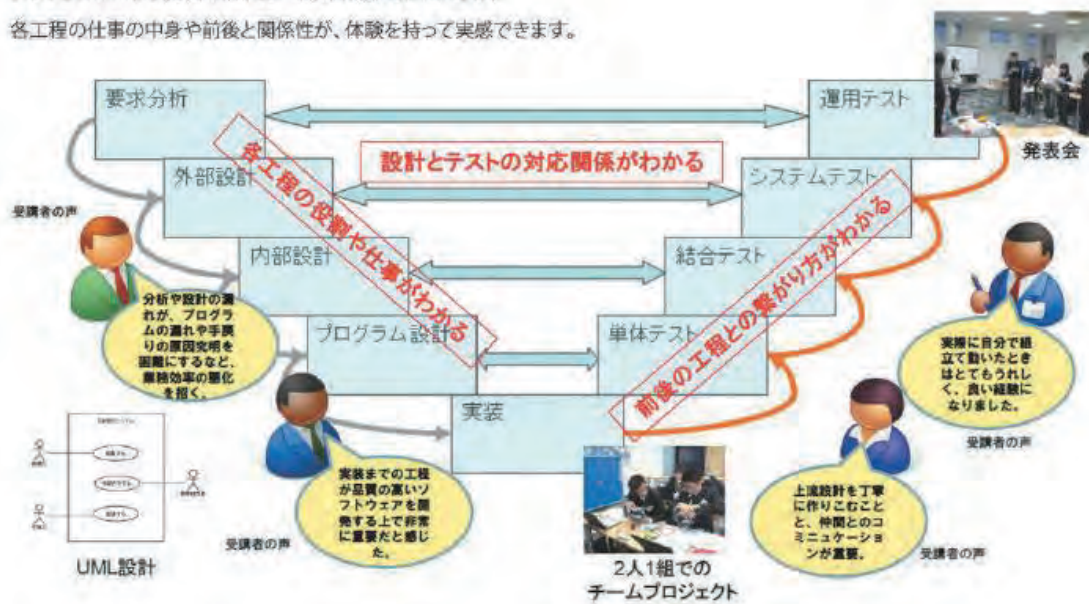
第4回目：セキュリティ対策と関連法律

ITスキル標準 (ITSS) : レベル1 およびレベル2 の一定領域を中心に扱う

 **Afrel**
株式会社 アフレル

- 1.各工程の役割や仕事がわかる。
- 2.前後の工程の繋がりがわかる。
例) 外部設計の担当者は、次工程である内部設計担当者がインプットとして欲しいモノを、アウトプットできる。
- 3.V字の設計部分と、テスト部分との対応関係がわかる。
例) テスト工程でほぼ白紙の「テスト項目表」を渡された場合、自身がまとめた設計ドキュメントから必要なテスト項目を抽出してテストを実施できる。

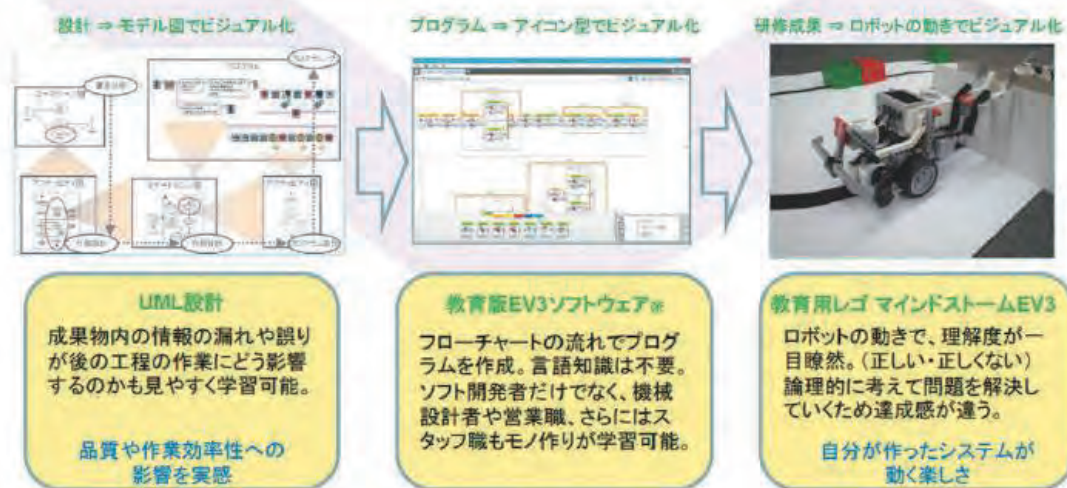
ソフトウェアによる開発の流れを一通り体験することにより、
各工程の仕事の中身や前後と関係性が、体験を持って実感できます。



ビジュアル化して、楽しみながら開発を理解する。

システム開発を俯瞰してみるための一つの例として、「ロボットを使って宅配業務を自動化する」システム開発を二人一組のチームで疑似体験します。モノを作り上げる喜びと達成感を得ることができ、また、ロボットを使い体験することでの自信と深い学びに繋がります。

実習・自動搬送システム開発



[アプレンティス科目]

DX（現代社会のデジタル化）

ITスキル標準（ITSS）：レベル2の領域を中心に扱う

実際にプログラムやIoTプロダクトをつくり、
知識とスキルを兼ね備えたDX 人材に。



目指すデジタル社会の姿

- 1 社会課題の解決や新たな価値・顧客体験の提供が迅速になされる。
- 2 グローバルで活躍する競争力の高い企業や世界の持続的発展に貢献する企業が生まれる。
- 3 資本の大小や中央・地方の別なく価値創出に参画できる。

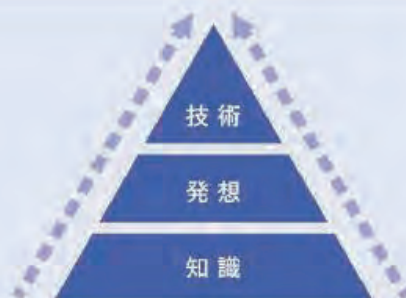


引用：経済産業省、「DXレポート2.1（DXレポート2追補版）～企業の変革を加速させるための課題や政策の方向性～（2021年8月）」
https://www.meti.go.jp/policy/digital_transformation/index.html

ポイント

知識を組み合わせる発想し、技術によって地域や企業の課題を解決できるDX人材育成を目指す。

- ハンズオン形式（体験学習）で、実際にコンピューターやプログラム、IoTプロダクトを作りながら学ぶ。
- 講座などのテーマや制作物に対して、より良くするためのアイデアを出しながら発想力を養う。



カリキュラム

1. 現代社会のデジタル化

DXの元となる現代社会の変化を確認して、必要なスキルの確認を行います。

2. コンピューター制作

プログラミング初学者向けパソコン「IchigoJam」を半田付けして実際に制作します。

3. プログラミング入門

IchigoJamのBASIC言語を使ったプログラミング入門講座を行います。

4. 計測と制御

IchigoJamにセンサーやモーターなどを接続し、プログラムによって計測と制御を行います。

5. ネットワーク

IchigoJamをインターネットに接続して通信プログラムを作成します。

6. IoT

IoTの事例紹介と簡単なIoTプロダクトの制作を行います。

7. Webアプリ入門

簡単なWebアプリの作成を行います。

8. シビックテック演習

自治体サービスや地域社会の課題に対して技術で解決するためのアイデアを出す演習を行います。



2. コンピューター制作



5. ネットワーク



8. シビックテック演習

[アプレンティス科目]

企業インターンシップ

担当/末 信一郎・竹本 拓治・舟木 幸雄

企業の雰囲気を経験してみよう！想定外の発見があるかも？



「最初は苦手」だと思っていたけど、そんな奴が「今の親友」などという話は時折耳にしませんか？人間関係は第一印象が大きく左右すると言いますが、話してみると印象が変わることがあるのも事実のようです。

企業と働く人の関係も同じかもしれません。知らないから「自分に合わない」と思い込んでいるのかも。

みなさんには、ぜひ積極的に、これまで関わってこなかった産業に属する企業にも興味を示していただきたいと思います。もちろん「第一印象で決めていました！」という企業があれば、そこを経験してみてもいいですね！

[アプレンティス科目]

事業化可能性調査

担当/竹本 拓治・林 拓也・平松 隆円

あなたは新規事業担当者！新部署を成功させるには？



日々の業績はそこそこ順調、しかしあなたが所属する会社では今の主力事業に先細りの可能性が…。そんなある日、あなたは企業の新規事業プロジェクトのメンバーに抜擢されました。

この科目では「5年後に自社事業の一部門としての存在感を出す」ことを目標として、福井県下の市場調査を踏まえ、新規事業計画を作成します。福井県の1企業を想定し、まずはその企業の現業の強みから新規事業をブレインストーミングします。想定企業にはヒアリングを行い、調査ではペルソナ（架空で想定する具体的なユーザー像）の設定、オープンデータ分析やアンケート調査等を駆使して、市場の可能性を探りましょう。事業準備までの工程、事業開始後の中期計画（ロードマップとよばれる予定）を作成し、授業で協議とブラッシュアップを重ね、ビジネスの成功確率を高めていきます。

①企業インターンシップと事業化可能性調査

就業体験として、アプレンティス科目アプレンティス実習の選択必修科目に位置付けている「企業インターンシップ」及び「事業化可能性調査」の受講については、原則として、職業に就いている者（非正規雇用労働者を含む）は、勤務時間中にインターンシップに参加しづらいことや、企業側にとって

他社の社員をインターンシップに受け入れることは機密情報の漏洩等の観点から支障があると考えられるため「事業化可能性調査」を受講させ、それ以外の者は「企業インターンシップ」を受講させた。ただし、「企業インターンシップ」受講者の受入先は、本学が募集した県内を中心とした受入可能な企業とのマッチング（書類選考、面談等）により決定するため、マッチングの結果、受入企業がない場合等は「事業化可能性調査」を受講させ、また、本来「事業化可能性調査」を受講することとなる者に対し「企業インターンシップ」受入を表明する企業がある場合は、マッチングの上、「企業インターンシップ」を受講させた。

（イ）企業インターンシップ

○講義内容・時間等

10 月中に「事業化可能性調査」受講者と合同で同授業を 12 時間受講し、11 月以降 12 月中旬頃までの平日を利用してさらに「企業インターンシップ」に 12 時間以上参加、合計 24 時間以上受講した。

○受入企業の募集

7 月 13 日（木）に福井大学産学官連携本部協力会会員企業（約 240 社）等に対し受入を依頼した結果、12 社から受入の承諾を得た。

資料 3－11：インターンシップ受入承諾企業（全 12 社）

企業名	所在地
株式会社アイビックス	福井市
井上商事株式会社	福井市
株式会社江守情報	福井市
小野谷機工株式会社	越前市
清川メッキ工業株式会社	福井市
株式会社 T A S	敦賀市
大和電建株式会社	福井市
株式会社天晴データネット	福井市
株式会社ビジュアルソフト	福井市
ファーストウッド株式会社	福井市
株式会社福井銀行	福井市
福井ネット株式会社	福井市

○受講者と受入企業とのマッチング

選考面接時に同席した受入承諾企業の担当者の意見（自社へのイン

ターンシップ受入の意思（ある、十分検討できる、難しい・ない）を尊重し、かつ受講者の経歴等も参考にして各受講者に最も相応しいと考えられるインターンシップ受入企業について本人の意向を確認し受入企業を決定した。なお、マッチングの結果、受講者 31 名中 9 名（全 6 社）が「企業インターンシップ」を受講することとなった。

○企業インターンシップ実施状況

「企業インターンシップ」は、11 月 14 日（火）を皮切りに順次開始され、12 月 19 日（火）をもって終了した。

受講者に対しては、プログラム開始前のオリエンテーション時に、受入企業への就職も視野に受講に当たっての心構え（このプログラムではどのようなことを学び、どのようなスキル・知識が身に付くのかを整理しておき、これまでの経歴・経験とを合わせてどのような部署・職で活躍できるのかを説明できるようにして臨むこと、また、過去の実例からみて、企業インターンシップ先への就業は、連動するものではなく、両者のベクトルが合致した場合に可能性があるのもので、そのような姿勢で臨むこと）を指導した。

終了後には、受講者に成果報告書の作成・提出を指示するとともに、受入企業側からの雇用選考への応募案内の有無等を報告させた。また、インターンシップ受入企業には終了後、受入証明書の提出を要請した。

資料 3-12：企業インターンシップ受入証明書

1. 受講者氏名		
2. 受入企業名		
3. 所在地（研修場所）		
4. 受入日時・時間・研修内容	日時・時間	研修内容
	月 日 時 ～ 時（時間）	
	月 日 時 ～ 時（時間）	
	月 日 時 ～ 時（時間）	
	月 日 時 ～ 時（時間）	
	合計 時間	

上記内容に相違ないことを証明する。

令和 年 月 日 担当部署・職名・氏名

○成果発表会の実施

「企業インターンシップ」は、成果発表とその内容について審査を受け認定するため、次のとおり成果発表会を開催し、成果報告書及び発表の内容を基に各クラス担当教員が審査するとともに、担当クラス以外の受講者についても相互に内容を確認した上で、成果報告書提出者9名全員の認定を行った。

資料3-13：成果発表会の概要

1. 日時
令和6年1月19日（金）
18時35分～19時10分
2. 場所
総合研究棟Ⅰ（西館）13階会議室（文京キャンパス）
3. 次第
 - （1）プログラム開発・事業実施責任者挨拶
 - （2）スケジュール
 - ①発表者
9名（システム開発・設計クラス4名、DX（現代社会のデジタル化）クラス5名）
 - ②方法
パワーポイント資料に基づき、一人2分の発表
 - ③順番（受入企業順（五十音順））
4. 参加者
 - ・事業責任者、事業副責任者、プログラム開発・事業実施責任者、事業実施委員会委員、キャリア概論クラス担任等
 - ・就業先・企業インターンシップ受入先企業の担当者
 - ・一昨年度、昨年度のプログラム修了者

資料3-14:「企業インターンシップ」成果報告書例

研修内容	印象に残ったことと得た成果・気づき
<p>◆ 1日目</p> <ul style="list-style-type: none"> ●9:00～ オリエンテーリング ●10:00～ 座学（情報セキュリティ） （Webについて） ●12:00～ 昼食 ●13:00～ 座談会（社長、常務、GM） ●14:30～ PCキッティング体験 ●15:55～ 1日目の振り返り、2日目の連絡 ●16:00 1日目の終了 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ PCキッティング作業 <ul style="list-style-type: none"> ✓マニュアルを使っでの作業の流れと順序だてた設定構築のやり方 ➢ JavaScriptを使っでのプログラミング <ul style="list-style-type: none"> ✓JavaScriptプログラミングと、わからない時の答えの出し方 ✓プログラミングをきちんと構築でき、成果を出せたときの達成感 ➢ IT現場に働いている人たちとのコミュニケーション <ul style="list-style-type: none"> ✓コミュニケーションの大切さ、IT現場の雰囲気
<p>◆ 2日目</p> <ul style="list-style-type: none"> ●9:00～ プログラミング体験（JavaScript） ●12:00～ 昼食 ●13:00～ プログラミング体験（JavaScript） ●14:00～ 発表準備 ●15:00～ 座談会（社員を交えて） ●15:30～ 発表 ●16:00 2日目終了 	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 銀行のグループ会社ということでお堅いイメージがあったが、雰囲気がよく風通しもよさそうで、いい意味でイメージと違った ➢ キッティング作業や、プログラミング体験で少しはIT現場の仕事に触れられて、本格的にIT現場で働きたいと感じた

(ロ) 事業化可能性調査

地域企業を多面的に分析の上、事業多角化の可能性を調査する PBL（プロジェクトベースドラーニング）授業である。経済成長、起業精神、革新の重要性を講義では強調し、ビジネスポテンシャルを評価するプロセスを受講生に講義、ワークショップ、実践的な演習が一貫した流れで含まれる。戦略の理解、新しいビジネスコンセプトの生成では、SWOT 分析や TRIZ 方法論などの分析ツールやフレームワークを用いて、革新的な思考と戦略的計画を受講生に促した。最終目標は、学生が実現可能な新しいビジネス機会を特定し、開発するスキルを身につけることである。

資料 3－15：授業スライドの一部

事業化可能性調査の概要		
STEP	日程	内容/具体的な取り組み
10月	10月14日	事業化可能性調査を実施する上での考え方の演習(林)
10月	10月21日	授業 ワークショップの説明 授業資料の作成から 科目の説明、10月30日のWS説明(竹本)
10月	10月28日	ワークショップの説明 ①対象企業の決定 多岐の質問に際しての必要性と可能性、将来的な成長性、資本余力などを検討する ②対象企業の強み、強み、機会、脅威の洗い出し 技術・商品・サービス・市場などを多面的に考察する ③対象企業の戦略を知る 全社戦略を把握したうえで、4につなげる事業戦略、製品戦略につなげる ④新事業コンセプトの作成 チーム(個人で取り組む場合も協力)で30アイデア以上を自由に数を出す ⑤アイデアの絞り込みと優先順位の設定 ⑥市場の成長性「や(競合他社の状況)「アイデアの実現性」について評価し決定する 事業化可能事業案を決定する上での考え方、事前の調査(平松)
11月	11月03日	講義 ワークショップの実践 ⑦マーケティングと仕組みづくり ⑧財務計画 各チームで対象企業を絞り、アイデア作成に取り組む ①から⑧の事業案を発表、教員より修正指導(竹本、林、平松)
7	11月	中間発表
8	11月	最終発表 ①から⑧までの事業案を発表、教員より修正指導(竹本、林、平松)

2 対象企業の強み、弱み、機会、脅威の洗い出し

SWOT 分析で的確な打ち手を！

内部環境	
強み (Strengths)	弱み (Weaknesses)
技術・商品・サービス・市場などを多面的に考察する	
外部環境	
機会 (Opportunities)	脅威 (Threats)

技術・商品・サービス・市場などを多面的に考察する

<https://www.i-nobori.com/media/1317>

3 対象企業の戦略を知る

企業がその行動(戦略)を決定し、実行し、評価するプロセスを扱う学問
→市場、競合他社、環境変化、自社財務、イノベーションなどの決定・実行・評価の繰り返し

多岐にわたる学際性のある領域
→全社戦略：資源配分、国際化・多角化
→事業戦略：事業部門単位での競争優位
→製品戦略：自社製品・サービスの優位性の追求
→機能戦略：マーケティング、研究開発などの機能別の戦略

全社戦略を把握したうえで、4につなげる事業戦略、製品戦略につなげる

40の発明原理

1. 分割 (Segmentation / Fragmentation)
2. 抽出 (抽出 / Removal / Extraction)
3. 局所化 (局所化 / Local quality)
4. 非対称性 (Asymmetry)
5. 組み合わせ (Combining)
6. 普遍性 (Universality)
7. 逆転 (Reversed structures)
8. 反対の作用 (Counterweight)
9. 先行作用 (Preliminary action)
10. 緩衝作用 (Cushion in advance)
11. 事前作用 (Preliminary action)
12. 逆転 (Reversed structures)
13. 反対の作用 (Counterweight)
14. 先行作用 (Preliminary action)
15. 緩衝作用 (Cushion in advance)
16. 事前作用 (Preliminary action)
17. 逆転 (Reversed structures)
18. 反対の作用 (Counterweight)
19. 先行作用 (Preliminary action)
20. 緩衝作用 (Cushion in advance)
21. 逆転 (Reversed structures)
22. 反対の作用 (Counterweight)
23. 先行作用 (Preliminary action)
24. 緩衝作用 (Cushion in advance)
25. 事前作用 (Preliminary action)
26. 逆転 (Reversed structures)
27. 反対の作用 (Counterweight)
28. 先行作用 (Preliminary action)
29. 緩衝作用 (Cushion in advance)
30. 事前作用 (Preliminary action)
31. 逆転 (Reversed structures)
32. 反対の作用 (Counterweight)
33. 先行作用 (Preliminary action)
34. 緩衝作用 (Cushion in advance)
35. 事前作用 (Preliminary action)
36. 逆転 (Reversed structures)
37. 反対の作用 (Counterweight)
38. 先行作用 (Preliminary action)
39. 緩衝作用 (Cushion in advance)
40. 事前作用 (Preliminary action)

Pugh Concept Evaluation

アイデアの収束ではなく、さらにアイデアを広げる手段

	Sna-Gar	Blocks Lunch	Play Mat Meal Set	Kazooki	Paint Your Food Kit
Fun	S	-	+	+	+
Simple Implementation	S	-	-	+	+
Appropriate	S	S	S	+	+
Feasible	S	S	-	+	+
Market Opportunities	S	S	S	+	+
Communicate Clearly	S	-	-	-	-
Sustainable	S	S	S	+	+

軸のものはすべて5(基準)
各評価軸に従って、
5または+、-、
+1、+2、+3、-1、-2

軸を入れ替えた際に、プラスマイナスが一致しなくてもOK

合計点は出しても良いが、良い評価を選ぶのではなく、様々な軸に対し劣っているアイデアを排除できる。

Customer Journey Map

ユーザーの考え、感情、行動、興味関心の度合いなどを時間経過とセットでまとめたものの顧客のインタビュアーが必須メンバーが顧客とした場合、どのようなマップが作れますか？

カスタマージャーニーマップの例

その商材やサービスを利用する前後の行動は？

1. ユーザー像の解像度を上げる
2. 新規事業を買い手視点で考える
3. ペルソナと組み合わせて対象を明確にする。

計画中のアイデア

(1) 事業の広報

※下記の資料4-1～4-6の配布先

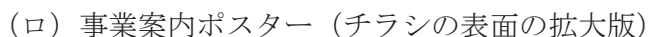
福井労働局・県内ハローワーク、福井県（県外事務所（東京・名古屋・京都・大阪）、福井Ｕターンセンターオフィス（東京・名古屋・京都・大阪・福井）、県内経済団体・金融団体等

(イ) 事業案内チラシ (資料4-1)

○部数：700 部

(表面)

(裏面)



○部数：25 部

○申込者の獲得を図るため、プログラムの目的、受講科目・時間割等の内容、講師の紹介、インターンシップ受入承諾企業名、一昨年度実施のプログラム受講者の声等を掲載

(表紙)



「ふくい型アプレンティス」 キャリア形成プログラム (産学官金連携によるDX人材養成)

福井大学は地域産業界や福井県とともに、これまで「ふくい型」と呼ばれて、大学を中心とした縦型で緊密な産学官金連携体制を構築してきました。「ふくい型アプレンティス」プログラムは、米国では雇用対象として拡大を促めたアプレンティス制度（通称社員見習い制度）の使い、福井県の各種補助と連携、企業による実務研修等の就業支援を促し、多くの企業から強いニーズがある「デジタル・スキル・訓練・奨励」や「DX（現代社会のデジタル化）への能力」、夏休みおよび春休みや冬休みに期間を充て年中間の集中研修に付与することもできるものです。地域の企業や大学・専門機関等を中心としたコア科目（33時間）とスキル養成科目（40時間）を通じて汎用的な知識の習得を目指します。

さらに授業と一体的な「メンタリングプログラム」を実施し、企業研修等（24時間以上）は、2つのコースからなり、企業から選定された企業家から習得システム・設計やDX（現代社会のデジタル化）について学び、知識を得、活動等の実践的な学びを実施するため、サーム・メンターによるメンタリング体制をとり、福井ではボランティアメンター（専任専任）に委託して、企業家やスキル習得と就業先企業との関係構築を図ることから成るプログラムとなりました（2023年度）。

受講者のみなさまへメッセージ	02	各科目紹介 コア科目	10
プログラム主旨	04	スキル養成科目	12
投資する人物	05	アプレンティス科目	13
スケジュール・受講者の声	06	Q&A	20
科目一覧・インターンシップ先予定企業	07	編り開からの支那	23
授業日一覧表	08		

(講師紹介)

受講者のみなさまへメッセージ

	科 目	担当時間	担当教員	担当科目・実務科
IT・情報系	必修 キャリア支援	8 対面	野間	高大次郎先生(実務科) 高木孝太郎先生(実務科) 小島小次郎先生(実務科) 高木孝太郎先生(実務科)
	必修 地域理解講座	8 対面	野間	高大次郎先生(実務科)、野間先生(実務科)
	必修 リサーチとプレゼンテーション	8 対面	野間	ジェームス・高田先生(英語) 光道 浩二(実務科)
	必修 ビジネスマナー	8 対面	野間	一般社団法人デジタルタレント 松本 義典(実務科)
	必修 企業とデータサイエンス	16 対面	野間	渡辺 洋子 株式会社 法人・法人 博行
選択科目	必修 プロダクトミキ	16 対面	野間	株式会社デジタルファクト 企業家塾生(実務科)
	必修 サイバーセキュリティ	8 対面	野間	株式会社デジタルファクト 企業家塾生(実務科) 高木 孝二
選択科目	オプション1(実務)：システム開発・設計	32 対面	野間	株式会社リアル 企業家塾生(実務科)
	オプション2(実務)：DX(現代社会のデジタル化)			株式会社リアル 企業家塾生(実務科)
	オプション3(実務)：企業マーケティング	24以上 対面	野間	株式会社リアル 企業家塾生(実務科)
	オプション4(実務)：事業計画作成講座			株式会社リアル 企業家塾生(実務科)

・株式会社アイビックス
 ・井上商事株式会社
 ・小野谷機工株式会社
 ・清川メッキ工業株式会社

・株式会社T A S
 ・大和電建株式会社
 ・株式会社ビジュアルソフト
 ・ファーストウッド株式会社

・株式会社福井銀行
 ・福井ネット株式会社

その他

(受講申込票：表面)

(受講申込理由書)

[illegible]

(ホ) プログラムに関するQ & A (資料4-4)

○申込要件、選考方法、プログラム内容、就職・転職先等について、申込希望者に分かりやすく解説

○部数：250 部

(Q & A (抜粋))

1. 申込区分等

(Q1)

受講申込に当たっては、受講者募集要項「3. 受講申込区分」の(1)失業者、(2)非正規雇用労働者、(3)転職希望者等(将来的な希望を含む。)のいずれかの区分に該当していれば、その理由は問わないのか。

(A1)

受講者募集要項に記載のとおり、理由や希望する就職先の業種・職種等については、受講申込理由書に簡潔に記載してください。

(Q2)

年齢、国籍など、申込資格に制限はあるのか。

(A2)

特段の制限は設けません。本プログラムでは、就業意欲のある方を募集しています。受講者募集要項に記載のとおり、講義で使用する言語は基本的に日本語であること等に十分留意の上、申請の可否をご判断ください。

2. 選考方法等

(Q3)

受講申込者数が募集人員の30名に満たない場合でも選考(面接)は行うのか。

(A3)

本プログラムでは、就業意欲のある方を募集していますので、選考を行います。

(Q4)

募集人員の30名を超えて受講者を受け入れる可能性はあるのか。

(A4)

できるだけ多くの受講者が本プログラムを修了し就業することを目指しており、質の高い教育を保証する上で、30名を上限としています。

(Q5)

どのような基準で選考するのか。

(A5)

受講者募集要項に記載のとおり、申込書類と面接により、受講の必要性・妥当性を踏まえつつ、意欲・資質等を確認した上で受講の可否を決定します。

(へ)「福井県に移住をお考えの方の交通費支援制度」(ホームページ:福井県)(資料4-5)

○U I ターン希望者を対象に福井県が作成。受講者募集要項や専用ホームページに当ホームページアドレスを掲載
(福井県ホームページ)



対象者

福井県内への移住を希望し、または検討している者およびそのご家族
ご家族は同居の方に限る
6歳未満の「幼児」、「乳児」については対象外
(ただし「幼児」(1歳以上6歳未満および小学生入学期の6歳児)の3人以上は「子ども」として取扱い)

対象となる現地活動

- ①本県での就職に向けての活動
- 県、市町村主催および主催する 就活イベントへの参加
 - 企業等の見学、採用試験(面接)のため
- ※ただし、県の活動は除く
- ② 移住後の住居探しのための活動
(不妊治療を受けるための活動)
- ③ 移住を前向きとした本県の情報収集のための活動
- ふくい暮らしはたらくサポートセンターや市町村相談窓口、公的機関での面談による相談
 - 県、市町村主催する移住のための相談会、ワーケーション、移住体験ツアー、車内視察への参加
 - ふくい移住サポーター、地域おこし協力隊等との面談
 - 市町村が運営するお話し移住体験面談でのお話し移住体験

対象となる交通費

住所地在福井県内訪問先の間を公共交通機関で移動した乗車券等の料金または自家用車で移動した有料道路利用料金等
※助成先等からの交通費の支援があり、当助成金と併せて実費額を超える場合は、支給の対象としない。
※乗車中にかかった交通費以外の諸経費(燃料費、運転費等)については、支給の対象としない。

支援金額

交通費
● 以下の申請者の住所に応じた額と対象交通費のうち低い方の金額 ※定額に満たない場合は、額状票・切符等により証明できる金額 ※乗車券内に1回乗1回まで
各都道府県からの交通費支援額(1人当たり)
14,000円 … 下記以外の都道府県(臨時乗車券を除く。)
13,000円 … 飯沼県、新潟県、徳島県
12,000円 … 富山県
11,000円 … 静岡県、岡山県
10,000円 … 長野県
9,000円 … 東京都、山梨県
7,000円 … 三重県
6,000円 … 大分県、鳥取県
5,000円 … 高山県、愛知県、奈良県、岐阜県、滋賀県、京都府
3,000円 … 石川県
※国符券のうち、6歳以上12歳未満の子どもは上記定額の半額とする。 ※満6歳の未就学児は1歳以上6歳未満の幼児区分とする。 また、幼児が3人以上いる場合、3人目以降は上記定額の半額を支給する。

必要書類

- 申請者の住所を証する書類(運転免許証等、本人確認書類)※下記フォームよりアップロード可
- 居住先を証する書類(通帳の写し等)※下記フォームよりアップロード可
- 訪問電話票※様式有

○職業訓練受講給付金給付希望者を対象に厚生労働省が作成
○部数：250 部

(裏面)

■ 制度活用の主な要件						
(訓諭受済の要件)						
● ハローワークに求職の申込みをしていること						
● 雇用保険被保険者や雇用保険受給資格者でないこと						
● 労働の意思と能力があること						
● 職業訓練などの支援を行う必要があることハローワークが認めたこと						
(給付金の支給要件)						
① 本人収入が月8万円以下						
② 世帯全体の収入が月30万円以下						
③ 世帯全体の金融資産が300万円以下						
④ 専任生でないこと(これ以外に土地・建物所有していない)						
⑤ 失業保険全額金に出産する(やむを得ない理由により火災し、該項を受ける場合「育児・介護休業法」に基づき子育て支援費調整の基礎コースを受給する者については証明が必要ない場合を要する)であっても、8割以上出産する。)						
⑥ 世帯の世帯主の間接に給付金を支給して訓諭を受けたい旨がないこと						
⑦ 給付金支給後に、再びその世帯主の行動により、特定の給付金の支給を受けていないこと						
⑧ 給付金支給後に、職業訓練奨励金給付金の支給を受けていないこと						
※①又は②を満たさない場合であっても、本人収入が月12万円以下で世帯収入が月34万円以下で③～⑥を満たす場合は、訓練施設への交通費(通所手当)を受給することが可能です。						
■ 主な訓練コース（求職者支援訓練）						
職種	ビジネスパソコン科、オフィスワーク科など					
工種	WEBアプリ開発科、Android/iAVAプログラミング養成科など					
営業・販売・事務	OA経理事務科、営業養成科など					
医療事務	医療・介護事務科、調剤材料科など					
介護福祉	介護職員初任者研修科、介護職員実務者研修科など					
デザイン	広告・DTPグラフィック科、WEBデザイナー科など					
その他	3次元CAD活用科、ネイルリスト養成科など					
● 就職期間延長は1か月から6か月						
● 上記の範囲外の場合、就職期間延長(16時間制)の申請コースも利用でき(令和5年3月末まで特別措置)						
● 上記の範囲外の場合、就職期間がより長い公共職業訓練コースも受講できます						
【求人者のみ】		求職者の登録方法について不安な点がありましたら、給付金受給希望者の登録方法に関するお問い合わせ先が複数あります。お気軽にご相談ください。	コース検索 求職者も利用できる求職者の登録方法に関するお問い合わせ先が複数あります。			
						
求職者支援制度の申し込みは、ハローワークで受け付けています		[所在地・電話]				
または、住所地を管轄するハローワークにご相談ください		[距離・時刻]				
						

(チ) 専用ホームページ (資料4-7)

- ホームページのアドレスを「you can change.me (ユー キャン チェンジ ドット ミー)」と分かりやすく印象に残りやすいものに設定し、テレビCM、チラシ、ポスター等で「ユー キャン チェンジ ドット ミー」を使用することで、専用ホームページへの誘導を意識付けた。
- 掲載期間：7月28日(金)～11月26日(日)

(トップページ)



(リ) テレビCM (動画)

○単価の高い時間指定ではなく放送回数を重視し、民放1社での放送に限定することにより、プログラムの周知機会を増やした。

○放送局 : 福井テレビ

○放送期間 : 7月28日(金)～9月3日(日)

○放送回数 : 15秒×73回

(ヌ) インターネット

○YouTube 動画広告配信 (15秒)

対象地域 : 福井県、石川県

配信期間 : 7月28日(金)～9月5日(火)

○Line 動画広告配信 (15秒)

対象地域 : 福井県、石川県

配信期間 : 7月28日(金)～9月5日(火)

○Google 画像広告配信

配信期間 : 7月28日(金)～9月5日(火)

②広報の方法・工夫

募集期間(8月10日(木)から9月4日(月)17時まで)を見据えつつ、募集開始前に専用ホームページを開設し、併せてテレビCMを放送した。また、応募説明・相談会について、本学・ハローワークで開催するとともに、随時オンラインにより個別に受け付ける等、様々な方法を活用し工夫して広報活動を展開した。

(イ)「本学」における広報

○専用ホームページへのアクセス窓口を本学ホームページのトップページに掲載

・掲載期間 : 7月28日(金)～11月26日(日)


資料4-8 : 本学ホームページのトップページのバナー



○教育・スポーツ記者クラブへの情報提供・報道依頼

- ・日 時：8月9日（水）
- ・対 象：福井県庁 教育・スポーツ記者クラブ（加盟報道機関：12社）
- ・説明者：広報課職員

資料4-9：報道依頼文書（抜粋）

格致によりて
人と社会の未来を拓く  国立大学法人
福井大学

令和5年8月9日

『『ふくい型アプレンティス』キャリア形成プログラム（産学官金連携によるDX人材養成）』の実施と受講者募集について

本学は、標記プログラムの受講者を募集します。

このプログラムは、文部科学省補助事業「成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業」の採択を受け実施します。

求職者や転職希望者を対象に行うリカレント教育プログラムで、昨年度多数の応募があった「産学官金連携による『ふくい型アプレンティス』プログラム（DX人材養成）」の内容をさらにブラッシュアップしました。

事業・プログラムの概要は下記のとおりですので、広く報道いただきますようお願いいたします。

1. プログラム名

「ふくい型アプレンティス」キャリア形成プログラム（産学官金連携によるDX人材養成）

2. 趣旨・目的

社会におけるデジタル化や脱炭素化といった大きな変化に対応するために、デジタル等成長分野に関する能力を身に付けた人材の養成が求められている中、地域産業界からは「システム開発」、「DX」の能力を有する人材の確保が強く求められている。

本学では、これらの能力を学歴やスキルに関係なく集中的に身に付けるプログラムを、昨年度に本学が実施した「産学官金連携による『ふくい型アプレンティス』プログラム（DX人材養成）」の内容をブラッシュアップし、地域産学官金の連携協力の下、UIターン希望者を含む失業者、非正規雇用労働者、転職希望者等の就職・転職及び地域への定着促進、地域共創に寄与することを目的とする。

3. 募集人員

30名

4. 対象者

失業者、非正規雇用労働者、転職希望者等（UIターン希望者を含む）で、原則として福井県内の企業等に就職・転職する意志を有する者

○労働局・ハローワーク担当者への説明会開催

- ・福井労働局、県内ハローワーク担当者に対するプログラムの概要、養成される人材像等についての説明会開催

日 時：8月3日（木）10：30～11：15

場 所：ハローワーク福井

説明者：事業ディレクター、事務担当者

参加者：福井労働局、ハローワーク福井等の担当者 計8名

○受講希望者への説明・相談会開催

・本学で開催（対面又はオンライン）

期 間：8月10日（木）、25日（金）、その他随時受付

場 所：福井大学文京キャンパス

説 明 者：プログラム開発・事業実施責任者、事業ディレクター、事務担当者

応募方法：ホームページの参加フォームから申込

参 加 者：対面 23 名、オンライン 9 名 計 32 名

・ハローワーク武生で開催（対面）

日 時：8月22日（火）10：00～11：00

場 所：ハローワーク武生

説 明 者：事業ディレクター、事務担当者

応募方法：ホームページの参加フォームから申込

参 加 者：6 名

・ハローワーク福井で開催（対面）

日 時：8月23日（水）10：00～11：00

場 所：ハローワーク福井

説 明 者：事業ディレクター、事務担当者

応募方法：ホームページの参加フォームから申込

参 加 者：5 名

資料 4－10：ハローワーク福井会場説明・相談会チラシ

成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業（文部科学省）

福井大学 職業再構築支援プログラム
受講者募集説明会・相談会

デジタル技術を身に付け、再就職を目指す人を対象とした
説明会・相談会です

日 時 8月23日（水）10時～11時

場 所 ハローワーク福井3F大会議室
（福井市開発1-121-1）

説明内容 プログラムの概要、受講申込手続き等
※プログラムの概要は下記webサイトから参照できます

福井大学私の職業再構築支援プログラムWebサイト
URL：https://youcanchange.me

申込方法
職業再構築支援プログラムwebサイトの
募集説明会参加フォームより申込んでください
申込み締切：8月22日（火）17時
※事前申込み数がなかった場合は、開催を中止します。

お問合せ
国立大学法人福井大学
地域連携推進課
〒910-8507
福井市文京3丁目9番地1号
Tel：(0776)27-9760
E-mail：rcp@ad.u-fukui.ac.jp



資料４－１１：説明・相談会日程（専用ホームページ（抜粋））

2023/12/05 16:10

国立大学福井大学リカレント教育事業：私の職業再構築プログラム



開催場所	日時
労働局・ハローワーク 〈対面のみ〉 ※事前申込者がいない場合は中止します。	8月22日（火）10時～11時 ハローワーク武生（越前市） <u>「説明会チラシ」PDFダウンロード</u> 8月23日（水）10時～11時 ハローワーク福井（福井市） <u>「説明会チラシ」PDFダウンロード</u>
福井大学／文京キャンパス 〈対面。県外在住の方など対面が困難な場合はWebでも可〉 ※事前申込者がいない場合は中止します。	8月10日（木）19時～20時 産学官連携本部3階研修室 8月25日（金）19時～20時 産学官連携本部3階研修室 <u>※両日ともに参加できない方は、ご相談ください。</u>

ご家族からのご相談もお待ちしております ◎ お問合せ先／福井大学研究・地域連携推進部地域連携推進課



Copyright © 福井大学 All Rights Reserved.

<https://youcanchange.me/mtg/>

1/2

○企業に対する広報

- ・福井大学産学官連携本部協力会会員企業（約 240 社）に対するインターンシップ受入に関するアンケートを事業・プログラム概要を添付して依頼
- ・受入を承諾した企業には、本学関係者が出向き、事業・プログラム概要をさらに詳細に説明

（ロ）「福井県」による広報

- 福井県の就職活動サイトや移住サイトへの掲載、登録者へのメール配信
- 県外事務所、福井Uターンセンターオフィス、県人会を通じたU I ターン希望者への広報

資料 4-12：U I ターン希望者への周知文書

令和 5 年 8 月 3 日

福井県への U I ターン希望者の皆様へ

国立大学法人福井大学

私の
「福井大学 職業再構築支援プログラム」(第3弾：DX編)
の受講のお願い

本学は本年度、昨年度に引き続き文部科学省の採択を受け、標記プログラムを実施することといたしました。当プログラムは、昨年度実施したプログラム（DX 人材養成）の内容をブラッシュアップし、IT の基礎をベースに就業に直結するシステム開発・設計、DX（現代社会のデジタル化）といった高度スキルまでを段階的・体系的に習得することができます。社会におけるデジタル化や脱炭素化といった大きな変化に対応するため、デジタル等成長分野に関する能力を身に付けた人材が求められています。本カリキュラムを通じ、地域産学官金が連携協力して、U I ターン希望者を含む求職者、非正規雇用労働者、転職希望者等の地域への定着を目指します。

プログラムは募集定員 30 名、実施時期 10～11 月の 2 か月、授業は金曜日夜間、土、日曜日を中心に開講いたします。授業の内容はコア科目、スキル養成科目、アプレンティス科目のほか、就業体験等 24 時間以上（地域企業へのインターンシップまたは企業視察、実証型の事業化可能性調査）、合計 128 時間以上です。このうち、高度専門スキルを習得するアプレンティス科目は、受講者自身でクラス選択していただきます（システム開発・設計クラスまたは DX（現代社会のデジタル化）クラスのいずれか 1 クラス）。【福井大学 私の職業再構築支援プログラムホームページ URL：<https://youcanchange.me> 参照】

県内企業では、県内にシステム開発系企業が多いこと、企業の DX 化を推進する県内企業が多いこと等、いずれも県内企業のニーズが高く、これらの人材の確保が企業に強く求められています。この機会に高度 IT 技術習得を目指して、是非当プログラムの受講をお願いいたします。

- (ハ)「福井労働局・ハローワーク」による広報
 - 求職登録者への広報、ホームページへの掲載
- (ニ) 県内経済団体・金融団体による広報
 - 各経済団体・金融団体加盟企業へのメール配信等

③受講者への経済的支援・配慮

(イ) 交通費の支援（福井県）

選考面接を受けるため、または住まい探しのため来県する場合など、移住前の下見や現地活動に該当する場合には、県が実施する交通費助成の対象となる場合がある旨募集要項に記載し、併せて「福井県に移住をお考えの方の交通費支援制度」（ホームページ：福井県）（資料４－５参照）のアドレスを募集要項や専用ホームページに掲載した。

(ロ) 住居の支援（福井県）

移住に関する相談等について、福井暮らしはたらくサポートセンターにて受ける旨、募集要項に記載した。

(ハ) 職業訓練受講給付金受給の支援

一定の要件を満たせば国の求職者支援制度における職業訓練受講給付金を受給することができること、給付金の受給希望があれば、給付金の受給手続きのため、速やかに居住地を管轄する公共職業安定所（ハローワーク）へ相談に出向いてほしいことを募集要項に記載し、「求職者支援制度のご案内」（チラシ：厚生労働省・都道府県労働局・ハローワーク）（資料４－６参照）を募集要項と同時に配布するとともに、チラシを専用ホームページに掲載した。

（２）受講者募集及び申込者数

①受講者募集

(イ) 募集人員・対象者

募集人員は30名とし、対象者は（１）失業者、（２）非正規雇用労働者、（３）転職希望者等（（１）～（３）にはUIターン希望者を含む）のいずれかに該当し、かつ、原則として福井県内の企業等に就職・転職する意志を有する者とした。

(ロ) 申込期間・方法

申込期間については、申込者が募集人員に達することが最も重要であること、そのためにはできるだけ長い募集期間を確保することが必要であることから、昨年度よりも6日長い8月10日（木）から9月4日（月）17時までの26日間を確保した。

また、申込方法については、申込書類（受講申込票、受講申込理由書）をワード・エクセル形式で専用ホームページに掲載し、それを活用して作成・プリントアウトできるように手続きの簡素化を図った。

②申込者数

十分な募集期間の確保、申込方法の簡素化、Q & Aによるプログラムの分かりやすい説明、様々な媒体・方法を活用した申込希望者に配慮した広報の効果等により、募集人員 30 名を上回る 33 名の申込者があった。

資料 4-13：申込者 33 名の内訳（申込時点）

○年代別

20 代：7 名、30 代：11 名、40 代：7 名、50 代：7 名、60 代：1 名

○男女別

男：20 名、女：13 名

○申込区分別

失業者等職を持たない者：5 名、非正規雇用労働者：5 名、
正規雇用労働者：23 名

○U I ターン希望者

U ターン希望者：1 名、I ターン希望者：1 名

（3）選考及び受講者数

①選考

（イ）選考方法・日時

選考は面接とし、希望クラス（システム開発・設計、D X（現代社会のデジタル化））毎に 5 人程度ずつのグループを編制し、1 グループ当たり 30 分の集団面接を行った。なお、県外者等については、希望により Web による面接を行った。日時については、申込者が職業に就いていることに配慮し、本人の都合に合わせ選考を実施した。

○9 月 15 日（金）15：25～17：05

※Web 面接は 17:20～17:50

○9 月 16 日（土）14：20～16：35

（ロ）面接者

本学関係者が面接者となるほか、雇用側の観点も参考とするため、インターンシップ受入承諾企業 3 社の関係者延べ 4 名に同席を依頼した。

（ハ）面接の評定

面接者は、面接評定票に基づき、評価項目（意欲、就業能力）について評価し、併せて、面接前質問シート（就業・転職の希望・意志、授業出席の可否）の回答内容及び受講の必要性・妥当性を踏まえて面接者毎に可否の評定を行った。また、同席の企業関係者等は、就業能力、自社へのインターンシップ受入の意思について、意見・要望等を述べた。

資料 4-14：面接前質問シート

面接をスムーズに実施するため、以下の事前質問にご回答願います。本情報は面接時およびその後の事業報告等に使用いたしますが、その場合は個人が特定されない形で記載および集計します。

	※番号	お名前
質問 1	本プログラムをどこでお知りになりましたか？ 該当するもの <u>すべてに</u> ○をしてください。	1. ご家族、親戚、友人に勧められて 2. ハローワーク（場所：_____） 3. テレビのコマーシャル 4. 新聞広告等（掲載紙：_____） 5. SNS・ホームページ（検索含） 6. その他：_____
質問 2	本プログラムは、金曜日（19:00以降）、土曜日・日曜日（午前・午後）に授業があります。 現時点における10～11月の出席可否のご予定について、該当番号に○をしてください。 （当日の体調不良による欠席は含みません）	1. すべての授業に出席可能 2. ほぼすべての授業に出席可能 3. 2/3以上の授業の出席が可能 4. 2/3以上の出席が難しい 5. その他：_____
質問 3	就業ならびに転職は、本プログラムの連携機関の支援のもと、基本にご自身の活動が中心になりますが、就業ならびに転職を希望されている時期について、該当番号に○をしてください。 （選択肢4は、5年程度以内のご希望を目安にご回答ください）	1. 可能ならできるだけ限り早く（今すぐ） 2. 可能なら3ヶ月以内を希望（年内） 3. 可能なら6ヶ月以内を希望 4. 将来的に就業または転職の予定 5. 現在は就業・転職の希望はない 6. その他：_____
質問 4	本日の面接に際し、面接担当者に事前に伝えたいことがある場合はご記載ください。	

（二）合否判定資料（原案）の作成

評価項目（意欲、就業能力）に係る面接者の評定と面接前質問シート（就業・転職の希望・意志）の評定を基礎とし、面接前質問シート（授業出席の可否）も考慮して序列化し、かつ、面接者の中で合否判定が割れた者、受講の必要性・妥当性に疑義がある者について、同席の企業関係者の意見・要望等を参考に検討の上、合否判定資料（原案）を作成した。

②受講者数

合否判定は、9月20日（水）に第2回事業実施委員会を開催し、合否判定資料（原案）に基づき合否を協議し、次のとおり31名の合格者を決定した。

○システム開発・設計クラス 15名

○DX（現代社会のデジタル化）クラス 16名

資料4-15：受講者31名の内訳（プログラム開始（10月1日）時点）

○年代別

20代：7名、30代：11名、40代：5名、50代：7名、60代：1名

○男女別

男：20名、女：11名

○申込区分別

失業者等職を持たない者：5名、非正規雇用労働者：5名、
正規雇用労働者：21名

○U I ターン希望者

Uターン希望者：1名、Iターン希望者：1名

（4）部分受講者の募集

①目的

受講者以外の失業者・非正規雇用労働者・転職希望者等のニーズに応えるとともに、本プログラムの教育機関、企業、自治体等での活用促進を図るため、本学が指定する科目や科目の一部の受講を認める部分受講者の募集を行った。

②広報

地方創生を目的とした産学官金医による連携組織「未来協働プラットフォームふくい」が推進するリスキリングとして本プログラムの部分受講を位置付け、構成メンバーの経済団体及び福井県を通して、企業・自治体の社員・職員に対する広報活動を展開した。

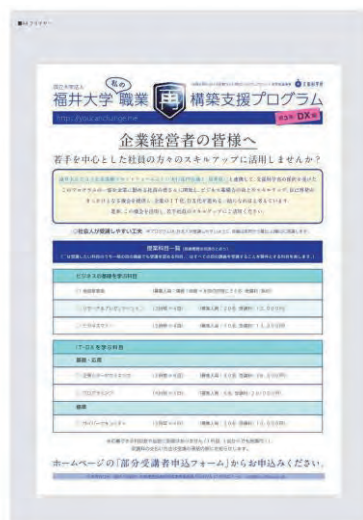
（イ）広報媒体

○企業・自治体の社員・職員向け事業案内チラシ（資料4-16）

・部数：300部

（表面）

（裏面）



○部分受講者募集要項（資料4-17）

- ・部数：300部

（表紙）

「ふくい型アプレンティス」キャリア形成プログラム

（産学官金連携によるDX人材養成）

「部分受講者」募集要項

本学では、文部科学省補助事業の採択を受け種記プログラムを実施します。
本プログラムの正規受講者の募集人員は30名ですが、正規受講者のほかに本学が指定する科目や科目の一部の講義の受講を認める「部分受講者」を募集します。お知らせします。
〔プログラムの内容の詳細はホームページの「受講者募集要項」や「プログラム受講ガイド」等を参照してください。〕

令和5年9月

国立大学法人福井大学

令和4年度「成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント・教育推進事業」（文部科学省）

○プログラムに関するQ&A（資料4-18）

- ・正規受講者用Q&Aの中で部分受講者の申込要件等について解説

（Q&A（抜粋））

（Q15）

正規受講者となれなかった場合、部分受講者（一部の科目、特定の授業のみの受講者）に申し込むことはできるのか。

（A15）

部分受講者に係る応募方法等は、正規受講者の応募の後、「部分受講者募集要項」等をホームページに掲載予定ですので、確認の上、申込み手続きを行ってください。

○専用ホームページ（資料4-19）

- ・正規受講者募集期間終了後、9月5日（火）から専用ホームページに部分受講者募集要項を掲載するとともに、部分受講申込フォームからの申込受付を開始
- ・掲載期間：9月5日（火）～11月26日（日）

(専用ホームページの申込フォーム)

2023/12/05 16:43 国立大学法人福井大学リカレント教育事業・もの産学連携構築プログラム

福井大学 職業 構築支援プログラム

部分受講者申込フォーム①

※個人情報の保護について

募集説明会参加の受付・連絡作業、資料やお知らせの送付、及びサービスの提供などの目的にのみ使用いたします。国立大学法人福井大学のプライバシーポリシーをご確認いただき、同意される方のみ入力・申し込みください。※国立大学法人福井大学のプライバシーポリシーのリンク先はこちらのURLです。

https://www.u-fukui.ac.jp/cont_about/disclosure/privacy/policy/

※科目ごとに、全ての回の講義を受講することを要件とする科目です。

※申し込み後、変更が可能な科目と、変更が不可能な科目とがあります。ご希望の科目の可否をご確認ください。

Copyright © 福井大学 All Rights Reserved.

<https://youcanchange.me/contact/>

(ロ) 広報の方法・工夫

正規受講者を確実に確保するとともに、正規受講者の募集との混乱を避けるため、正規受講者の募集期間（8月10日（木）から9月4日（月）17時まで）終了後から、専用ホームページへの部分受講者募集要項の掲載、企業・自治体に対するチラシの配付等の広報活動を開始した。

- 「福井大学」における広報
 - ・説明・相談会参加者に対し部分受講を案内
- 「福井労働局・ハローワーク」による広報
 - ・相談窓口で相談者に案内
- 「未来協働プラットフォームふくい」構成メンバーの県内経済団体・福井県による広報
 - ・福井県商工会議所連合会、福井経済同友会、福井県経営者協会、(株)福井銀行を通して、会員企業・関係企業にチラシを配付
 - ・福井県を通して、県内自治体にチラシを配付

資料 4-20：県内経済団体への会員企業に対する周知依頼文

令和 5 年 9 月 5 日

未来協働プラットフォームふくい実行部門会議 1「学生教育、社会人教育」の

経済団体等の委員の皆様

未来協働プラットフォームふくい（事務局：福井大学、福井県総務部大学私学課）

リスキリングプログラム開講のご案内及び関係企業様への周知のお願い

令和 5 年 7 月 18 日（火）に開催された実行部門会議 1 において、今年度のリスキリングについては全体で 10 プログラム以上実施することが確認・了承されました。現在、各大学のプログラム計画を取りまとめ中であり、今月中には全体計画をお示ししたいと考えています。

つきましては、下記別添のプログラムについては開始が差し迫っているため、先行してご案内いたしますので、貴管下の企業様にメール等での周知をお願い申し上げます。

記

1. 実施大学

福井大学

2. プログラム名

私の職業再構築支援プログラム（詳細は下記チラシ参照）

<https://ufdeli.cii.u-fukui.ac.jp/public/kJ4pgLoM0nbRcNilszY7Pre0kkNzuAt0mg3c3wrlJQRz>

3. 申込方法等

下記専用ホームページの「部分受講者申込フォーム」からお申込みください。

<https://youcanchange.me>



③部分受講者募集

（イ）対象科目・募集人員・受講料

次の科目を受講可能な科目として指定し、将来的な自立自走も視野に受講料を徴収した。

○科目の全ての回の講義を受講することを要件とする科目

（コア科目）

- ・リサーチ&プレゼンテーション : 20 名、13,000 円
- ・ビジネスマナー : 10 名、13,000 円

（スキル養成科目）

- ・企業とデータサイエンス : 30 名、26,000 円
- ・プログラミング : 5 名、26,000 円
- ・サイバーセキュリティ : 30 名、13,000 円

- 科目の一部の回の講義でも受講を認める科目
(コア科目)

- ・地域産業論：回毎に 35 名×8 回＝280 名、無料

(ロ) 対象者

次のいずれかに該当する者とした。

- (1) 失業者、(2) 非正規雇用労働者、(3) 転職希望者等 ((1)～(3) にはUIターン希望者を含む) のいずれかに該当し、かつ、原則として福井県内の企業等に就職・転職する意志を有する者
- 企業等に勤務しながらスキルアップを目指す者等

(ハ) 申込期間・方法

申込期間は次のとおりとした。また、申込方法は専用ホームページの部分受講申込フォームからとし、手続きの簡素化を図った。

- 科目の全ての回の講義を受講することを要件とする科目

- 9 月 5 日 (火) ～9 月 20 日 (水) 17 時

- ※募集人員に満たない科目については、授業開始直前まで期間を延長

- 科目の一部の回の講義でも受講を認める科目

- 9 月 5 日 (火) ～受講する回の 1 週間程度前まで

- ※募集人員に満たない回については、当回の授業開始直前まで期間を延長

(二) 申込者数

企業の社員を主なターゲットとした部分受講者用チラシの作成・広報、募集期間の延長等、申込者の確保に向けて方法を工夫した結果、44 名の申込者があった。

資料 4-21：申込者 44 名の内訳

- 科目別 (() は募集人員)

- ・リサーチ&プレゼンテーション : 0 名 (20 名)
- ・ビジネスマナー : 0 名 (10 名)
- ・企業とデータサイエンス : 2 名 (30 名)
- ・プログラミング : 2 名 (5 名)
- ・サイバーセキュリティ : 1 名 (30 名)
- ・地域産業論 : 39 名 (280 名)

- 年代別

- 10 代 : 13 名、20 代 : 10 名、30 代 : 16 名、40 代 : 5 名

- 男女別

- 男 : 16 名、女 : 28 名

○申込区分別

失業者等職を持たない者：23 名、非正規雇用労働者：1 名、
正規雇用労働者：20 名

○正規雇用労働者・非正規雇用労働者（21 名）の所属機関別

企業等の社員：21 名、その他（地方自治体の職員、高等教育機関の職員、公立学校の職員等）：0 名

（ホ）選考及び受講者数

基本的に申込者全員の受講を認めることとするが、申込者数が募集人員を超えた場合は、受講申込フォームの記載内容を基に受講の可否を決定した結果、辞退者を除いた最終的な受講者数は 33 名となった。

資料 4-22：受講者 33 名の内訳

○科目別（（ ）は募集人員）

- ・リサーチ&プレゼンテーション：0 名（20 名）
- ・ビジネスマナー：0 名（10 名）
- ・企業とデータサイエンス：2 名（30 名）
- ・プログラミング：2 名（5 名）
- ・サイバーセキュリティ：1 名（30 名）
- ・地域産業論：28 名（280 名）

○年代別

10 代：11 名、20 代：9 名、30 代：8 名、40 代：5 名

○男女別

男：14 名、女：19 名

○申込区分別

失業者等職を持たない者：20 名、非正規雇用労働者：1 名、
正規雇用労働者：12 名

○正規雇用労働者・非正規雇用労働者（13 名）の所属機関別

企業等の社員：13 名、その他（地方自治体の職員、高等教育機関の職員、公立学校の職員等）：0 名

5. プログラムの運営

(1) 受講者オリエンテーションの実施

受講者に対し、プログラムを円滑に実施するため、次のとおり受講者オリエンテーションを実施した。なお、キャリアコンサルティングの観点から、ハローワークの担当者から求職者登録、ハローワークの活用方法について説明を行った。

資料5－1：オリエンテーションの概要

1. 日時

令和5年9月29日（金） 19：00～20：00

2. 場所

Web（Zoom）により実施

3. 事項・説明者等

(1) 事業責任者挨拶（末 福井大学理事／副学長）

(2) プログラムの内容（竹本 プログラム開発・事業実施責任者）・・・資料1

○クラス分け及び時間割

○「キャリア概論」担当教員の紹介

○オンラインコンテンツの利用方法

(3) 求職登録についての留意点や仕事の探し方等について（松浦厚生労働事務官
（ハローワーク福井職業相談サービス第二部門））・・・資料2

(4) 受講者に係る生活上の留意点（坂井 シニアメンター）・・・資料3

(5) 質疑応答

当日配付資料（抜粋）

（オンデマンドコンテンツ一覧）

オンデマンドコンテンツ一覧

(<https://www.youtube.com/playlist?list=PLl0lqaT4VSZWSxt2MY1e4jxSHAq4t3jpp>)

（WORD-4 コンテンツ）

1. 文章作成
見出しの作成方法
社外秘等の透かし文字入力方法
アウトラインの作成
ルーラーの使い方
2. 圧縮保存
ファイルパスワードの作成
エクセルをワードに取り込む
3. 表示の作成
脚注の付け方
ページ開始番号の作成
図表番号、図表目次の作成
4. 文章作成応用
段組の作成
ハイパーリンクの作成
ヘッダーフッターの使い方

（EXCEL 編-7 コンテンツ）

1. エクセルについて
1-1 エクセルとは
1-2 文字の入力・編集
1-3 社外秘等の透かし文字挿入
1-4 データの保存
1-5 画像圧縮・ファイルサイズ圧縮
2. 表を作る
2-1 セルの結合
2-2 表の作り方の基本を学ぶ
2-3 表の作成
3. 関数を学ぶ
3-1 SUM 関数
3-2 average
3-3 その他
4. 表を使いこなす
4-1 コピー&ペースト
4-2 フィルター機能・データソート
4-3 テーブルの作成
5. グラフの作成
5-1 グラフを作成する
5-2 グラフを修正する
6. 見積書・請求書・納品書の作成
6-1 書類作成
6-2 複数シートのページジャンプ・目次作成
7. 印刷をする
7-1 保存形式の変更
7-2 印刷について

(ハローワーク利用案内)

●仕事をお探しの皆様へ● (資料2)

ハローワークインターネットサービスを活用しよう！
～求職者マイページでカンタン求人検索～

ハローワークインターネットサービス
では、スマートフォンやパソコンで全国のハローワークの求人を検索できます。

▼サイトへのアクセスはこちら▼

ハローワークインターネットサービス 検索 

<https://www.hellowork.mhlw.go.jp> 

求職者マイページ開設が便利です

求職者マイページでできること

- ・求人条件や気になった求人情報を保存
- ・応募した求人内容や紹介状、応募履歴を確認
- ・応募企業とメッセージ送受信（求人者がマイページを開設の場合）
- ・ハローワークから求人情報やメッセージが届く

ハローワークでは様々な就職支援サービスを提供しています

- ①職業相談、職業紹介
- ②履歴書や職務経歴書など応募書類の作成支援
- ③面接時のマナーや心構えについてのアドバイスや模擬面接など面接対策支援
- ④各種セミナー、各種面接会、職場見学会等のイベント

◆ハローワークで求職登録済の方へ

- ・求職者マイページ未開設の方は、ハローワークへご相談ください。

◆まだハローワークを利用されていない方へ

- ・インターネット上で、ハローワーク求職申込み＆求職者マイページの開設ができます。

お仕事探しのことならお気軽にハローワークにご相談ください！！

～福井労働局・ハローワーク～

(2) 新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた取組

新型コロナウイルス感染症拡大防止に向け、以下のような取組を行った。

①選考面接に向けての注意喚起

募集要項に次のとおり面接当日の注意事項を記載した。

資料5-2：募集要項（抜粋）

- 面接の際のマスクの着用は応募者個人の判断に委ねます。なお、面接会場や控室への入室の際は、新型コロナウイルス感染予防対策として手指衛生のご協力をお願いします。

②選考面接欠席者への配慮

募集要項に次のとおり配慮することを記載した。

資料5-3：募集要項（抜粋）

- やむを得ない事情により面接を欠席することとなる方については、個別に相談させていただきますので、事前に「12. 問合せ・申込書類提出先」へお問い合わせください。

③受講上の措置

募集要項に次のとおり記載し、受講環境に留意して取り組んだ。

資料５－４：募集要項（抜粋）

- プログラムは新型コロナウイルス感染予防対策（３密の回避・換気、手指衛生等）を講じた上で、基本的に対面で行います。

④日常生活における注意喚起

９月２９日（金）に実施した受講者オリエンテーションの「受講者に係る生活上の留意点」の中で、新型コロナウイルス感染症拡大防止に向け、次のとおり注意喚起を行った。

資料５－５：当日配付資料（抜粋）

- （14）新型コロナウイルス感染防止に向けて、次の点にご留意ください。
- 学内でのマスクの着用は、受講者個人の判断に委ねます。
 - 教室に入室する際は、感染予防対策として、手指衛生にご協力願います。
 - 発熱・咳・全身倦怠感等風邪様の症状がみられる場合は、来学せずかかりつけ医や最寄りの医療機関に相談してください。

（３）修学・生活上の配慮及び注意喚起

①修学・生活上の配慮及び注意事項に係る周知、実施

９月２９日（金）に実施した受講者オリエンテーションの「受講者に係る生活上の留意点」の中で、受講者の修学・生活上の配慮、注意事項を説明し実施した。

資料５－６：当日配付資料（抜粋）

- １．受講に当たっての一般的な留意事項とお願い
- （１）１０月１日（日）に受講者証をお渡しする予定です。受講者証は本プログラムの受講者であることを証明するものですので、来学時は常時携帯してください。
 - （２）受講者への連絡は、基本的にメールで行いますので、常にメールを確認するようお願いします。台風等により休講する場合もメールにより連絡します。
 - （３）やむを得ない事情により自家用車で入構することを認められた方を除き、基本的に公共交通機関等を利用して登学してください。
 - （４）図書館について、受講者証を呈示することで窓口係員が常駐する下記の日時に利用が可能です。ご希望の方は出入り口のバーの前で窓口係員に受講者証を呈示し、図書館の出入り口カウンターにおいて、入館のための必要な手続きを行ってください。また、図書資料の貸出も可能ですので、ご希望の方は身分を証明できるもの（免許証など）を持

参し平日の 17 時までにはカウンターで利用カード発行の手続きを行ってください。

(開館時間)

平日 9 : 0 0 ~ 2 2 : 0 0

土・日・祝日 1 3 : 0 0 ~ 1 6 : 0 0

- (5) 生協の営業時間は下記の福井大学生生活協同組合のホームページ及びツイッターにて周知されていますので、各自ご確認ください。なお、お弁当は教室で食べていただいて結構ですが(ただし、パソコンルームを除きます。)、ゴミ等の後始末をきちんと行ってください。

<http://www.fu-coop.or.jp/>

- (6) 授業は全体で 128 時間以上の履修が必要となりますが、病気等によりやむを得ず欠席する場合や遅刻する場合は、必ず地域連携推進課に電話(27-9760)やメール(hrep@ml.u-fukui.ac.jp)で速やかに(なるべく事前に)連絡してください。なお、やむを得ない理由により欠席する場合でも一つの授業科目の授業時間の3分の1以上欠席しないよう留意して授業に臨んでください。
- (7) 授業では、講師からの許可がない限り、インターネット等を通じてデータやファイルを外へ持ち出さないでください。
- (8) 構内は禁煙です。なお、喫煙所はありません。
- (9) 基本的に授業で使用する教室がある建物以外には立ち入らないようお願いします。
- (10) UI ターン者については、交通費の支援、移住に伴う支援がありますので、福井県のホームページ等で確認してください。
- (11) 一部の科目を除き、受講者のほかに5~30名程度の部分受講者も一緒に授業を受けますので、ご留意ください。
- (12) 文科省提出用の事業報告書を作成する上で必要となるため、授業風景の写真を撮影させていただくことがありますので、ご了承ください。
- (13) 授業の課題は、所定のフォルダーに提出していただきます。フォルダーについては、後日、メールでお知らせします。

②課題提出等に係る共通ファイルの設定

授業担当講師が事前に授業用資料を本学に送付する際や受講者が授業課題を提出する際等に、ファイル容量が大きいためメールによる送付・提出が困難な場合も想定されるため、共通ファイルを設定し講師や受講者が容易にアップロードできるように配慮した。

(4) 事業実施委員会の開催

当事業・プログラムを円滑に進めるため、県内の産学官金の関係者で構成する事業実施委員会を開催し、プログラムの開発・実施、受講者確保の方策、プログラムの運営、就職・転職支援、成果の検証等の重要事項について検討・実施した。

①開催状況

○第1回委員会

- ・日時：令和5年7月25日（火）Web会議
- ・議事：1. 事業概要について
2. 受講者募集要項等について

○第2回委員会

- ・日時：令和5年9月20日（水）Web会議
- ・議事：1. プログラム受講に係る合否判定について
2. 「部分受講者」募集要項の一部見直しについて

○第3回委員会

- ・日時：令和5年11月22日（水）書面会議
- ・議事：1. プログラム進捗状況について

○第4回委員会

- ・日時：令和5年12月25日（月）書面会議
- ・議事：1. プログラム進捗状況について

○第5回委員会

- ・日時：令和6年1月11日（木）書面会議
- ・議事：1. プログラム修了判定について

○第6回委員会

- ・日時：令和6年2月9日（金）書面会議
- ・議事：1. プログラム進捗状況について

○第7回委員会

- ・日時：令和6年3月7日（木）Web会議（予定）
- ・議事：1. 事業実績報告書の提出について
2. 事業の振り返り及び次年度の取組について

（5）受講者アンケート（中間・最終）の実施

①中間アンケート

プログラム前半（10月）が終了したことを受け、受講者の意見を踏まえ後半（11月）の授業改善に活かすため、次のとおり受講者アンケート（中間）を実施した。

○アンケート期間：10月29日（日）～11月10日（金）

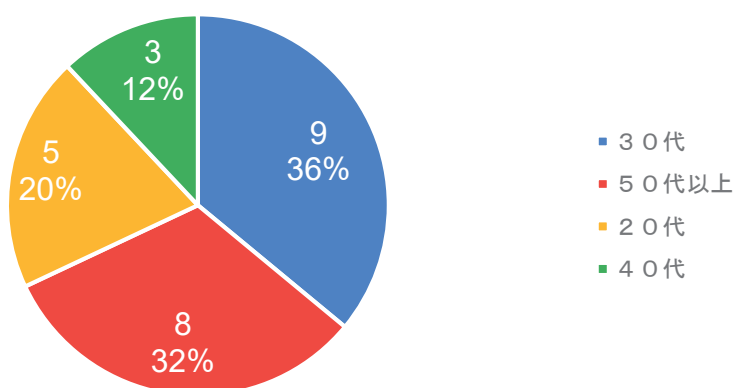
○対象者数：30名（受講者31名中1名が勤務先の業務の都合により10月24日（火）以降の受講を辞退）

○回答者数（率）：25名（83%）

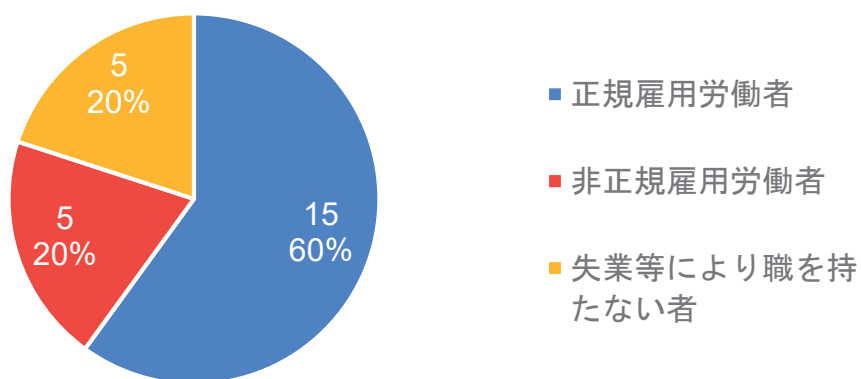
○質問事項・回答：要約版のとおり（資料5－7参照）

資料５－７：中間アンケート結果（要約版）

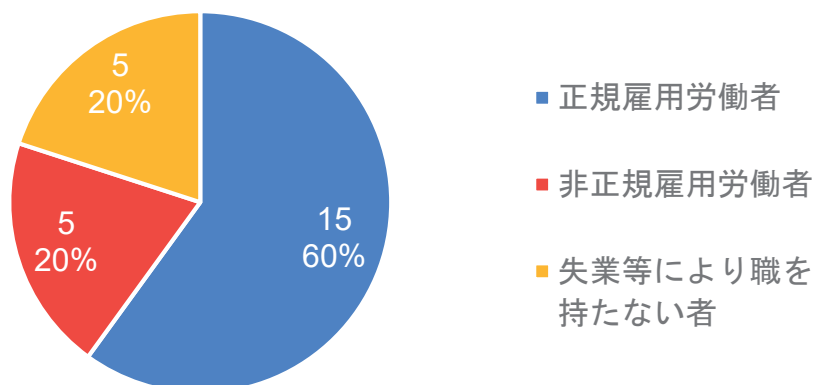
質問１．あなたの年代は？



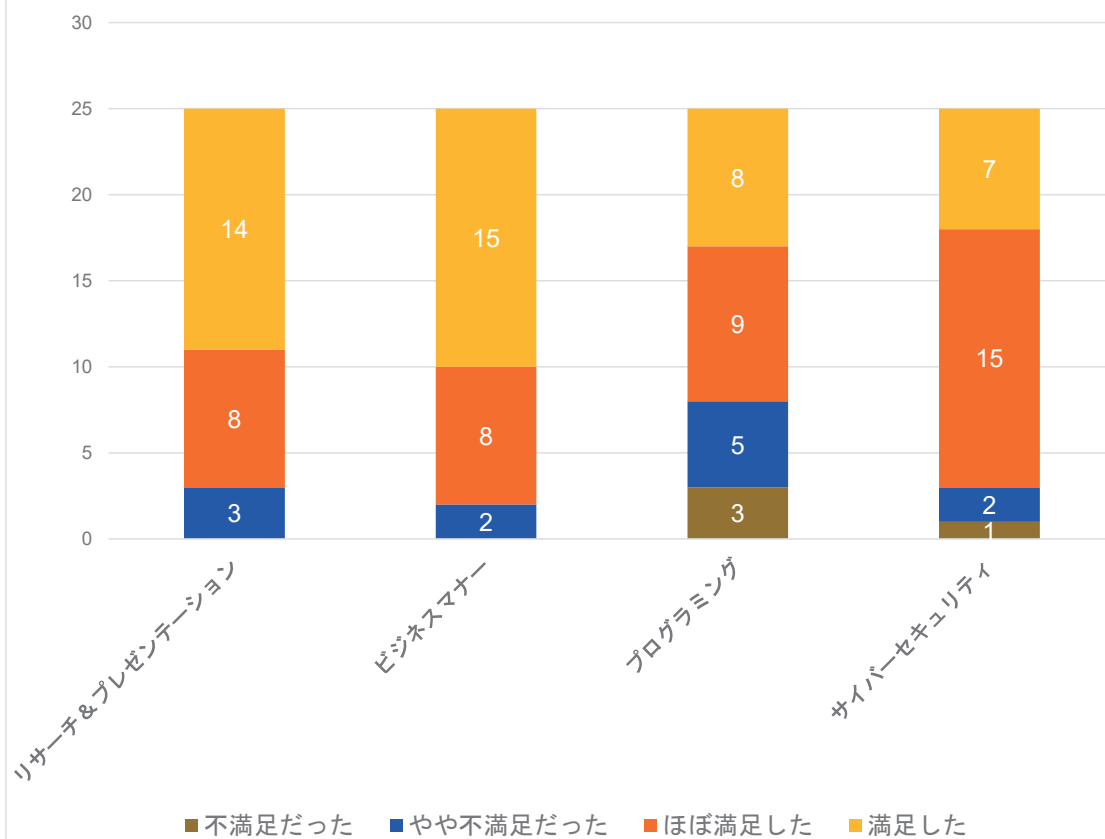
質問２．あなたのプログラム開始時
（１０月１日現在）の就労状況は？



質問3. あなたの現在の就労状況は？



質問4. 授業に対する満足度についてご回答ください。



質問４－１、４－２.「満足した」「ほぼ満足した」を選んだ科目名とその理由をお書きください。(主な意見を抽出)

<p>○リサーチ&プレゼンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな学びが多かった、考え方の手掛かりとなる内容だったので、今まで深く考えていなかった？触れてこなかったものなので新鮮でした。
<p>○ビジネスマナー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新卒時の新人研修時代に学んでから 30 年以上…知っていたようで知らなかったことも沢山あり、再認識の場として分かりやすくとても楽しく学べました。
<p>○プログラミング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践的な内容だったので、システム開発環境が知れてとても有意義でした。まだまだ初歩的な内容だとは思いますが、IT 業界へ挑戦する自信が少し身につきました。
<p>○サイバーセキュリティ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、当たり前のようにスマホやパソコンを使用しているが、このセキュリティについて、使用者は全員知っていなければならない大切な情報だと感じた。今の若者はもしかしたら、学校で学んでいるのかもしれないが、私は今回、知る機会が持てて良かったと感じる。
<p>○全科目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全ての科目に満足してます。プロの有料級の授業を無料で受けることができ資料も沢山頂けて、自宅で振り返りが出来るようになりますし、一般の方に有料販売されてもいいと思います。

質問４－３、４－４.「やや不満足だった」「不満足だった」を選んだ科目名とその理由をお書きください。(主な意見を抽出)

<p>○リサーチ&プレゼンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手元に資料がない状態で大量のパワポ資料を早い速度で送られるとメモが間に合わないのので、資料を配ってから講義して欲しかった。４回目の受講生がプレゼンテーションをする内容はとても良いと思います。
<p>○ビジネスマナー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実用的でないと思う内容が多かったと思う。
<p>○プログラミング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浅く学ぶにしてもあまりにも時間が少ないと思いました。費用の問題もありますが、カリキュラム自体の時間をもう少しとっていただけると、講師陣の講義の構成にも良いものになったかと思いました。 ・生徒それぞれのスキルに差がある中での一斉授業に難しさを感じました。
<p>○サイバーセキュリティ</p>

- ・文章だけではセキュリティのイメージが湧きませんでした。マルウェアに感染した PC の画像や症状の映像、実際にセキュリティが機能している映像などがあればよかったなと感じました。

質問 5. その他プログラムに関し、自由に意見をお書きください。（主な意見を抽出）

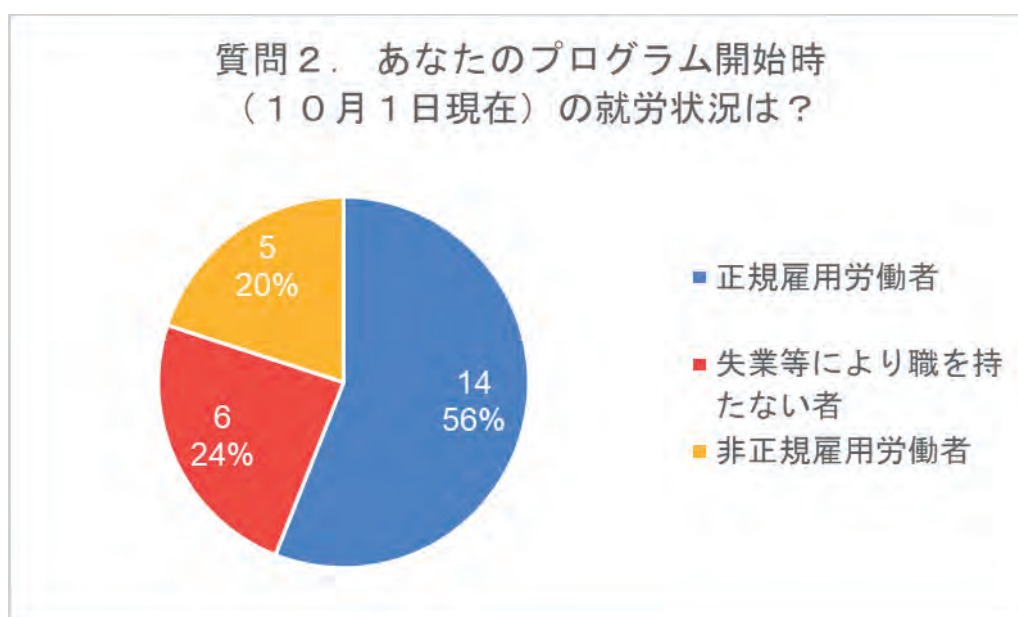
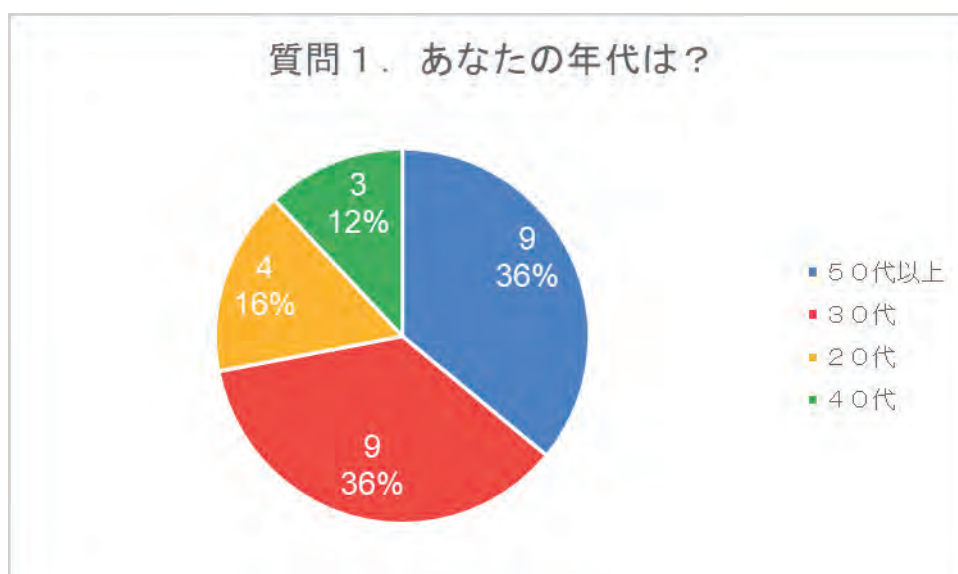
- プログラミング科目では質問に対して親身に対応いただきました。サイバーセキュリティとプログラミングについては今後知識を習得して資格試験にもチャレンジしてみたいと思います。
- 事業化可能性調査の授業は私が今まで学生時代、社会へ出た後にも学んだことのない新鮮な内容でとても素敵で楽しい経験ができました。
- 地域産業論とキャリア概論では、福井の魅力や特徴、地元の素晴らしい企業等を知ることができ、とても楽しかったです。
- 全体を通してプログラムのテーマに向かって一貫性は感じるのですが連携がいまいちと感じて残念に思います。先程と重複しますが、事業化可能性調査とリサーチ&プレゼンテーションがリンクしていったり、プログラミングとサイバーセキュリティがリンクしたりと一気通貫のような形で教育をされるのが楽しく良いと思います。まさしく竹本先生が仰ってたような「ただ歴史を教えるのではなくてなぜそうなったか、経済や現代とどのように結びついているのか」のように単発で終わるのではなく、そこから視野を広げていき各分野で相乗効果があると学びもより楽しく入りやすいと思います。今回に反映するのは難しいと思いますが、事務局の皆様には次回よりそのような観点でプログラムの中身を構築されることを期待しています。
- スケジュールがタイトでとてもつらいです。2ヶ月と言わず、3ヶ月かけて、1日の授業数を今よりも減らすことができると、自分の普段の生活に負担なく受講することができます。
- 前半は IT や DX に対することを学ぶ時間が少なく、事業開発やプレゼンテーションに関する内容がやや多いように感じた。再就職を考えるなら、必要な項目だと思う反面、当初自分が受講したいと感じていた内容とは少し違っていたように思う。
- プログラミングの比重を大きくして欲しかった。
- 11月の講義で、どこまでのレベルにまで達することができるのか楽しみにしてます。よろしくお願いします。
- 新しいことを学べることは楽しいです。

②最終アンケート

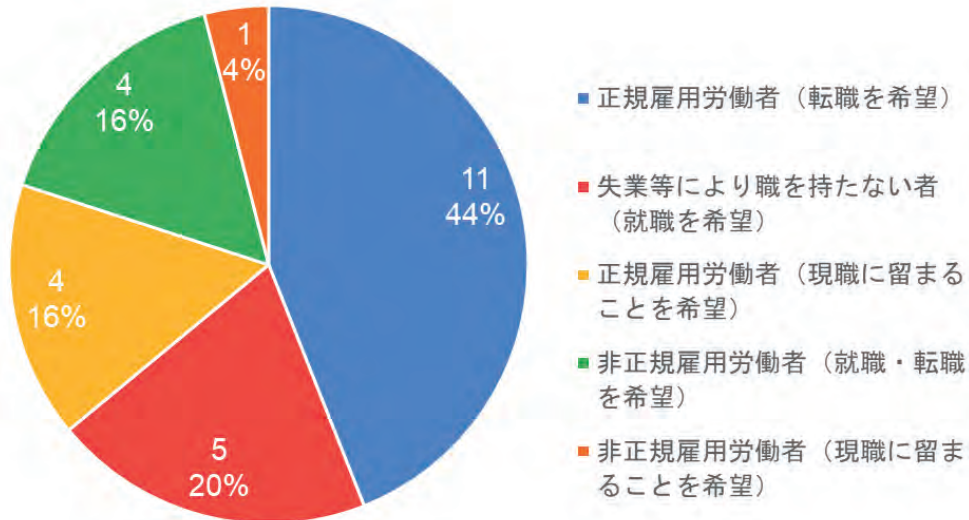
プログラムが全て終了したことを受け、プログラムの検証・分析を行うため、次のとおり受講者アンケート（最終）を実施した。

- アンケート期間：11月29日（水）～12月21日（木）
- 対象者数：29名（受講者31名中2名が受講を途中辞退等）
- 回答者数（率）：25名（86％）
- 質問事項・回答：要約版のとおり（資料5－8参照）

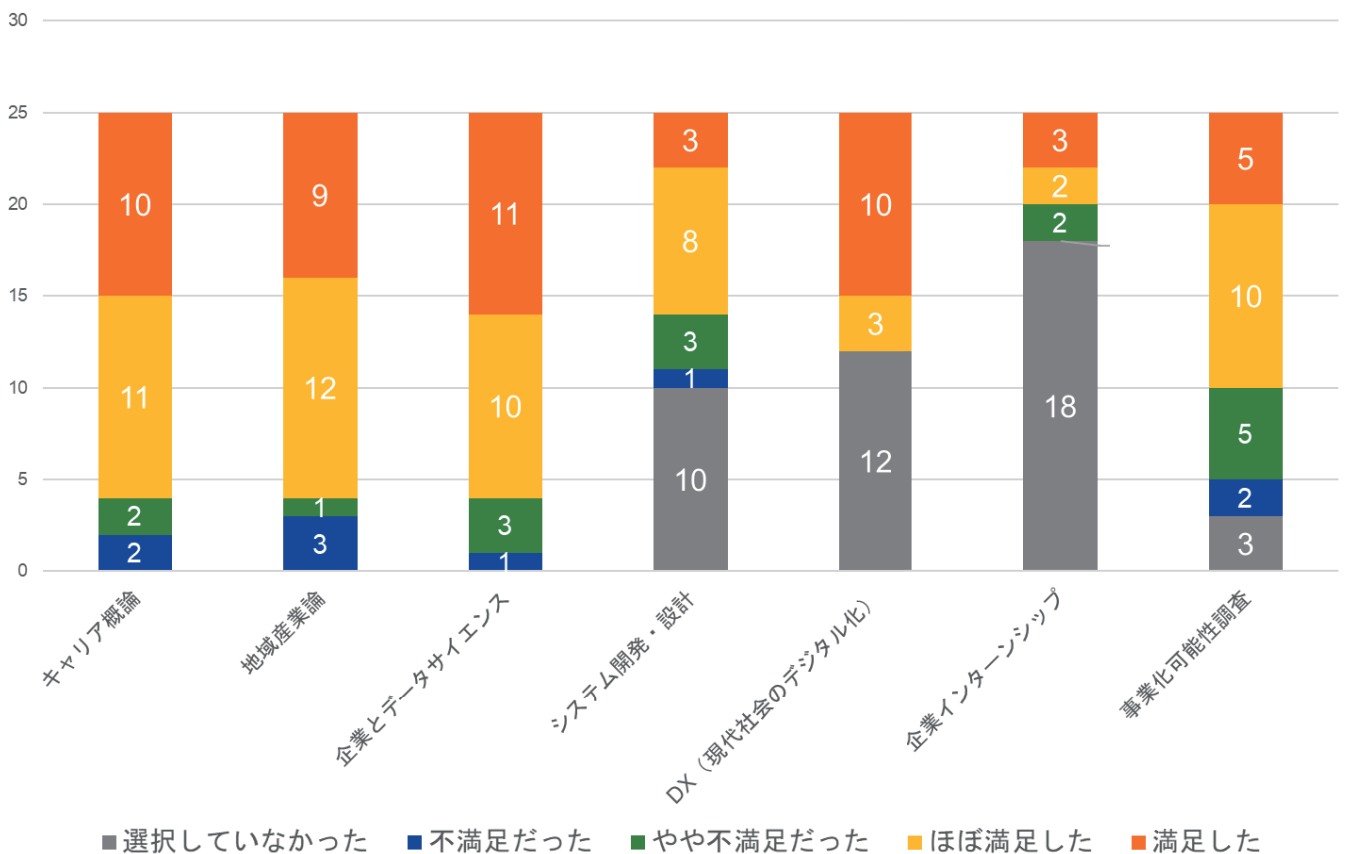
資料５－８：最終アンケート結果（要約版）



質問3. あなたの現在（12月1日現在）の就労状況は？



質問4. 授業（10月開講のものを除く）に対する満足度について
ご回答ください。



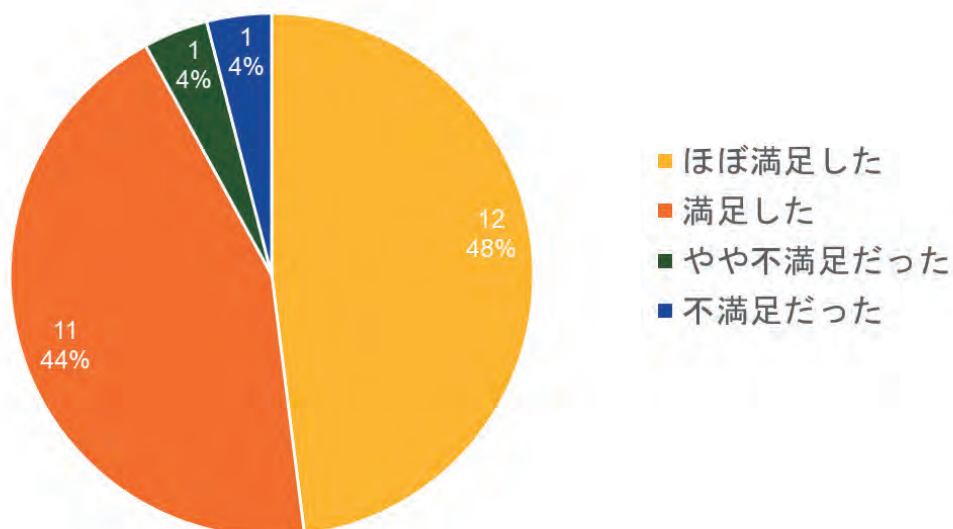
質問４－１．「満足した」、４－２．「ほぼ満足した」を選んだ科目名とその理由をお書きください。（主な意見を抽出）

<p>「キャリア概論」</p> <p>○県内の企業を調査することを通し、企業について様々な角度から意見交換することができた。個人ワークや発表も慣れなくて苦戦したが、先生やクラスの皆さんにも励まされた。</p>
<p>「地域産業論」</p> <p>○福井県の産業の現状についてよく理解できた。また県内の産業構造の将来について考えるきっかけとなった。県庁職員の講義も県の現状や方向性がわかりよかった。</p>
<p>「企業とデータサイエンス」</p> <p>○今後ますますデータサイエンスの知識が必要であることを体感した。多くのデータの解釈や実用的なツールについて、知らないことを学べてとてもよかった。</p>
<p>「システム開発・設計」</p> <p>○システム開発工程や UML について知ることができよかった。最終発表まで、プログラム初心者だがなんとか計画的に進めることができた。講師からフィードバックやアドバイスも丁寧で、前向きに楽しく取り組むことができてよかった。</p>
<p>「DX(現代社会のデジタル化)」</p> <p>○実際にパソコンを作り、コードを入力して動かすということに感動した。教えてもらった Google のツールも今後に活かせそうと感じた。</p>
<p>「企業インターンシップ」</p> <p>○IT 企業の実情を間近で見ることができたため。</p>
<p>「事業化機能性調査」</p> <p>○チームで新規事業を考えるのが難しくも楽しかった。ちょっとした発想で新しいビジネスに繋がるということが知れて良かった。新規事業を作るプロセスについても体験しつつ詳しく学べて良かった。</p>
<p>「キャリア概論」、「地域産業論」、「システム開発・設計」、「事業化可能性調査」</p> <p>○純粋に楽しかったです。学びも多く、これから利用できるものばかりでした。</p>
<p>「全科目」</p> <p>○すべての講義について、新しい発見と学びがあり、いずれの講義も満足致しました。</p>

質問 4－3.「やや不満足だった」、4－4.「不満足だった」を選んだ科目名とその理由をお書きください。（主な意見を抽出）

<p>「キャリア概論」</p> <p>○キャリアの転換等について、より実践的な内容を期待していたため。</p>
<p>「地域産業論」</p> <p>○IT を学びに来たつもりだったので個人的に要らないと思ったから。</p>
<p>「企業とデータサイエンス」</p> <p>○授業の進みも早く、私には全くついていけませんでした。データを読み取る力、コツがわかれば面白いのだろうな。と感じました。excel の勉強しっかりします。</p>
<p>「システム開発・設計」</p> <p>○他に応用の効かない内容だったから。</p>
<p>「企業インターンシップ」</p> <p>○企業が欲している人材と自分がかけ離れていたの、体験しても自分にとってプラスとなる部分が多かった。</p>
<p>「事業化可能性調査」</p> <p>○調査の時間が足りない、受講生の負担が大きい科目だったから。</p>

質問 5. プログラム全体に対する満足度についてご回答ください。



質問 5－1.「満足した」、5－2.「ほぼ満足した」を選んだ理由をお書きください。（主な意見を抽出）

- プログラム内容だけでなく、受講生同士のコミュニティを作る機会をいただけたことで、お互いに刺激できる知人ができました。
- 社会人の今、こんなに手厚く様々な分野の授業を受けることができ、本当に有り難く、とても良い刺激となりました。リカレントを運営してくださった先生や、講師の方の優しくあたたかいサポートもあり、最後まで不安なく受講できました。ありがとうございました。色々至れり尽くせりな受講で有り難かったのですが、パソコンの片付けや設営など先生方の負担を考えるともっと私たち自身が行う形でも問題なかったと思います。朝早くから夜遅くまでサポート有難うございました。
- 仕事をしながらの受講は思っていた以上にハードであった。不眠になりながらも頑張って乗り切り、久しぶりに自分を褒め称えたいくらいの充実感を得られた。無料でここまで手厚く講習を受けられたことに感謝しかない。

質問 5－3. 「やや不満足だった」、5－4. 「不満足だった」を選んだ理由をお書きください。（主な意見を抽出）

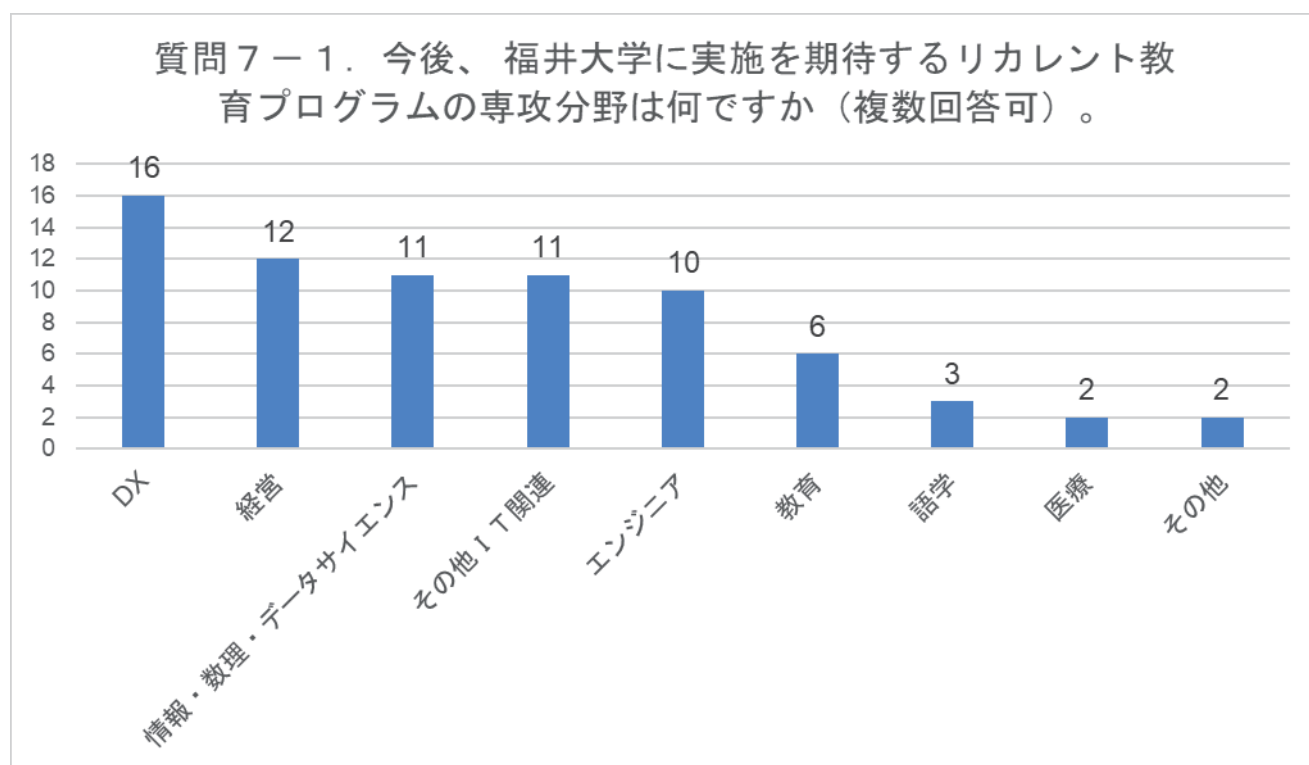
- IT に関する知識をそんな短期間で学べる訳がないため、IT に関する知識を高めるならもっと長期にわたって学べるプログラムがいいと思う。また、経営の授業も含まれていたため情報系のプログラムか経営の授業かどちらかに絞ったほうがよい。
- 応用が利かないと感じたから。

質問 6. その他プログラムに関し、自由に意見をお書きください。（主な意見を抽出）

- 今後のキャリアプランを考える上で非常に参考になる講義を多く受講できました。事業化可能性調査の講義は大学ならではの講義内容で、良い刺激になりましたので、同じような大学の施設を活かせるプログラムを増やしていくのはどうでしょうか。
- 2カ月お世話になり感謝しております。全体的に興味深く自分でも知識がついたかなと思っています。しいていえばカリキュラムの精査や順番に配慮いただけたら嬉しいです。例えばサイバーセキュリティの暗号の話は何回も色々な講義の場で出てきました。企業とデータサイエンスの授業で取り上げてもらったデータの取得も他講義と被ってました。データ取得はこの講義では実習もあり満足しましたが、一番最初に取り上げていただければ、他の講義の課題作成に生かせるのにもったいないなと感じました。知っていたら私だけでなく他の方のレポートの質も変わったかと思います。
- 自分にはハードルが高い部分を感じる講座もあったが、初心者で極めて知識や経験がない自分にとっては、より概論や基本的な部分を整理して学ぶことができ、今後の土台作りをしていただいたと手ごたえを感じている。運営側の意図また期待するところには私自身が全く及ばないレベルであり、本当にご迷惑もおかけしたが、いつも丁寧な声掛け、対応していただきありがたかった。ほかの参加者の方との交流や関係づくりにも励まされ学ぶことが多かった。私自身は、今後の自分の働き方を見直す良い機会となり、次のステップや資格取得に、より意欲的に研鑽していきたいという気持ちで、このプログラムを終了させていただき、とても感謝している。～色々ご指導いただき、ありがとうございました。～

〇とにかく、とても楽しく学べた２ヶ月間でした。やはり２ヶ月間ではなくもっと長く学べるとよかったなと思います。大学や講師やサポートしてくださる方の負担になりますが、もう少し長いスパンで学べるとよかったのではと思います。ただ、やはり不公平感。いつもこうなのか分かりませんが、同じ学びをするのに基本スキルの差がありすぎたように感じます。それにより、チームでのワークショップで声の大きい人を中心にまとまるチーム、みんなで話し合いまとまるチーム、全然まとまらずに仕方無く無理矢理感で進むチーム、最後まで全然まとまらないチーム…様々あったように見受けられました。次回のリカレントプログラムではそれが軽減され、全ての学ぶ人が楽しめるリカレントプログラムにしていけたらと思います。真剣に向き合ってくれていた講師やサポートしてくれていた事務局・学生のみなさんに感謝いたします。

質問７－１．今後、福井大学に実施を期待するリカレント教育プログラムの専攻分野は何ですか（複数回答可）。

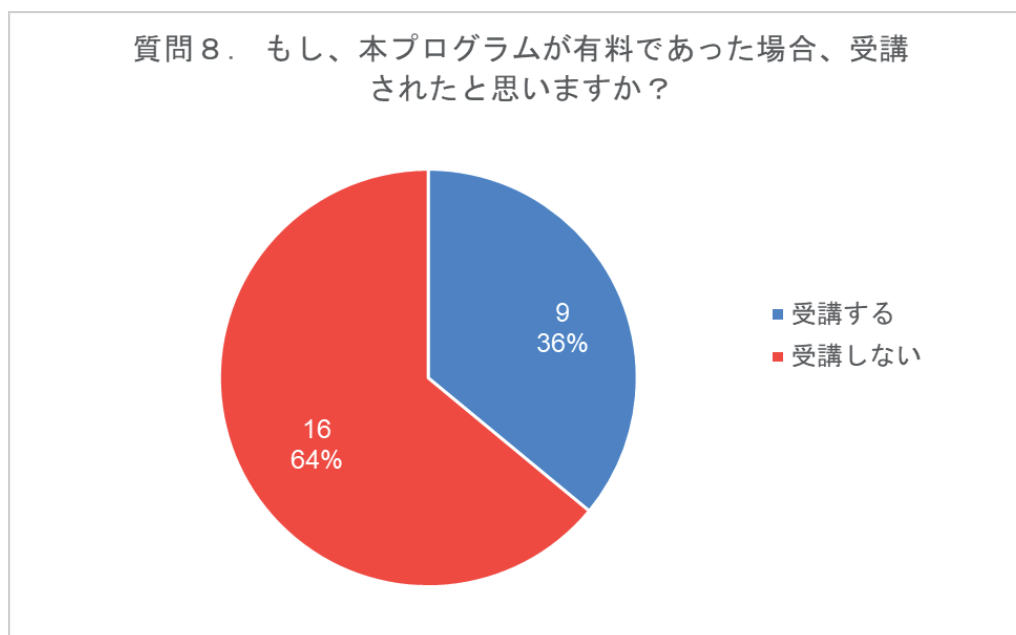


〇その他：心理的安全性等のコミュニケーション作り込み、心理学

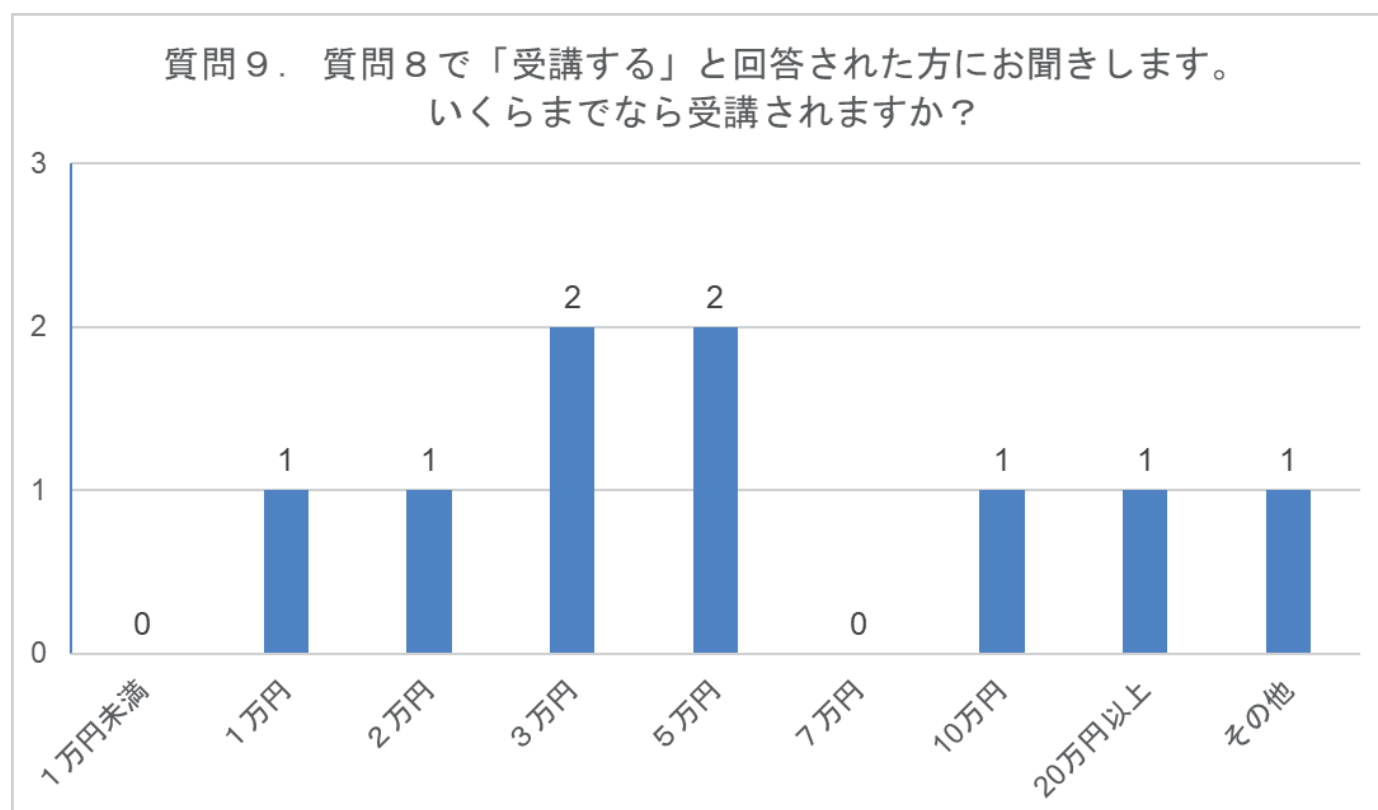
質問７－２．前の質問で、「その他IT関連」または「エンジニア」を選択された方は、具体的な分野についてご記入ください。（主な意見を抽出）

- 〇Slur、AI、RPA
- 〇サーバーの構築や実践レベルのプログラミング、データの読み方・活かし方、システムエンジニア
- 〇学校関係、スマホ
- 〇限定した言語

質問8. もし、本プログラムが有料であった場合、受講されたと思いますか？



質問9. 質問8で「受講する」と回答された方にお聞きします。いくらまでなら受講されますか？



○その他：2ヶ月間で5万円前後くらいだと財布に優しいのですが、難しいですね。

(6) プログラムの柔軟な見直し

プログラム期間中、特に開始時において、各授業が円滑に行われているのかを注意深く観察するとともに、受講者及び授業担当者の意見・要望も参考にして、プログラム途中で次のような見直しを行った。

- 「ビジネスマナー」については、受講者の就労状況、住所等を勘案して15人程度ずつA、Bの2クラスに振り分けたが、受講者からのやむを得ない事情による変更要望を受け、担当講師とも相談の上、柔軟に配置クラスを見直した。
- アプレンティス実習は「企業インターンシップ」、「事業化可能性調査」のいずれか1科目を選択必修であるが、「企業インターンシップ」受講者の一部から「事業化可能性調査」にも興味があり参加したいとの意見があったため、チームへの参加を認め、企業への提案策定・発表をチーム内で協力して行った。

(7) 修了率

受講者によって、情報技能習熟度など初期のスキルに幅があること、年齢や経歴が様々であること、就職を希望する企業種・職種が様々であることなど、プログラム運営が難しい状況に対応するため、次のような手厚い支援を行った結果、受講者31名中29名（94%）がプログラムを修了した。

- ワード、エクセル、パワーポイント等スキルを高めるオンデマンドコンテンツを作成して常時視聴することができる環境を構築した。
- 授業中や休憩時間に質問を受け付ける学生メンターを配置した。
- 「企業インターンシップ」と「事業化可能性調査」の振り分けについては、受講者に対し希望するインターンシップ先企業に係るアンケート調査を行った上で、インターンシップ受入企業と受講者との丁寧なマッチングを行った。
- 少人数クラス・メンタリング体制の「キャリア概論」において、授業の振り返り（発表）及び発表内容に関する受講者・担任教員による意見交換を行い、授業理解度を深めるとともに、受講者同士の様々な情報交換の場となったことが「落ちこぼれ」の防止につながった。

(8) 部分受講者への対応

部分受講者の教育については、オンラインの活用による授業担当者や運営担当者の負担軽減も考えられたが、教育の質の低下を招くとの懸念から正規受講者との合同による対面授業を行った。パソコン等の機器も確保するなど、正規受講者と同等の教育の質の担保を図った。

6. 受講者の就職・転職支援

(1) 就職・転職支援の取組

就職・転職支援については、福井労働局及びハローワークによる支援のほか、県内経済・金融団体等の協力も得つつ、インターンシップ受入企業への働きかけ等、次のような取組を展開した。

①インターンシップ受入企業への働きかけ

アプレンティス実習の「企業インターンシップ」受講者は、当該受入企業への就職・転職に結びつく可能性が高いため、次のような工夫をして就職・転職の支援に当たった。

(イ) 中途採用の可能性を有するインターンシップ受入企業の確保

「企業インターンシップ」受講者の就職・転職を担保するためには、中途採用のニーズがある一定程度以上の受入企業数を確保する必要があるため、福井大学産学官連携本部協力会会員企業（約 240 社）にアンケート調査を実施し募集するとともに、昨年度のプログラムで受入実績のある企業等に個別に依頼した結果、12 社を確保した（資料 3-11、3-12 参照）。

(ロ) 一昨年度及び昨年度の課題を踏まえた受講者と受入企業とのマッチング

一昨年度のプログラムでは、受講者の意向を尊重するためインターンシップ受入先に係る意向調査を行い、その結果を踏まえて受入企業とのマッチングを行ったが、この方法によると受講者の希望はどうしても一定の人気企業に集中する傾向があり、また企業側にも受入限度人数（1～2 名）があるので、受講者の希望に沿わない企業にも受入を割り振らざるを得ず、また企業の意向に沿わない無理な受入を当該企業に依頼せざるを得ないことなどの弊害が生じた。企業は現役大学生用のインターンシップは毎年準備しているものの、中途採用者用のインターンシップは新たな準備が必要で相当の負担となることもあり、当該受講者を雇用する意思がない企業に無理にインターンシップ受入を依頼したとしても、受講者側、企業側の双方にとって実りあるインターンシップとはならないということが課題として浮かび上がった。

このため、昨年度のプログラムでは、受講者に対するこのような意向調査は行わず、まずは受入企業の意向を重視することとし、選考面接時に受入企業の同席を求め、インターンシップ受入の意思（「ある」「十分検討できる」「難しい・ない」）を確認した上で、対象となる受講者の意向を確認し、受入先を決定した。ただ、受講者からは、受講者アンケート（中間・最終）において、意向が全て反映されることは困難かもしれないが、予め自身の受入希望企業の有無等について承知しておいてほしいので、意向調査自体は実施してほしいとの要望があった。

以上のことを受け、今年度は、受講振り分けの原則（職業に就いている受講

者は「事業化可能性調査」を受講し、職業に就いていない受講者は「企業インターンシップ」を受講すること。)をよく説明した上で、参考として受講者全員に意向調査を実施し、当結果をできるだけ尊重して、受入企業とのマッチングを行った。

なお、受入企業には、本学担当者が出向き、雇用も念頭においた受入を要請した。マッチングの結果、受入企業の意向も反映して職業に就いている者も対象とし、9名が「企業インターンシップ」を受講することとなった。

(ハ)「企業インターンシップ」受講に向けた留意事項の周知

受講者に対しては、プログラム開始前のオリエンテーション時に、受入企業への就職・転職も視野に受講に当たっての心構え(このプログラムではどのようなことを学び、どのようなスキル・知識が身に付くのかを整理しておき、これまでの経歴・経験とを合わせてどのような部署・職で活躍できるのかを説明できるようにして臨むこと、また、過去の実例からみて、企業インターンシップ先への就業は、連動するものではなく、両者のベクトルが合致した場合に可能性があるのもので、そのような姿勢で臨むこと)を指導した。

終了後には、受講者に成果報告書の作成・提出を指示するとともに、受入企業側からの雇用選考への応募案内の有無等を報告させた。

②福井労働局・ハローワークとの連携・協力

(イ) ハローワーク担当者へのプログラム内容の説明

福井労働局及び県内ハローワーク担当者に対し、プログラムで養成する人材像を含めたプログラム概要、応募・選考・就職転職支援等の具体的方法・スケジュール等に関する説明会を開催した。

○日 時：8月3日(木) 10:30～11:15

○場 所：ハローワーク福井

○説明者：事業ディレクター、事務担当者

○参加者：福井労働局、ハローワーク福井等の担当者 計8名

(ロ) 就職・転職相談強化週間の設定

プログラム終了後の受講者の就職・転職支援のあり方について福井労働局と協議した結果、昨年度と同様に2週間の就職・転職相談強化週間(12月1日(金)～15日(金)(2週間))を設けてハローワークにおいて集中的に取り組むこととし、プログラム終了前の11月20日(月)に受講者に次のとおり積極的な活用を周知・要請した。

この周知・要請の結果、当期間のハローワークへの訪問・相談者数は6名(延べ8件)となった。

資料6-1：受講者への周知・案内内容

- (1) 12月1日（金）から15日（金）までを強化週間として実施するので、必ずその期間内に最寄りのハローワークを訪問してほしいこと。
なお、強化週間終了後も就職・転職相談は継続していくこと。
- (2) 既にハローワークに求職登録・相談している受講者も、改めて必ずこの期間に訪問してほしいこと。
- (3) 月初めは一般の訪問者も多くなり、時間についても昼前や閉庁時間直前は避け、仲間でまとまることなく分散して訪問してほしいこと。
- (4) 求職登録をしていない受講者は、事前にパソコン又はスマートフォンを使い「ハローワークインターネットサービス」から、必ず求職登録を完了してから訪問してほしいこと（相談の場で行うこととなった場合、登録に20～30分要し、十分な相談時間の確保ができなくなるため）。
- (5) 訪問する際は、本学から提供した受講者証を携帯し、プログラム受講者であることを告げてほしいこと。

③本学の取組

(イ) オリエンテーション時の助言・指導

一昨年度及び昨年度の経験を踏まえ、9月29日（金）に実施した受講者オリエンテーションの「受講者に係る生活上の留意点」の中で、就職・転職活動に係る留意事項を説明した。

資料6-2：オリエンテーション配付資料（抜粋）

3. 就職・転職活動に係る留意事項とお願い

- (1) 受講者の就職・転職支援については、県内ハローワークと連携・協力の下、実施していきます。面接前の質問シートで「現在は就業・転職の希望はない」、「将来的に就業または転職の予定」を選択された方や起業を目指している方などを除き、原則としてハローワークで求職登録を行っていただくとともに、月1回以上はハローワーク窓口へ相談に出向くようお願いいたします。なお、求職登録や窓口相談の際は、福井大学のリカレントプログラム受講者であることをお申し出ください。

プログラム期間中や終了後に、受講者を対象として採用希望企業を募りマッチングの場などを設けてほしいとの要望が毎回ありますが、ハローワークと相談した結果、受講者の経歴や希望職種等が様々で、企業側のニーズと受講者側のニーズがミスマッチを起こす可能性が高く、むしろ受講者一人一人の事情に合わせて就業斡旋をする方が最も有効な手段と考えられると判断いたしました。したがって、ハローワークを窓口とした相談を中心に就職支援を行っていくこととしていますので、ご理解ください。

- (2) 就職・転職の方法としては、「ハローワークの紹介を通して就業する」ほか、「企業イン

ターンシップ先に就業する」、「自分自身で人材紹介会社に登録して就業する」、「自分自身で探してくる」などが主です。いずれにしても、待ちの姿勢ではなく、自分自身で早くから積極的に活動される方が就業に結びついています。

また、企業にアプローチする際は、このプログラムではどのようなことを学び、どのようなスキル・知識が身に付くのかを整理しておき、これまでの経歴・経験とを合わせてどのような部署・職で活躍できるのかを説明できるようにして臨んでください。

(3) その他、少数ですが「授業担当の企業の講師から声をかけられて就業する」例や、「プログラムの評判を聞いて会社説明会の開催を希望した企業が、本学で説明会を実施した結果、就業する」例もあります。

本学としてご協力できることとしては、このプログラム運営に協力いただいている人材紹介企業の（株）福井キャリアマネジメントへの求職登録について、近日中にメールで希望を募りたいと思いますので、奮って応募ください。

(ロ) 企業紹介

本学と教育研究面で連携・協力している企業との様々なつながりを活用した本学独自の企業紹介を行った。また、本事業に協力している金融機関傘下の人材紹介企業の協力を得て、当社への求職登録の案内を行った。

資料6-3：人材紹介企業への求職登録案内内容

別添資料のとおり、（株）福井銀行では一昨年の11月に「（株）福井キャリアマネジメント」を設立し、職業紹介事業を開始しています。

この度、当会社のご担当の方から、受講者の皆さんの中で当会社に求職登録を希望する方がいれば受け付けたいとの連絡をいただきました。

ご存じのように、金融機関は企業に関する様々な情報を保有しており、ハローワーク等への登録に加えてこちらでも活用すれば、より就職・転職に有利となるだろうと思います。

つきましては、登録を希望する場合は、折り返し10月10日（火）17時までにご連絡ください。

ただ、誰でも申し込めば登録してくれるわけではなく、登録に向けての手続き（チェック）があるとのことです。

今後の手続きとしては、本学の方で登録希望者の氏名・メールアドレス・電話番号を取りまとめて当会社のご担当の方に送付し、その後ご担当の方から直接登録希望者に対し、登録に係る手続きの連絡があるとのことです。

手続きの結果、登録可能と判定された方は登録され、その後早い人で登録後1か月程度で求人企業を紹介できるとのことです。

メールアドレス・電話番号は、提供いただいているものを本学で取りまとめますが、変更等あれば、併せてご連絡ください。

④自主的活動

上記までの取組のほか、自分自身で人材紹介企業に登録を行う等、相応しい企業を探し出し、就職活動を行う受講者もいた。

⑤キャリアコンサルティングの実施

(イ) ハローワークの取組

ハローワークでは、プログラム受講申込時、受講中、受講後の就職・転職相談強化週間等において、相談に来た受講者に対する就業意識、キャリア形成に係る意識付けなどを行った。9月29日（金）に実施した受講者オリエンテーションでもハローワーク福井の担当者が説明者として参加し、受講者全員に対し最寄りのハローワークで求職登録を行うよう指導しており（資料5-1参照）、必要に応じ各受講者がハローワークに出向き、キャリアコンサルティングを受けた。全ての授業が終了した後に設けた就職・転職相談強化週間（12月1日（金）から15日（金）まで）においては、ハローワークを訪問・相談した受講者6名（延べ8回）がキャリアコンサルティングを受けた（資料6-1参照）。

(ロ) 「企業インターンシップ」受講に向けた留意事項の周知

インターンシップ受入企業への就職・転職も視野に受講に当たっての心構え（このプログラムではどのようなことを学び、どのようなスキル・知識が身に付くのかを整理しておき、これまでの経歴・経験とを合わせてどのような部署・職で活躍できるのかを説明できるようにして臨むこと、また、過去の実例からみて、企業インターンシップ先への就業は、連動するものではなく、両者のベクトルが合致した場合に可能性があるので、そのような姿勢で臨むこと）をオリエンテーション時に指導するとともに、経歴の浅い受講者には事前に面談し、直接指導した。（上記①の（ハ）「企業インターンシップ」受講に向けた留意事項の周知」参照）。

(ハ) 「キャリア概論」における取組

「キャリア概論」では、5～6名の少人数クラス分けによるメンター制を取り入れ、毎回受講者一名が、インターンシップ受入企業等、特定の企業の調査・分析及び発表を行い、他の受講者も交えて、当該企業を調査対象とした理由、就職・転職希望の有無、就職・転職に向けてのこれまでのキャリアやプログラムで学び身に付けたスキル・能力の活かし方等について意見交換する中で、キャリア形成のヒントを得、また他の発表者の経験を自分の今後に活かす機会となり、実質を伴ったキャリアコンサルティングの場となった。

(2) 就職率、就職・在職率及び新規就職・転職者数

①就職率

就職率の数値目標は75%以上とした。上記（1）の取組の結果、修了者29名

のうち、受講開始時（10月1日）に非正規雇用労働者である者及び失業者等の職を持たない者12名に対し就職又は内定を受けた者は2名（正規雇用労働者1名、非正規雇用労働者から正規雇用労働者となった者1名）、その割合は17%（2月28日現在）となり、プログラム修了（令和6年1月19日）後3か月以内の数値目標（75%以上）の達成に向けて、今後も手厚い就職・転職支援を継続する予定である。

②就職・在職率

就職・在職率の数値目標は87%以上とした。上記（1）の取組の結果、修了者29名のうち、就職又は内定を受けた者は上記①のとおり2名、転職した者は4名（正規雇用労働者から正規雇用労働者3名、非正規雇用労働者から非正規雇用労働者1名）、受講開始時と同じ職場に在職している者17名、その割合は79%（2月28日現在）となり、プログラム修了（令和6年1月19日）後3か月以内の数値目標（87%以上）の達成に向けて、今後も手厚い就職・転職支援を継続する予定である。

③新規就職・転職者数

新規就職・転職者数の数値目標は10名とした。上記①のとおり就職者数は2名、上記②のとおり転職者数は4名、合計6名（2月28日現在）となり、プログラム修了（令和6年1月19日）後3か月以内の数値目標（10名）の達成に向けて、今後も手厚い就職・転職支援を継続する予定である。

（3）その他

①就業先企業アンケート

受講者が就職・転職した企業のうち3社（2月28日現在）に対し、このプログラムにより身に付けたスキル・能力が雇用に至った要因となったか等を質問項目として、プログラム内容の検証・分析を行うとともに、今後のリカレント教育の改善に資するため、次のとおりアンケートを実施した。

○アンケート期間：12月21日（木）～2月28日（金）現在

○回答企業数：3社

○質問事項・回答：アンケート結果のとおり

資料 6-4：就業先企業アンケート結果（2月28日現在）

質問1. このプログラムはどこでお知りになりましたか。該当する番号を○で囲んでください（複数回答可）。

- (1) 福井大学から聞いた **(2社)**
- (2) ハローワークから聞いた
- (3) 他の企業・経済団体関係者から聞いた
- (4) テレビコマーシャルで知った
- (5) ホームページ、SNSで知った
- (6) 今回雇用（内定）したプログラム修了者から聞いて初めて知った **(1社)**
- (7) その他（ ）

質問2. このプログラムの受講により、ITスキル、ビジネスマナー等の総合的な人間力が育まれたことが、今回の雇用（内定）に至った重要な要因となりましたか。該当する番号を○で囲んでください。

- (1) 非常に重要であった (3社)
(2) 重要であった
(3) あまり重要ではなかった
(4) 重要ではなかった

質問3. 雇用（内定）したプログラム修了者の配属部署はどこですか。該当する番号を○で囲んでください。

- (1) 情報処理 (1社)
- (2) 製造
- (3) 設計
- (4) 企画
- (5) 研究開発 (1社)
- (6) 事務
- (7) その他(法人本部) (1社)
- (8) 未定

質問4. このようなプログラムの受講により、ITスキル、ビジネスマナー等の総合的な人間力が育まれた人材を今後も雇用したいと思いますか。該当する番号を○で囲んでください。

- (1) 思う (3社)
(2) 思わない

「思わない」を選んだ場合は、理由をお書きください。

質問 5. 今回のプログラムの内容・レベル等について、意見・要望があればお書きください。

○非常にタイトなスケジュールだったにもかかわらず、しっかりと取り組まれていた印象を持った。(1社)

質問 6. 今後、福井大学に実施を期待する失業者等の就職・転職支援を目的としたリカレントプログラムの専攻分野は何ですか。該当する番号を○で囲んでください（複数回答可）。

- (1) DX (3社)
- (2) 情報・数理・データサイエンス
- (3) その他 IT 関連 (分野:)
- (4) 教育
- (5) 医療
- (6) エンジニア (分野:)
- (7) 経営 (1社)
- (8) 語学
- (9) その他 ()

質問 7. 今後、福井大学では企業の社員等のスキルアップを目的としたリカレント教育（リスキリング）にも取り組んでいく予定ですが、実施を期待するリスキリングプログラムの専攻分野は何ですか。該当する番号を○で囲んでください（複数回答可）。

- (1) 上記「質問 6」の回答と同じ (3社)
- (2) DX
- (3) 情報・数理・データサイエンス
- (4) その他 IT 関連 (分野:)
- (5) 教育
- (6) 医療
- (7) エンジニア (分野:)
- (8) 経営
- (9) 語学
- (10) その他 ()

②就業先企業・企業インターンシップ受入企業の担当者と就業者等との意見交換会の開催

受講者が就職・転職した企業や企業インターンシップ受入企業の担当者を招いて就業者やプログラム実施関係者と意見交換を行い、プログラム内容の検証・分析を行うとともに、今後のリカレント教育の改善に資するため、次のとおり意見交換会を開催した。なお、意見交換の内容を深めるため、昨年度のプログラム修了者2名、一昨年度のプログラム修了者1名、計3名にも参加を依頼した。

資料6-5：意見交換会の概要

1. 日時

令和6年1月19日（金）

20時5分～20時40分

2. 場所

総合研究棟Ⅰ（西館）13階会議室（文京キャンパス）

3. 次第

プログラムに関し、参加者によるフリートーク

4. 参加者

- ・プログラム修了者、昨年度、一昨年度のプログラム修了者
- ・事業責任者、事業副責任者、プログラム開発・事業実施責任者、事業実施委員会委員、キャリア概論クラス担任等
- ・就業先・企業インターンシップ受入先企業の担当者



7. プログラムの目標達成状況

(1) 受講者数：30名程度（目標）⇒31名（結果）

事業実施委員会は、労働局・ハローワーク及び福井県産業労働部と連携し、地域の失業者や転職希望者に呼びかけ、福井県交流文化部を通して都市圏のUターン希望者も含め広範囲から募集を行った。その結果、目標の30名を上回る33名の応募があった。選考面接を通じて受講者の意欲や資質を確認し、31名が受講者として選ばれ、目標を達成した。最終的に、31名の受講者中29名がプログラムを修了した。

(2) 部分受講者数：300名程度（目標）⇒応募者数44名、受講者数33名（結果）

部分受講の募集では、勤務しながらスキルアップを目指す者にも門戸を開き、様々な広報活動を通じて受講者の確保を試みた。募集期間は正規受講者の募集後に設定し、申込手続きを簡素化する工夫も行った。科目の一部については有料化を導入した。これらの結果、目標の300名には達しなかったものの、44名の申込みと33名の受講者を得ることができた。

(3) 就職率：75%以上（目標）⇒17%（結果）（令和6年2月28日現在）（数値の上方修正部分は独自目標（公募時指定67%以上））

就職・在職率：87%以上（目標）⇒79%（結果）（令和6年2月28日現在）（数値の上方修正部分は独自目標（公募時指定80%以上））

新規就職・転職者数：10名（目標）⇒6名（結果）（令和6年2月28日現在）

選考面接では、受講者の将来の就業を見据え、企業の経営者や人事担当者が同席し、雇用側の視点を取り入れた選考を実施した。また、プログラムでは、地域企業や福井県担当部署からの講師による地域の産業や企業理解を促す科目を多く取り入れるとともに、地域企業での就業体験や企業事情に沿った事業化可能性調査を取り入れるなど、プログラム終了後の円滑な就業を見据えた工夫を行った。労働局・ハローワークとも密接に連携し、プログラム受講者一人一人の要望や事情に寄り添った手厚い就職・転職支援を展開した。

この結果、令和6年2月28日現在で、就職率算定の対象となる失業者・非正規雇用労働者12名のうち2名（17%）の就職が決定していること、就職・在職率算定の対象となる修了者29名のうち23名（79%）の就職・転職・在職が決定していること、また上記2名の就職者のほかに4名の転職者、合計6名の新規就職・転職が決定していることから、プログラム修了後3か月以内を目途に目標値の達成に向けて今後も手厚い就職支援を継続していく予定である。

(4) 受講者の評価（肯定的評価）：90%以上、企業等の評価（肯定的評価）：90%以上

受講者の情報技能習熟度など初期のスキルに幅があるため、全員がプログラムを円滑に受講できるように、ワード、エクセル、パワーポイント等スキルを高めるオンマンドコンテンツを事前に準備し、いつでも視聴できる環境を構築するとともに、

情報リテラシーに関する講義アシスタントを本学学生が担当し、「キャリア概論」では少人数クラス分けを実施した。

また、アプレンティス科目では「システム開発・設計コース」と「DX（現代社会のデジタル化コース）」の2コースに分け専門性を磨いた。このようにスキルの確実な定着を図り、受講者と企業の双方の満足度を高める取組を展開した結果、プログラム終了後の受講者及び就業先企業に対する満足度アンケート調査では、修了者29名うち回答した者25名中「プログラム全体に対する満足度」について「満足した」「ほぼ満足した」が23名（92%）となった。

また、就業先企業は回答3社（令和6年2月28日現在）中「このプログラムの受講によりITスキル、ビジネスマナー等の総合的な人間力が育まれたことが、今回の雇用に至った重要な要因となったか」について「非常に重要であった」が3社（100%）となった。

（5）U・Iターン受講申込者数：8名以上（目標）⇒申込2名、受講2名（結果）

福井県と連携し、県が有する福井県出身の都市部在住者のメーリングリストでの呼びかけを行った結果、目標には届かなかったものの、一定の成果を得た。本結果は、今後も本事業を行う過程において、県の協力を得るための成果となる。

8. 事業の成果・課題

(1) 事業の概要

①成果

大きなトラブルもなく、概ね次のとおり当初の予定どおり事業を展開することができた。なお、様々な数値目標の達成状況については「**7. プログラムの目標達成状況**」を参照。

○3～4月の主な取組

- ・福井大学産学官連携本部協力会会員企業（約240社）に対し、プログラム内容や中途採用のニーズ、インターンシップ受入の可否等に関するアンケートを実施し、プログラム策定の参考にするとともに、一定数のインターンシップ受入先企業を確保することができた。
- ・事業に連携して取り組む福井県、福井労働局、地域経済団体等に対し、昨年度実施したプログラムの課題も踏まえた上で、事業の円滑な運営を図るための具体的なスケジュール・協力内容を提示して事業協力の要請を行い、了解を得た。特に、福井労働局とは、スケジュールに沿った計画的な受講者の就職・転職支援を図るため、予め具体的な年間スケジュールを作成し情報共有を図った。

○5～7月の主な取組

- ・本格的に授業担当者との授業日程・授業内容等の調整を進め、プログラム内容の精査・確定を行った。また、部分受講者の募集人員、応募方法、受講方法等についても検討し、正規受講者との棲み分けを図るとともに、合同での対面授業を円滑に行うための方策を検討した。
- ・補助事業の採択後にできるだけ速やかに受講者確保に向けた広報を開始できるように、予め事業案内チラシ、受講ガイド、受講者募集要項、専用ホームページ、テレビCM等の広報媒体の準備を進め、準備が整った7月末から本格的な広報を開始した。

○8～9月の主な取組

- ・広報開始後、8月中旬から募集を開始するとともに、募集期間終了まで広報活動を展開した。その結果、募集人員30名を上回る応募者があった。
- ・受講申込者に係る選考面接について、雇用側の観点を参考にするとともに「企業インターンシップ」受講者の受入企業への就職・転職の促進を図るため、受入企業の担当者に同席を要請し、企業側の評価も踏まえた上で、受講者を決定した。
- ・プログラムを円滑にスタートさせるため、開始前に受講者に対するオリエンテーションを開催した。その際、キャリアコンサルティングの充実を図り受講者の就業意識を高めるため、ハローワーク担当者による求職者登録、ハロ

ーワークの活用方法に関する説明を行った。

- ・部分受講者について、地方創生を目的とした産学官金医による連携組織「未来協働プラットフォームふくい」が推進するリスクリングとして本プログラムの部分受講を位置付け、構成メンバーの経済団体及び福井県を通して、チラシ等による企業・自治体の社員・職員に対する広報活動を展開した結果、相当数の応募者があった。

○10～11月の主な取組

- ・受講者の意見・要望を踏まえて、プログラムの途中においても授業クラスの変更、担当講師の都合による休講に伴う補講日の設定等、柔軟に時間割の変更・調整等を行うなどの配慮を行った結果、10月の授業終了後に実施した中間アンケートにおいて受講環境等に関する改善要望はなく、一部の「企業インターンシップ」を除き11月末に全授業を大きなトラブルもなく終了した。また、受講者31名中29名が最後まで授業を受講した。
- ・部分受講者について、パソコン等の使用機器の確保等、正規受講者と同等の受講環境を担保した。

○12～1月の主な取組

- ・「企業インターンシップ」を全て終了した。
- ・福井労働局・ハローワークと連携して、就職・転職相談強化週間（2週間）を設定し、集中的にきめ細かな就職・転職支援を行った。
- ・プログラムの検証・分析を行うため、受講者及び就業先企業に対するアンケートを実施するとともに、受講者と就業先・企業インターンシップ受入先企業の担当者による意見交換会を開催した。
- ・「企業インターンシップ」受講者による成果発表会を開催して当科目の認定を行い、受講者31名中29名のプログラム修了を認定した。

○2～3月の主な取組

- ・受講者及び就業先企業に対するアンケート結果等を踏まえて、実績報告書・成果報告書を作成した。

○その他

- ・補助事業の採択（6月下旬）後、事業実施委員会をほぼ毎月1回開催して、情報共有、プログラムの見直し等、事業の円滑化を図った。

②課題

- 学内教員を授業担当講師に活用することは通常業務への負荷となるため、インセンティブ供与による財源を含めた支援があることが望ましく、またプログラム実行にあたっては職員の支援も必須であり教職協働という観点からも職員に対するインセンティブも併せて考慮する必要がある。今年度取り組んだ他のリカレント教育プログラムにおけるインセンティブ供与の取扱いも参考にし

て具体的検討を進める必要がある。併せて、退職教員の利活用など教員リソースの確保の方策を検討する必要もある。

- 職業訓練受講給付金制度により授業時間数を1か月あたり60時間以上とする必要があるが、失業中の者に加え職業を有する転職希望者との受講の両立を図るため、週末を中心としたカリキュラムにせざるを得ない。昨年度実施したプログラムの受講者からの改善意見を踏まえ、プログラム授業時間数を136時間から128時間に削減したものの、正規雇用労働者、非正規雇用労働者を問わず職業を有する受講者にとってはかなりの負担となった。
- 事業の数値目標として就職率を掲げることは、事業の趣旨に鑑みやむを得ないこととは思われるが、そのことだけに囚われると事業の本質を見誤る恐れがある。受講者の中には、必ずしも就職・転職の緊急性や強い拘りがなく、大学が行う高度なプログラムを受講すること自体や自身のスキルアップに重きを置いている者が、選考段階でのアンケート調査や面接での質疑をすり抜け、少なからず存在していると思われる。このような状況の中で、事業の真の効果を知るためには、就職・転職者数の多少よりもむしろ、就職・転職者の追跡調査をすることが重要であるため、12月に昨年度のプログラム修了者に対する追跡調査を行った。結果は、例えばプログラム修了後3か月の間に就職しなかった失業者が、受講をきっかけに様々なITに関する資格を取得し、それを活かしてインフラエンジニアとして企業の正規雇用職員へ就職する等、就労状況のステップアップを実現させた事例が確認できた。また、多くの回答者から、身に付けたIT知識が仕事で活かされる場面が多々ある、様々な価値観を持った人たちとプログラムを最後まで学んだことが自分自身を見つめ直すきっかけになった、ITを本格的に勉強するためのきっかけになった等の高評価を受けたところである。（「(7) 昨年度のプログラム修了者の追跡調査」参照）。
- 職業訓練受講給付金対象プログラムの場合、受講者から受講料を徴収できない中で、補助金の補助が3分の2以内のため残り3分の1を大学の予算を持ち出して事業を実施することは、財政的に相当な困難を伴うことは否めない。労働政策の一環である当プログラムに限り特例的に全額補助とする取扱いが望ましい。

(2) 事業の実施体制

①取組の概要

○県内の産（福井県経営者協会、福井大学産学官連携本部協力会、福井大学同窓経営者の会）、学（県内高等教育機関）、官（福井労働局・ハローワーク、福井県）、金（福井県銀行協会）が、各々の役割を果たすとともに、調整・取りまとめ役となる事業実施委員会が中心となって事業を運営した。

②成果

- 事業の広報、受講者募集、受講者の選考、プログラムの運営・見直し、企業インターンシップの実施、就職・転職支援等において、事業実施委員会の調整の下、各機関が連携を密にして取り組んだことにより、募集人員を上回る申込者数、高い修了率、受講者・就業先企業の満足度が得られた。

③課題

- 事業を円滑に進め今後も当事業を継続・発展させる上で、受講者に係る就労体験の場を提供し、最終的には雇用する立場にある企業側の本事業に対する理解・協力が必要不可欠である。事業を実施する大学等や関係機関はもとより、国全体として経済界に対する事業への理解を深める取組の積極的な推進が必要不可欠である。

(3) プログラムの内容

①取組の概要

(イ) 全般

- 本事業では、令和5年10月、11月の2カ月間を基本的な教育期間として、就労体験を含め1人当たり128時間の教育プログラムを実施した。
- プログラム策定にあたり、令和4年3月に実施した福井大学産学官連携本部協力会会員企業（約240社）に対するプログラムの内容や求める人材養成像等に関するアンケートの結果や昨年度受講者に対するアンケートの結果を参考とした。
- ITに関する専門的なスキル・知識を実践を通して学ばせるため、「システム開発・設計」、「DX（現代社会のデジタル化）」という受講目的をイメージしやすい名称の二つのクラスを設け、それぞれの受入人数を15名程度とし、いずれかのクラスを申込時に選択させた。
- 受講者が就職・転職した企業のうち3社（2月28日現在）に対し、プログラム内容の検証・分析を行うとともに今後のリカレント教育の改善に資するため、このプログラムにより身に付けたスキル・能力が雇用に至った要因となったか等を質問項目として、アンケートを実施した。
- 受講者が就職・転職した企業及び企業インターンシップ受入企業3社の担当者を招いて受講者やプログラム実施関係者と意見交換を行ってプログラム内容の検証・分析を行い今後のリカレント教育の改善に資するため、1月19日（金）に本学関係者、事業実施委員会委員を交えて、本学で意見交換会を開催した。

(ロ) 企業インターンシップ

- 「企業インターンシップ」受講者は、当受入企業への就職・転職に結びつく可能性が高く、一定程度以上の受入企業数を確保する必要があるため、福井大学産学官連携本部協力会会員企業へのアンケートの中で、中途採用のニー

ズ、インターンシップ受入の可否についても質問を行った上で受入を依頼するとともに、前年度のプログラムで受入実績のある企業等に個別に依頼した結果、12社を確保した。

- 選考面接時に同席した受入承諾企業の担当者の意見（自社へのインターンシップ受入の意思（ある、十分検討できる、難しい・ない））を尊重し、かつ受講者の経歴等も参考にして、各受講者に最も相応しいと考えられるインターンシップ受入企業について本人の意向を確認し、受入企業を決定した。なお、マッチングの結果、受講者31名中9名が「企業インターンシップ」（全部で6社）を受講することとなった。
- 受講者に対しては、プログラム開始前のオリエンテーション時に、受入企業への就職も視野に受講に当たっての心構え（このプログラムではどのようなことを学び、どのようなスキル・知識が身に付くのかを整理しておき、これまでの経歴・経験とを合わせてどのような部署・職で活躍できるのかを説明できるようにして臨むこと、また、過去の実例からみて、企業インターンシップ先への就業は、連動するものではなく、両者のベクトルが合致した場合に可能性があるので、そのような姿勢で臨むこと）を指導した。
- 終了後には、受講者に成果報告書の作成・提出を指示するとともに、受入企業側からの雇用選考への応募案内の有無等を報告させた。また、受入企業には、受入期間・研修内容等を記載した受入証明書の提出を要請した。
- 「企業インターンシップ」は、成果を発表し審査に合格することをもって認定（合格）するため、1月19日（金）に受入企業の担当者も参加して成果発表会を開催した。

（ハ）事業化可能性調査

- 受講者20名及び「企業インターンシップ」受講者のうち「事業化可能性調査」の受講も希望した2名が4～5名ずつ5チームに分かれ、チーム毎に地域の企業を多面的に分析し、その企業における新規事業について、市場規模、ペルソナ、実現可能性、中期事業計画までの一連の提案を取りまとめ、中間発表会を経て最終発表会で成果発表を行った。

②成果

（イ）全般

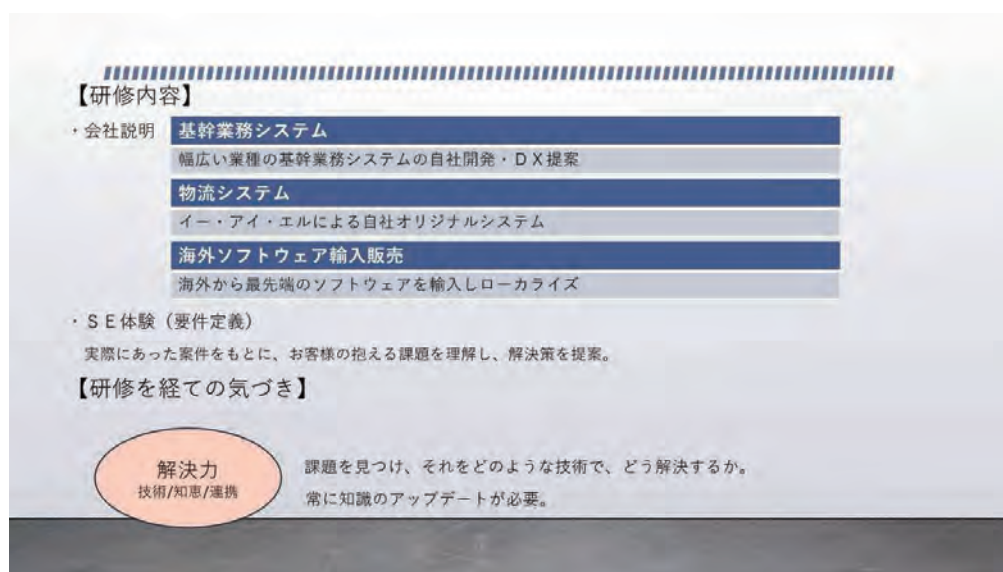
- 受講者アンケート結果から、プログラムに対する満足度が高いことが伺えた（資料5－8参照）。
- 就業先企業アンケート結果（2月28日現在）では、質問「このプログラムにより、ITスキル、ビジネスマナー等の総合的な人間力が育まれたことが、今回の雇用（内定）に至った重要な要因となりましたか」に対し3社中3社（100%）が「非常に重要であった」と回答し、また質問「このようなプログ

ラムの受講により、ITスキル、ビジネスマナー等の総合的な人間力が育まれた人材を今後も雇用したいと思いませんか」に対し3社中3社（100％）が「思う」と回答しており、当プログラムが養成する人材への企業側の雇用ニーズが高いことが判明した。また、今後実施してほしいリカレントプログラムの分野について、DX系（DX3社、経営1社）が多いことが判明し、今後の本学の取組の方向性を決定する上での参考となった（資料6－4参照）。

（ロ）企業インターンシップ

- 受入企業を一定数（12社）確保し、かつ、受講者と受入企業とのマッチングをできるだけ丁寧に行った結果、手続きを円滑に進めることができ、また、「企業インターンシップ」自体も特段のトラブルもなく全員が最後まで受講し、成果報告書も作成・提出できた。
- 成果発表会において、成果報告書及び発表の内容を基に各クラス担当教員が審査するとともに、担当クラス以外の受講者についても相互に内容を確認した結果、受講者9名全員が認定（合格）された。

資料8－1：「企業インターンシップ」成果報告書



研修内容

【1日目】
会社説明と南越特別支援学校での、先生方に向けたネットワークセキュリティの講義受講

【2日目】
若狭湾エネルギー研究センターにてサーバー室内で、スイッチングハブのファームの入れ替え作業

得られた成果 気づき
会社名はテクノロジー&システムの略、主な取引先は官公庁地方自治体教育機関等、嶺南地区を中心に関西方面まで手広くビジネス展開している会社だと分かった。
SI事業部ではSierとしての経験技術を活かし設計から導入、運用まで全てのITライフサイクルをトータルサポートしている。製品を売りっぱなしの企業が多い中、顧客を大事にしていることがわかった。
官公庁地方自治体や教育機関などではMDMを使用しセキュリティ強化管理していることを新たに知れた。(MDMとは、モバイルデジタルマネジメントの略。スマートフォンなどのモバイル端末を一元管理・運用し、デバイスのセキュリティ強化に役立つシステム)
ファームとは簡単に説明するとOSのアップデートの事
IT業界の専門用語はメーカーや企業によって意味は同じでも言い方が違うことがわかった。
新たな気づきではないが、どの業界も常に知識をアップデートしていかなければいけない。

・研修内容

1日目
開発業務
→JavaScriptでPATLITE製インターフェイスコンバータ (PHN-D88) に接続されている「OUTPUT」をweb上のボタンを押したら接続がうまく行っているかチェックできるものを作成することを目指す

2日目
社内案内、電気工事体験
→午前中は美山にある水力発電所のカメラから検知した水質から、タービンを動かすか判断するプログラムの調整作業の見学
午後からは社内案内、電話設備の設置、運用方法や保守作業の説明を受ける
また、業務で使用される電話機 (約200回線) のケーブルの管理の仕方や設置するための専用工具の使い方、LANケーブル (B) 作成の体験を実施

・得られた成果、気づき

- ・Sierとしての業務を間近で見学したことで、常に情報収集することの大切さや、多岐にわたる業務に対応するための勉強が欠かせないことを再確認できた。
- ・開発だけでなく、設置工事や品質管理の方法の説明を受けることで、会社全体の業務の流れを把握することができた。

研修内容

1日目
・会社説明
・職場見学
・Adalo使用のノーコード開発体験(課題有)

2日目
・Adalo使用のノーコード開発体験(自由テーマ)
・各部署社員とのフリートーク
・Kotlin使用のWEBアプリ開発体験

得られた成果・気づき

- ・大手ベンダーからの委託で官公庁の基幹システムを部分的に開発しており、各社で開発されたものは都内で大掛かりな運用テストを行う為、この仕事を担当している社員の大抵の方は都内に在住している。
- ・近年のIT人材不足、IT需要から人手が足りない・人手を増やしたいと感じ取れた。
- ・ドコモ系の某アプリを委託開発しており、そのアプリが自分自身も利用させて頂いているアプリだったので非常に身近な企業だと感じました。

【研修内容】

【1日目】会社見学、ノーコード開発(Adalo)及び座談会

【2日目】ノーコード開発(Adalo)及びアプリ開発(Android Studio)を使用

【得られた気づき】

IT企業の風土及び社風に直接触れる
→IT業界で稼働する自己像の具体的なイメージ

早期入社制度、フレックスタイム、リフレッシュメント等→「人材が大事」という姿勢

各要素を有機的に結合し、アプリとしての機能を実現することの難しさ

要件に忠実に開発することの難しさ

機能を実現する方法は一通りではない
→顧客目線で最適な物を選択

公共システム：制度、法規等の理解が不可欠
モバイルアプリ：進取の気性

※年間46,000戸以上の家を供給している日本住宅供給シェアNo.1であるグループの一員として木材の輸入・製造・加工を行う。環境への配慮と厳格な製造工程管理で質の高い住宅建材を製造し、高度に確立された物流体制で、全国各地の住宅メーカーに納品している。大野工場は170人

【研修内容】

11/14(火)：会社案内DVD視聴→工場見学→質疑応答→実習（17リリダバの交換、電圧開閉器不良確認、接点交換、モーター不良確認・ベアリング交換）
11/15(水)：製造ライン加工機・ロボットのトラブル対応（モーター交換、インバータ速度調整、エンコーダ不具合調査、シーケンサ供給電源確認・調整等）

【得られた成果】即戦力として活躍できました

私は現職が製造プラント工場の設備保全業務のため、2日目の様々な製造ラインのトラブル対応に、自分の持つ様々なスキルをそのまま活かすことができました。

【気づき】慢性的な人手不足 製造ラインには多数の外国人技能実習生（カンボジア）の若者が働いていました。

保全保全業務担当の方が1名しかいないため、トラブルが集中した際は優先順位をつけ、人手は現場の班長さんの協力を得ながら対応されていました。



研修内容

会社説明、面談、社内見学、楽々精算の導入に関する会議への参加、ClientVPNの手順書をTechme Bizへの移行作業

講座を通して学んだこと、気づきなど

- ・会社説明と面談を受けて、目標としているDXが破壊的イノベーションによる新興メーカーに負けない変革を行っていききたいという想いが伝わってきました。それを踏まえて、体験しようと思いました。
- ・工場の見学では、稼働している部分においては生産ラインが自動化されていて、その点においては新たな改善点などは見つかりませんでした。
- ・事務所内見学では、2階に流通、設計・CAD、購買等の部門があり、人口密度の高さに驚きました。
- ・200人以上いる事業所で小口現金による支払いと書類による現金の取り扱いがされていました。DX化で楽々精算（経費精算システム）が提案され12月から導入されるとのことでした。
- ・作業は社内にあるワークフローがエクセルやワード等統一性がなく煩雑になっているので有効活用するためTechme Bizへ移行する事で、どの作業も誰でもすぐできるようにわかりやすく改善する。
- ・研修2日目の総括にて、改善点や意見、感想を発言する機会を与えられました。設計・CADに関わっている人が多いので、その点についてCADによりデータ化されているのだから、データ処理をAI等利用出来れば効率化できるのではと思い提案しましたが適合性の問題から人海戦術を継続されていました。
- ・多くの従業員を抱えて大部分がシステム化されている組織であっても、アナログの部分があることに気づきました。DXを通して変革が達成できれば改善・効率化・単純化できると感じました。

● 研修内容

- 座学（会社概要、UI/UX、セキュリティ）
- PCキッティング
- JavaScript課題
- 座談会
- インターンシップを終えての発表

● 得られた成果／気づき

- 会社の業務は多岐にわたる → 適正に
- 働きやすい環境で離職率が低い
- 座談会にて自己アピールができた



研修内容	印象に残ったことと得た成果・気づき
◆ 1日目 ●9:00～ オリエンテーリング ●10:00～ 座学（情報セキュリティ） (Webについて) ●12:00～ 昼食 ●13:00～ 座談会（社長、常務、GM） ●14:30～ PCキッティング体験 ●15:55～ 1日目の振り返り、2日目の 連絡 ●16:00 1日目の終了	➤ PCキッティング作業 ✓マニュアルを使っの作業の流れと順序だてた設定構築のやり方 ➤ JavaScriptを使っのプログラミング ✓JavaScriptプログラミングと、わからない時の答えの出し方 ✓プログラミングをきちんと構築でき、成果を出せたときの達成感 ➤ IT現場に働いている人たちとのコミュニケーション ✓コミュニケーションの大切さ、IT現場の雰囲気
◆ 2日目 ●9:00～ プログラミング体験 (Javascript) ●12:00～ 昼食 ●13:00～ プログラミング体験 (Javascript) ●14:00～ 発表準備 ●15:00～ 座談会（社員を交えて） ●15:30～ 発表 ●16:00 2日目終了	まとめ ➤ 銀行のグループ会社ということでお堅いイメージがあったが、雰囲気がよく風通しもよさそうで、いい意味でイメージと違った ➤ キッティング作業や、プログラミング体験で少しはIT現場の仕事に触れられて、本格的にIT現場で働きたいと感じた

(ハ) 事業化可能性調査

○転職希望者は現職を持っているため、「企業インターンシップ」において受入企業側の就業時間に合わせることができないこと等から、県内企業の新規事業を新規提案する実習「事業化可能性調査」を受講した。以下の内容を授業時間 24 時間における調査方法の説明と成果発表の他に、各自（各チーム）が別途の時間において企業調査・市場調査とプレゼンテーション資料を作成した。

- 1 対象企業を決定する
- 2 多角的展開に関しての必要性和可能性、将来的な成長性、資本余力などを検討する
- 3 対象企業の強み、弱み、機会、脅威を洗い出す
- 4 技術・商品・サービス・市場などを多面的に考察する
- 5 対象企業の戦略を知る
- 6 全社戦略を把握したうえで、事業戦略、製品戦略につなげる
- 7 新規事業コンセプトの作成
- 8 チーム（個人で取り組む場合も協力）でアイデアの数を出す
- 9 アイデアの絞り込みと優先順位を決定する
- 10 「市場の成長性」や「競合他社の状況」「アイデアの実現性」について評価し決定する
- 11 提供価値を顕在化する
- 12 「顧客がだれか」「顧客が満足する価値はあるか」「詳細な顧客像」を描く
- 13 マーケティングと仕組みづくりを考える
- 14 どのように顧客に認知してもらい、購入させ、リピートさせるのか、そのための仕組みを描く
- 15 財務計画（5年間のロードマップ）を、投資額と売上、費用、利益面から説明する

○受講者の中間発表、最終発表において、受講者 20 名及び「企業インターンシップ」受講者のうち「事業化可能性調査」の受講も希望した 2 名全員（全 5 チーム）が実施し、受講者 20 名が合格した。

A SWOT Analysis diagram for JINS. The title 'SWOT分析' is at the top center. The diagram is a 2x2 matrix with 'S (強み)' (Strengths) at top-left, 'W (弱み)' (Weaknesses) at top-right, 'O (機会)' (Opportunities) at bottom-left, and 'T (脅威)' (Threats) at bottom-right. Arrows point from S to O, W to O, and W to T. A large blue arrow points from the S/O quadrant towards the T quadrant.

S (強み)	W (弱み)	O (機会)	T (脅威)
<ul style="list-style-type: none"> 眼鏡事業、雑貨事業、化粧品事業で培った企画製造販売流通基盤 	<ul style="list-style-type: none"> 代表商品がなく、ブランド力が低い 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化社会 推し活ブーム 多様なニーズ 	<ul style="list-style-type: none"> 物価高 海外工場の人件費の高騰 輸送費の高騰 大量生産大量消費へのアンチ JINSやZoff等の格安メガネの知名度の高いブランドがある



-109-

(最終発表資料より その2 (4名))



③SWOT分析

	内部環境		外部環境	
	強み	弱み	機会	脅威
内部環境	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統と新しい技術力 ・県内の一貫生産 ・環境に配慮した繊維 ・肌に優しい繊維 ・小ロット多品種 ・短納期 ・繊維専門商社 	<ul style="list-style-type: none"> ・多量の廃棄布 ・価格が高い ・一般向け売上げが少ない ・アピール力が弱い ・従業員が少ない ・知名度が低い 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康志向の高まり ・SDGs ・自社ブランドで製品で販売 ・北陸新幹線 延伸 ・オンラインサイト消費拡大 ・快服グッズの消費拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギーコスト上昇 ・類似品との差別化 ・業界の規模 ・海外の大量生産 ・為替の動向 (円安) ・材料の高騰
外部環境				



⑤アイデアの絞り込みと優先順位

A

**キュブラと
廃棄布を使った
トラベルセット**
(アイマスク+ネックピロー)

アイマスクとネックピローの
身体に接触する面は肌に優
しいキュブラを、他部分の布
地は廃棄布を使用して製作。
ネックピローの中綿も廃棄綿
を使用します。
両品を廃棄布で製作した巾
着袋(弁当箱入れ)に入れて
の販売を提案いたします。



⑥ペルソナ

名 前	名 林 太 朗
年 齢	34歳
性 別	男性
職 業	IT営業職(出張が多い)
収 入	480万円
居住地域	埼玉県(アパート)
勤務地	東京都
学 歴	大学卒(国立大学卒)
家族構成	妻・子供(幼弟)
休日の過ごし方	子供と遊びに行く、オンラインゲーム
所有するデバイス	iPhone
利用しているSNS	Instagram, Facebook, LINE

埼玉生まれ埼玉育ちで、大学は埼玉の国立大学に通っていました。
現在は、IT営業をしつつ、賃貸のアパート暮らしをしています。
休日は子供を連れて、公園やショッピングセンターに行っていますが後
はオンラインゲームをしていて睡眠不足です。

仕事で、急な出張で中部・北陸方面の担当になったため出張へ行く機会
が増えました。

睡眠不足を解消するために、移動時間は睡眠時間にあてたいと思っ
ています。

急に出張を命じられて、準備する時間がなく必要なものをコンビニ等で
購入しています。

電車内は、随分とところで寝たいのでアイマスクを着用して寝たいと思
います。

デッキの自販機でたまに美味しい商品が見つかったので試しに買ってみま
した。

出張時、荷物がかさばるので使用後はすぐに捨てたいと思っています。



⑨財務計画

	令和6年 3月～ 令和7年 2月	令和7年 3月～ 令和8年 2月	令和8年 3月～ 令和9年 2月
①売上高	1,123,500円	1,291,500円	1,588,500円
②売上原価	337,050円	387,450円	476,550円
③売上総利益 (①-②)	786,450円	904,050円	1,111,950円
④販売費及び 一般管理費	2,049,480円	2,035,830円	2,047,770円
⑤営業利益 (③-④)	△1,263,030円	△1,131,780円	△935,820円
⑥売上高内訳	単価①1,500円×購入者749人	単価①1,500円×購入者861人	単価①1,500円×購入者1,509人

(最終発表資料より その3 (4名))



◆ペルソナの選定 STP

STP

S 旅行者から家族で海水浴に訪れている層にセグメント

T 施設の利用にはお母さんの発言権が強いと意見が出たため、ターゲットを母。

P 母の「面倒見」である帰宅後の「洗濯」と「お風呂」を解消できる施設としてのポジション

(海で汚れた水着を洗ったり、すぐに簡易的に入れる衛生的なお風呂としてポジショニングを取る)



◆開設場所

令和4年に県内に海水浴で訪れた観光客と県内在住者から割り出し計算

※引用元 福井県交通文化観光戦略推進令和4年 福井県観光客入込数

項目	令和4年 延べ人数	県内客 延べ人数	県外客 延べ人数	令和3年 延べ人数	令和元年 延べ人数	増 減率比	増 減率比	令和4年 構成比
自 然	4,164	1,828	2,336	3,770	4,309	110.3	94.8	14.8
文化・歴史	8,361	2,663	5,698	5,114	9,222	124.4	69.0	22.4
産業観光	1,838	841	997	1,249	1,884	121.4	86.9	5.8
総合レジャー・エンターテインメント	4,598	3,012	1,586	4,140	3,063	111.1	78.2	16.5
その他	438	92	346	348	709	176.6	61.8	1.3
計	253	159	94	239	271	105.9	93.4	0.9

海水浴客の最も多い「越前海岸」で施設を開設した想定

※引用元 福井県交通文化観光戦略推進令和4年 福井県観光客入込数

項目	令和4年 延べ人数	県内客 延べ人数	県外客 延べ人数	令和3年 延べ人数	令和元年 延べ人数	増 減率比	増 減率比	令和4年 構成比
自 然	4,164	1,828	2,336	3,770	4,309	110.3	94.8	14.8
文化・歴史	8,361	2,663	5,698	5,114	9,222	124.4	69.0	22.4
産業観光	1,838	841	997	1,249	1,884	121.4	86.9	5.8
総合レジャー・エンターテインメント	4,598	3,012	1,586	4,140	3,063	111.1	78.2	16.5
その他	438	92	346	348	709	176.6	61.8	1.3
計	253	159	94	239	271	105.9	93.4	0.9

◆財務計画表

単位:千円

	2024	2025	2026
売上高	7,200	7,200	7,200
売上原価	1,500	1,500	1,500
純利益	5,700	5,700	5,700
販管費	36,500	2,500	2,500
営業利益	▲26,800	2,200	2,200
売上高内訳	<p>【売上】 見込客数 25,000名 見込客単価 7500名 60人/日×1000円×60日=7,200千円 【売上原価】 「越前海岸」 1,800円/年 定額メンテナンス料など 7500×200円=1,500千円 【販管費】 管理費1,500千円+仕入1,000千円 +2名×2,000千円 30,000千円/年(※3名/月)</p>	<p>【売上】 見込客数 25,000名 見込客単価 7500名 60人/日×1000円×60日=7,200千円 【売上原価】 「越前海岸」 1,800円/年 定額メンテナンス料など 7500×200円=1,500千円 【販管費】 管理費1,500千円+仕入1,000千円 +2名×2,000千円</p>	<p>【売上】 見込客数 25,000名 見込客単価 7500名 60人/日×1000円×60日=7,200千円 【売上原価】 「越前海岸」 1,800円/年 定額メンテナンス料など 7500×200円=1,500千円 【販管費】 管理費1,500千円+仕入1,000千円 +2名×2,000千円</p>

(最終発表資料より その4 (5名))

②強み・弱み・機会・脅威の洗い出し

「強み」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 運賃が安い ・ 雪に強い ・ 三国から勝山まで多くの観光地を沿線に持つ ・ 県民に根強い人気(特に学生・高齢者の足) ・ アテンダントがいる ・ お酒が飲める ・ 渋滞に巻き込まれない…etc 	「弱み」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 便数が少ない ・ 急行がない ・ 荷物が多いとき、車に比べて負担が大きい ・ 終電が早い ・ 三国から勝山に行く場合福井で乗り換えが必要 ・ ダイヤを気にしながら行動が必要…etc
「機会」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 新幹線延伸 ・ バンデミックからの回復 ・ 円安 ・ インバウンドの回復 ・ SNSの普及による情報拡散が容易になった…etc 	「脅威」 <ul style="list-style-type: none"> ・ 車の便利さには勝てない ・ タクシーの方が便利 ・ 県民の自家用車保有率が高い ・ ライドシェアが解禁されたらやばい！…etc

そして今回、我々が最終案としたのは？

「ふくいの地酒まんきつ列車」

選定理由：実現性、関連性、楽しさ、従業員満足度、ニーズという点で評価した結果、最も高いスコアが得られた。また、過去イベント列車の運行経験もあり、えち鉄が持つ「おもてなし」スキルを活用できると考えられる。



サービス・商品の典型的なユーザー像

夫のリタイアを期に夫婦共通の趣味である旅行と日本酒を堪能したい仲の良い夫婦

夫：井之頭 五郎 60歳 男
職業：製薬会社の営業職
年収：今まで800万、定年後契約社員となった後500万
学歴：国立大学卒
家族：妻・息子・娘
住所：東京都
趣味：旅行と酒
余暇：ウォーキングと銭湯でサウナ
目標・課題：住宅ローンの支払いは65歳までであるため、それまでは働き続けたい。
性格：真面目で勤勉。部下の面倒見がよく慕われている。社員旅行では雑談をみせるなど普段とのギャップも持ち合わせている。
現在の状況：地方の支店長として活躍していたが定年となり、都内の本社で契約社員として働くことにした。今まで単身赴任が長く、妻に負担をかけたので、これを期に妻と一緒にのんびり旅行したいと思っている。
情報ニーズ：妻と2泊程度の旅行プランを考えているが、どこに行こうか迷っていており、今まで訪れたことのない場所に行きたい。今まで福井との接点は無く、あわら温泉の名前を聞いたことがある程度。福井への新幹線延伸は周知している。

妻：井之頭 美佐江 59歳 女
職業：パート（スーパーのレジ）
年収：夫の扶養の範囲内で働きたい
学歴：短大卒
家族：夫・息子・娘
住所：東京都
趣味：旅行・お酒は少し楽しむ程度
余暇：韓国ドラマ鑑賞
目標・課題：夫には今まで単身赴任が長かったので、これからは健康に配慮した生活をしてもらいたいと思っている。
性格：明るく社交的。町内会の役員もやっており、夫の転身赴任中は、子育てと地域のお付き合いもそつこくこなした。
現在の状況：2人の子供はいずれも自立し、少し自分の時間が持てるようになった。社会との繋がりを持っていきたいのと、職場の人間関係が良好な事もあり、現在のパートはこれからも長く続けたいと思っている。
情報ニーズ：夫と旅行の計画をしているが、具体的にどこに行きたいという希望はなく、旅行先で美味しいものを食べて、ゆっくりしたいと思っている。



⑧財務計画：新事業にかかる経営計画

年間68日運行として試算	2024年4月～ 2025年3月	2025年4月～ 2026年3月	2026年4月～ 2027年3月	2027年4月～ 2028年3月	2028年4月～ 2029年3月
①売上高	¥27,200,000	¥21,760,000	¥17,408,000	¥13,926,400	¥11,141,120
②売上原価	¥16,660,000	¥13,328,000	¥10,662,400	¥8,529,920	¥6,823,936
③売上総利益 (①-②)	¥10,540,000	¥8,432,000	¥6,745,600	¥5,396,480	¥4,317,184
④販売費および 一般管理費	¥1,000,000	¥1,000,000	¥1,000,000	¥1,000,000	¥1,000,000
⑤営業利益 (③-④)	¥9,540,000	¥7,632,000	¥6,105,600	¥4,884,480	¥3,907,584
⑥売上 高内訳					
ツアー売上	¥20,400,000	¥16,320,000	¥13,056,000	¥10,444,800	¥8,355,840
お土産売上	¥6,800,000	¥5,440,000	¥4,352,000	¥3,481,600	¥2,785,280

(最終発表資料より その5 (4名))

3. SWOT分析

		強み	弱み
JIG JP	資金力 IT技術力、自社でハード設計可能 身近なアプリ主体	認知度 アプリが少ない	
エクネス	企業イメージ 農家とのつながり 流通ルート独自の配送センター保有	認知度 規模	
機会		強み×機会	弱み×機会
JIG JP	ラタ文化増加 技術革新 (AI)	農家を推したいと考える人が増える	見る側の意識 機会が増える機運に乗り 自社アピール
エクネス	SDGs、購買層の意識変化 社会課題の解決機運	農家を知ることでもフードロス減らす	認知度を上げ事業につなげる
脅威		強み×脅威	弱み×脅威
JIG JP	競合他社 他社特許	動かっている農家や購入者のコメントを活用し、競合他社との差別化展開	模倣しない
エクネス	競合他社 天候 (不作や季節) 農作物売買の法理の有無		

アイデアの 絞り込み

Pugh Concept Evaluationを使用し、
事業化案のブラッシュアップを行い、
下記案を新規事業として提案する。

事業名称：農家支援サービス
 事業内容：IoTツール、自社開発アプリを使用した
 農家支援サービス
 キーマン：衛星事業知見者、JA
 農業工程、判断基準の知見者（農家）
 想定されるお客様：兼業農家
 開発コスト：少
 開発期間：短
 予想売上：多
 リリース目標年月：速やかに

ペルソナ（ユーザー像）

年齢：45歳
 性別：男
 職業：部品会社係長(生産技術)、兼業農家
 収入：500万円
 学歴：福井大学工学部機械修士課程卒業
 家族構成：妻、長男、長女
 既婚・未婚：既婚
 所在地：鯖江市
 趣味：ゴルフ、マラソン
 余暇の過ごし方：家族サービス、ゴルフ
 人間関係：会社の同僚数名、近所の同級生
 習慣：天気予報をみる
 よく買い物する店：ワークマン、デポ
 利用しているSNS：facebook
 情報源の種類：ネット全般
 所持しているPC・モバイル端末：MAC、iphone
 農業情報：40a、稲作、個人農家

兼業農家についての考え（現在の状況）
 親から引き継いだ稲作で40a以下のため、
 農業組合への委託作業ができず、周りの
 農家の手を借りて自分で作業をしている。
 自動化できることで余暇ができると
 うれしいと思っている

性格（価値観・人生観）
 明るい性格で、何事にもポジティブに考える方、新しい物が
 好きで仕事柄無駄が嫌い。頑固なところも持ち合わせている

仕事上の目標・課題
 年代的にも管理的な役割が
 増えている
 現在の目標は部下との良好な
 関係性を継続していきたい

情報ニーズ
 ニーズはあるが、価格やメリッ
 ト・デメリットを調べる時間が
 とれていない

8.財務計画

〔千円〕

	1年目	2年目	3年目	4年目
売上高	10,000	5,000	6,000	7,000
売上原価	1,000	500	600	700
売上総利益	9,000	4,500	5,400	6,300
販管費	3,000	4,000	4,000	4,000
営業利益	6,000	500	1,400	2,300
売上高内訳	システム購入代金	購入代金,保守費	購入代金,保守費	購入代金,保守費

③課題

(イ) 全般

受講者には就業中の者もいるため金・土・日曜日に集中的に授業を行わざるを得ない中で、職業訓練受講給付金制度の様々な制約（選択科目設定やオンデマンド授業は不可、1 か月 60 時間以上かつ 2 か月以上の授業開講）により、受講者にとって負担が大きくなるなど、プログラムの円滑な実施の足かせとなっていることも否めない。受講者アンケートでも要望が強いため、本事業に関し特例的に当制限の緩和の検討が必要である。

(ロ) 企業インターンシップ

- インターンシップ受入企業を 12 社確保したものの、受講者の経歴、情報技能習熟度など初期のスキル、就業能力、就きたい企業種・職種等が様々で、一人一人の事情が異なっており、また、面接選考に同席した受入企業の評価が雇用を念頭に置いた上でのものであるためどうしても厳しくならざるを得ず、マッチングに苦慮した。インターンシップについて、授業の一環としての位置付けを重視し、受講者の希望を踏まえて各企業に受入を割り振るのか（一昨年度のプログラムでのやり方）、就業も視野に受入企業側の意向を踏まえて受講者とのマッチングを行った上で受入企業を決定するのか（昨年度のプログラムでのやり方）、いずれの方法にも一長一短があり、両方のバランスをとりながら実施せざるを得ない。
- 事業を円滑に進め今後も当事業を継続・発展させる上で、受講者に係る就労体験の場を提供し、最終的には雇用する立場にある企業側の本事業に対する理解・協力が必要不可欠である。事業を実施する大学等や関係機関はもとより、国全体として経済界に対する事業への理解を深める取組の積極的な推進が必要不可欠である。

(4) 受講者の募集

((4) - 1) 事業の広報、受講者募集及び申込者数

①取組の概要

福井県、福井労働局・ハローワーク、県内経済団体・金融団体等と綿密に連携協力し、様々な媒体・方法を活用して、県内の求職者はもとより県外のUIターン希望者に対しても幅広く事業・プログラムの広報活動を展開した。

(イ) 媒体

チラシ・ポスター、受講ガイド、受講者募集要項（福井県による交通費支援制度に関する情報を含む）、プログラムに関するQ&A、求職者支援制度に関するチラシ、専用ホームページ、テレビCM、インターネット

(ロ) 方法

○本学

専用ホームページの開設、テレビCMの放送、YouTube、Line による動画配信、Google による画像配信、教育・スポーツ記者クラブへの情報提供・報道依頼、福井労働局・県内ハローワーク担当者への事業説明会の開催、申込希望者への学内・県内会場での説明・相談会の開催（対面・オンライン）

○福井県

福井県の就職活動サイトや移住サイトへの掲載・登録者へのメール配信、県外事務所、福井Uターンセンターオフィス、県人会を通じたU I ターン希望者への広報

○福井労働局・県内ハローワーク

求職登録者への広報、ホームページへの掲載

○県内経済団体・金融団体

各経済団体・金融団体加盟企業へのメール配信等

(ハ) 具体的取組

○受講ガイドブックには、プログラムの目的、受講科目・時間割等の講義内容、講師の紹介、インターンシップ受入を承諾した企業名を掲載し、プログラムを分かりやすく紹介

○申込要件、選考方法、プログラム内容、就職先等について、申込希望者に分かりやすく解説したプログラムに関するQ & Aを作成し、受講ガイドブックやホームページに掲載

○U I ターン希望者を獲得するため、受講者募集要項に「福井県に移住をお考えの方の交通費支援制度」（福井県）のホームページアドレスを掲載し、県外事務所、福井Uターンセンターオフィス等を通じて首都圏を中心として県外にも広く広報。また、移住に関する相談等について、福井暮らしはたらくサポートセンターにて受ける旨、募集要項に記載

○職業訓練受講給付金給付対象者に周知するため、「求職者支援制度のご案内」（チラシ：厚生労働省・都道府県労働局・ハローワーク）により広報

○申込者の利便性に配慮し、申込期間として昨年度よりも6日長い8月10日（木）から9月4日（月）17時まで約26日間を確保。また、募集期間開始前に専用ホームページを開設するとともに、一昨年度、昨年度と最も効果の高かったテレビCMを引き続き放送

資料8-3：テレビCMの放送状況

放送局：民放1局

放送期間：7月28日（金）～9月3日（日）

放送回数：15秒×73回

- 専用ホームページのアドレスを「you can change.me（ユー キャン チェンジ ドット ミー）」と分かりやすく印象に残りやすいものに設定し、テレビCM、チラシ、ポスター等で「ユー キャン チェンジ ドット ミー」を使用することで、専用ホームページへの誘導を意識付け
- 申込希望者への説明・相談会について、本学・ハローワーク（2カ所）での開催のほか、随時オンラインにより個別に受付
- 福井大学産学官連携本部協力会会員企業を始めとした県内企業に対するインターンシップ受入に関するアンケートを事業・プログラム概要を添付して依頼。受入を承諾した企業に出向き、受講ガイドブック等により事業の趣旨・内容、養成される人材像を詳細に説明
- 申込方法については、申込書類をワード・エクセル形式でホームページに掲載し、それを活用して作成・プリントアウトできるように手続きを簡素化

②成果

- 募集人員 30 名を上回る 33 名の申込者があった。年齢構成は 20 代から 60 代まで幅広く、就労区分も失業等により職を持たない者 5 名（15%）、非正規雇用労働者 5 名（15%）、正規雇用労働者 23 名（70%）と様々であった。男女比についても女性が 13 名（39%）と男性に偏ることなく、またUIターン希望者をターゲットとした広報戦略も一定の成果を上げ該当者が 2 名（6%）いた。
- 申込者 33 名に対し、どのようにこのプログラムを知ったかについて面接前アンケート（複数回答可）を実施した結果は次のとおりであり、上記①の取組がそれぞれ一定の効果があったことが判明した。

- ・テレビCM：21 名
- ・SNS、HP：10 名
- ・家族・親族・友人の勧め：7 名
- ・新聞：3 名
- ・ハローワーク：2 名

なお、情報化時代を反映し、インターネット広報に対し、次のとおり多くのアクセスがあった。

調査期間：7月28日（金）～9月5日（火）

- ・YouTube 動画広告配信（15 秒）
表示回数：24,800 件
視聴回数：12,500 件（5 秒以上）
対象地域：福井県、石川県
- ・Line 動画広告配信（15 秒）
表示回数：373,000 件

視聴回数：78,000 件（5 秒以上）

対象地域：福井県、石川県

・専用ホームページ

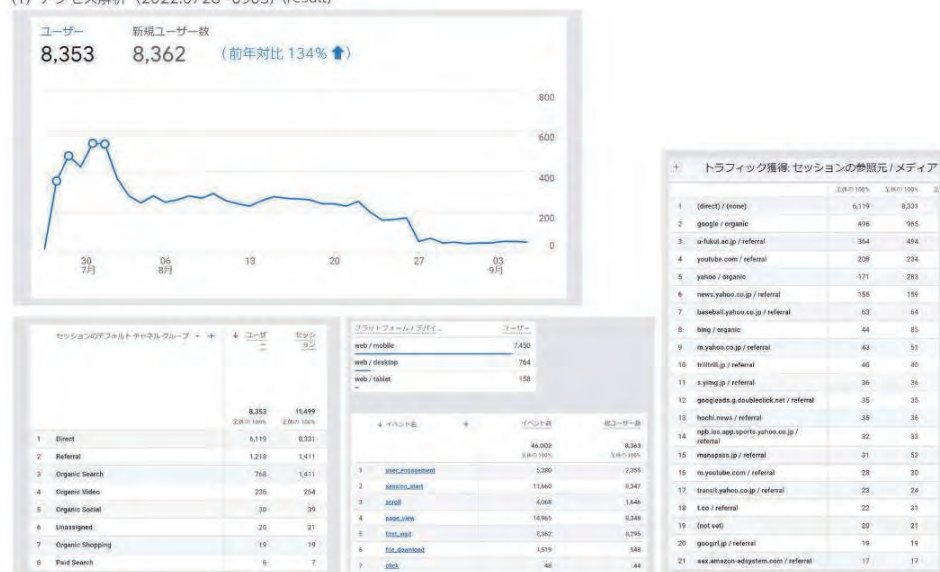
アクセスユーザー数：8,353 人

アクセス延べ件数：46,002 件

資料 8-4：インターネット広報に係るアクセス状況

福井大学リカレント教育事業 web 状況報告 2023.0728~0905

(1) アクセス解析 (2022.0728~0905) (result)

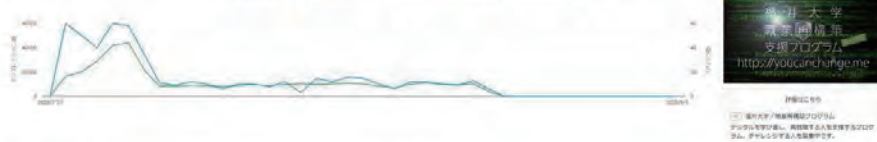


福井大学リカレント教育事業 web 状況報告 2023.0728~0905

(2-1) Line 広告 Small image 広告配信 (result) 配信回数 149.7 万 配信コスト 15,491 円 配信収益 6,191 円 (前年対比 434% ▲)



(2-2) Line 広告 LINE 公式から動画広告配信 (result) 配信回数 37.3 万 配信コスト 8,875 円 配信収益 530 円 (前年対比 20% ▼)



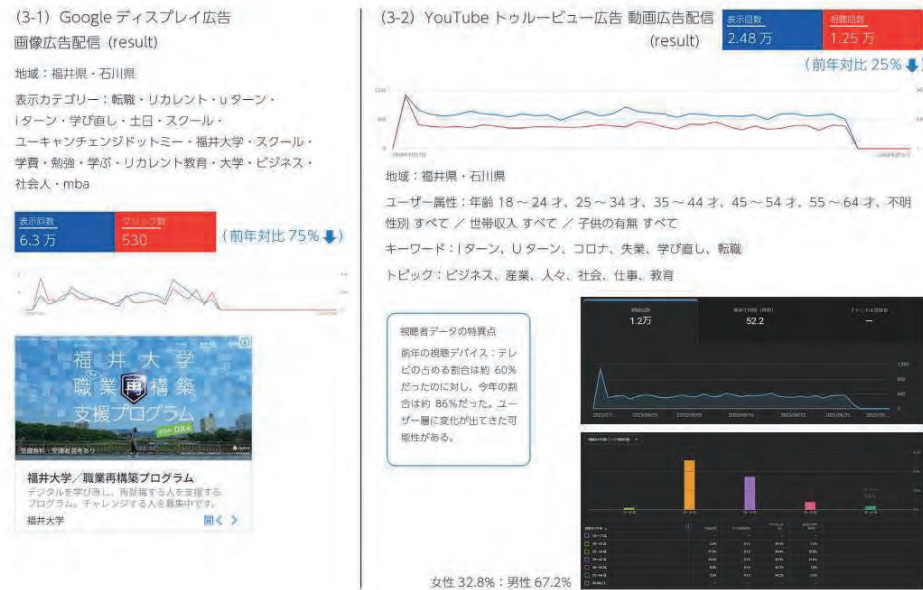
地域：福井県・石川県

ユーザー属性：年齢 18～24 才、25～34 才、35～44 才、45～54 才、55～64 才、不明

性別 すべて / 世帯収入 すべて / 子供の有無 すべて

キーワード：1 ターン、リターン、コロナ、失業、学び直し、転職

トピック：ビジネス、産業、人々、社会、仕事、教育



○説明・相談会への参加者は、本学、ハローワーク福井・ハローワーク武生での説明会（対面）のほか、随時、オンラインでも受け付けたこともあり、対面 34 名、オンライン 9 名、合計 43 名あった。説明・相談会参加者 43 名のうち 22 名（51%）が受講申込を行っており、事前の丁寧な説明や相談を行ったことが申込者獲得に一定の効果を発揮したことが判明した。

○説明・相談会への参加者数、申込者数からは、DX分野のリカレント教育に対するニーズが高いこと、UIターン希望者が一定の割合で存在することが判明した。

③課題

○一昨年度、昨年度は、募集人員 30 名に対し 2 倍程度の応募者があったが、今年度は募集人員を上回ったものの 33 名に留まった。これまでの取組の課題を踏まえプログラムの内容を毎年度改善してきたものの、3 年連続の取組のため受講対象者そのものが減少してきていることも考えられる。また、新型コロナウイルス感染症の取扱いが変わり社会経済活動が再開されたことに伴い、事業主側の都合による離職が減り自己都合離職者の割合が高まるという求職者の質の変化（自分の意に反する離職により職業訓練も活用せざるを得ない緊急性を伴う求職者の割合の減）の影響により、一般の公共職業訓練と同様、応募者数に影響したのではないかと想定される。来年度以降も同様の事業に取り組む場合は、状況をよく調査・分析した上で判断する必要がある。

（（4）－2）選考及び受講者数

①取組の概要

- 申込者数が 33 名と募集人員を上回ったことを受け、希望クラス毎に 5 人程度ずつのグループを編制しグループ毎に 30 分の集団面接を行った。なお、県外者等には希望により Web による面接を可能とした。また、申込者には職業に就いている者が多数いることから、本人の都合に合わせて金曜日または土曜日のいずれかに面接日を割り振った。
- 事業の最終目標が受講者の就職・転職であること、また、受講者とインターンシップ受入企業とのマッチングを円滑に行う必要があることから、選考に当たって雇用側の観点、意見・要望も取り入れるため、インターンシップ受入承諾企業 3 社の関係者延べ 4 名に面接への同席を依頼した。選考に当たって、この 4 名による自社へのインターンシップ受入の意思を参考にした。
- 最終選考は、意欲、就業能力、受講の必要性・妥当性、就業・転職の希望・意志、授業出席の可否、インターンシップ受入承諾企業の意思等、様々な観点からの評価結果を踏まえて、事業実施委員会において行った。
- 部分受講について、受講可能な科目を指定し、企業等に勤務しながらスキルアップを目指す者も対象として募集人員は 300 名程度とし、また今年度初めて将来的な自立自走を視野に受講料を徴収することとした。地方創生を目的とした産学官金医による連携組織「未来協働プラットフォームふくい」が推進するリスキリングとして本プログラムの部分受講を位置付け、構成メンバーの経済団体及び福井県を通して、企業・自治体の社員・職員に対する広報活動を展開した。また、正規受講者募集との混乱を避けるため、募集期間を正規受講者募集期間終了後からとするとともに、専用ホームページに受講申込フォームを掲載し申込手続きの簡素化を図った。

②成果

- 申込者数が 33 名と募集人員 30 名を上回り、結果として受講者数はシステム開発・設計クラス 15 名、D X（現代社会のデジタル化）クラス 16 名、合計 31 名となり、数値目標の 30 名程度を達成するとともに、各クラスともバランスよく 15 名以上を確保した。
- 受講者の年齢構成は 20 代から 60 代まで幅広く、就労区分も失業等により職を持たない者 5 名（16%）、非正規雇用労働者 5 名（16%）、正規雇用労働者 21 名（68%）と様々であった。女性が 11 名（35%）と 4 割弱を占め、また U I ターン希望者をターゲットとした広報戦略が一定の効果を上げ該当者が 2 名（6%）いた。
- 選考面接において同席願ったインターンシップ受入承諾企業関係者による自社へのインターンシップ受入の意思の評価が、合否判定や受講者のインターンシップ受入企業の割振・マッチングを円滑に行う上で大いに参考になった。

③課題

- 部分受講者について、「未来協働プラットフォームふくい」が推進するリスクリングとして位置付け、構成メンバーの経済団体及び福井県を通して、企業・自治体の社員・職員に対する広報活動を展開したものの、今年度初めて受講料を徴収することとしたこと等が影響し、数値目標の 300 名程度に対し、44 名の申込者、33 名の受講者に留まった。

(5) プログラムの運営

①取組の概要

- プログラムを円滑に実施するため、9月29日（金）の19時から受講者オリエンテーションを実施した。なお、県外者や就業者に配慮してWebにより実施し、プログラムの内容（クラス分け及び時間割、オンラインコンテンツの利用方法、求職登録・ハローワークの活用方法、生活上の留意点等）について説明した。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止に向け、募集要項に選考面接に向けての注意事項を記載し、オリエンテーション時に受講者としての日常生活上の注意点を説明する等、注意喚起を行った。また、授業期間中は、教室での3密の回避・換気、教室出入口への手指消毒液配置等、感染防止に向けた受講環境の維持を図った。
- 学生メンターや運営担当者が、常時教室に待機する等、受講者からの質問や要望に答えられる体制を構築した。また、受講者が教室に迷わないように建物及び教室の出入口に毎時間、講義名と時間の貼り紙をする等、手厚く支援した。
- 受講者の情報技能習熟度など初期スキルに幅がある中、受講者全員がプログラムを円滑に受講し修了することを可能とするため、ワード、エクセル、パワーポイント、SPSS（統計ソフト）などスキルを高めるオンデマンドコンテンツを作成し、いつでも視聴できる環境を構築した。
- 受講者証を配付して携帯させ、図書館の利用を認めるとともに、必要がある者には自家用車による入構を認める等、受講環境に配慮した。
- プログラム期間中、特に開始時において、各授業が円滑に行われているのかを注意深く観察するとともに、受講者及び授業担当者の意見・要望も参考にして、プログラム途中においても柔軟に次のような見直しを行った。
 - ・「ビジネスマナー」については、受講者の就労状況、住所等を勘案して15人程度ずつA、Bの2クラスに振り分けたが、受講者からのやむを得ない事情による変更要望を受け、担当講師とも相談の上、柔軟に配置クラスを見直し
 - ・アプレンティス実習は「企業インターンシップ」、「事業化可能性調査」のいずれか1科目を選択必修であるが、「企業インターンシップ」受講者の一部から「事業化可能性調査」にも興味があり参加したいとの意見があったため、チームへの参加を認め、企業への提案策定・発表をチーム内で協力して実施

- 授業内容、プログラムの運営方法、受講環境等について受講者の意見を聴取し、プログラムの検証・分析、後半の授業改善、今後のリカレント教育の改善に活かすため、受講者に対する中間アンケート及び最終アンケートを実施した。なお、手厚い支援が功を奏し、受講環境の改善に関する特段の改善意見等はなかった。**(資料5-7、5-8参照)**。
- 部分受講者の教育については、オンラインの活用による授業担当者や運営担当者の負担軽減も検討したが、教育の質の低下を招くとの懸念から正規受講者との合同による対面授業を行った。

②成果

- ワード・エクセル等のオンデマンドコンテンツの作成、受講に関する学生メンターや運営担当者による手厚い支援に十分留意して取り組んだこと、プログラムの柔軟な見直しを行ったこと等により、受講者アンケート結果では、受講環境に関する受講者からの改善意見等はなく、手厚い支援への感謝の意見が数多く寄せられた。また、プログラム全体に対する満足度について、最終アンケート結果では「満足した」(11名)、「ほぼ満足した」(12名)、合計23名(92%)と受講者の高い満足が得られたことが確認できた**(資料5-8参照)**。
- 受講者31名のうち29名(94%)が最後まで必要な授業を受講し修了した。
- 部分受講者について、パソコン等の機器の確保、授業担当者による正規受講者と区別をしない質の高い教育、学生メンターや運営担当者による質問・要望への迅速な対応、連絡事項の確実な伝達など、正規受講者と同様の支援に努めた結果、特段のトラブルもなく、正規受講者、部分受講者の双方からも受講環境に関する特段の改善意見等なかった。

③課題

- 受講者アンケート結果では、プログラムや科目の内容に関する意見があったが、すぐに対応できないものや法制度上の課題をクリアしなければならないものもあり、今後のリカレント教育に活かすこととした**(資料5-7、5-8参照)**。
- リカレント教育を実施するための学内教員の活用は、通常業務への負荷となるため、インセンティブの供与や退職教員活用制度の確立などの教員リソースの確保策など、具体的な対策を検討する必要がある。

(6) 受講者の就職・転職支援

①取組の概要

- 「企業インターンシップ」受講者は当該受入先企業への就職・転職に結びつく可能性が高いため、次のとおり受入企業の確保、受講者と受入企業とのマッチング、受講者への参加に当たっての心構えの指導等に取り組んだ。
 - ・受入企業として、中途採用のニーズがある福井大学産学官連携本部協力会会員企業(約240社)のほか、昨年度のプログラムで受入実績のある企業等に

依頼した結果、12社を確保した。

- ・マッチングについては、一昨年度のプログラムでの反省点（受講者の希望に合わせて受入企業とのマッチングを行ったところ、受入企業側の受入人数に限度があること等もあり、結果として受講者、企業の双方に希望に沿わない参加・受入を強いることになり、必ずしも双方にとって実りあるインターンシップとはならなかったこと）、及び昨年度のプログラムでの反省点（一昨年度とは反対に選考面接時の企業側の意向を重視して受講者とのマッチングを行う方式に変更したところ、受講者アンケートにおいて受講者側の受入先に関する希望が一定程度反映される方式への改善要望があったこと）を踏まえ、今年度は、受講振り分けの原則（職業に就いている受講者は「事業化可能性調査」を受講し、職業に就いていない受講者は「企業インターンシップ」を受講すること。）をよく説明した上で、参考として受講者全員に意向調査を実施し、当結果をできるだけ尊重して、受入企業とのマッチングを行った。なお、受入企業には、本学担当者が出向き、雇用も念頭においた受入を要請した。

- ・受講者に対しては、プログラム開始前のオリエンテーション時に、受入企業への就職・転職も視野に受講に当たっての心構え（このプログラムではどのようなことを学び、どのようなスキル・知識が身に付くのかを整理しておき、これまでの経歴・経験とを合わせてどのような部署・職で活躍できるのかを説明できるようにして臨むこと、また、過去の実例からみて、企業インターンシップ先への就業は、連動するものではなく、両者のベクトルが合致した場合に可能性があるので、そのような姿勢で臨むこと）を指導した。終了後には、受講者に成果報告書の作成・提出を指示するとともに、受入企業側からの雇用選考への応募案内の有無等を報告させた（資料6-2参照）。

○プログラム終了後の受講者の就職・転職支援のあり方について福井労働局と協議し、昨年度と同様に2週間の就職・転職相談強化週間（12月1日（金）～15日（金）（2週間））を設けてハローワークにおいて集中的に取り組むこととし、プログラム終了前から受講者に積極的な活用の周知・要請を行った（資料6-1参照）。

○本学独自の取組として、本学と教育研究面で連携・協力している企業との様々なつながりを活用した本学独自の企業紹介を行った。また、本事業に協力している金融機関傘下の人材紹介企業の協力を得て、当社への求職登録の案内を行った（資料6-3参照）。

○キャリアコンサルティングとして、次のとおり取り組んだ。

- ・福井労働局及び県内ハローワーク担当者が受講者に対する就職・転職支援を円滑に行えるように、当担当者に対し本事業のプログラム内容や身に付く知

識・スキル等のプログラムの理解を深める説明会を募集期間前に開催した。これを受けハローワークでは、プログラム受講申込時、受講中、受講後の就職・転職相談強化週間等において、相談に来た受講者に対する就職・転職意識、キャリア形成に係る意識付けなどを行った。プログラム開始前に実施した受講者オリエンテーションでもハローワークの担当者が説明者として参加して、受講者全員に対し最寄りのハローワークで求職登録を行うよう指導し（資料5－1参照）、必要に応じ各受講者がハローワークに出向き、キャリアコンサルティングを受けた。プログラム終了後の就職・転職相談強化週間（2週間）においては、ハローワークを訪問・相談した受講者6名（延べ8回）がキャリアコンサルティングを受けた。

- ・「企業インターンシップ」受講者に対しては、受入企業への就職・転職も視野に受講に当たっての心構えをオリエンテーション時に指導するとともに、職歴の浅い受講者に対しては、事前に面談し、直接指導した。
- ・「キャリア概論」では、少人数クラス分けによるメンター制を取り入れ、各担任が毎回一人を指名し、特定の企業の調査・分析及び発表を行わせ、他の受講者も交えて、当該企業を調査対象とした理由、就職・転職希望の有無、就職・転職に向けてのこれまでのキャリアやプログラムで学び身に付けたスキル・能力の活かし方等について意見交換する中で、キャリア形成のヒントを得、また他の発表者の経験を自分の今後に活かす機会となり、実質を伴ったキャリアコンサルティングの場として機能した。

②成果

- インターンシップ受入企業の十分な確保及び受講者との丁寧なマッチングを行ったこと、福井労働局・ハローワークとの連携・協力の下で、就職・転職相談強化週間を設けハローワークを窓口として取り組んだこと等、様々な取組により就職率は17%（2月28日現在）となり、プログラム修了（令和6年1月19日）後3か月以内の数値目標（75%以上）達成に向けて、引き続き手厚い就職支援を継続する予定としている。なお、就職・在職率（数値目標87%以上）は79%、新規就職・転職者数（数値目標10名）は6名（それぞれ2月28日現在）となり、同様に数値目標達成に向けて取り組む予定である。
- 就業先企業アンケート結果からは、プログラムに対する満足度が高いことが伺え、受講者の就職・転職を促す効果があったことが確認できた。（資料6－4参照）。

③課題

- 受講者の経歴、情報技能習熟度など初期のスキル、就業能力、就業を希望する企業種・職種等が様々であり、インターンシップ受入企業とのマッチングや就職・転職支援が相当難しい。

- 一昨年度、昨年度は、募集人員 30 名に対し 2 倍程度の応募者があったが、今年度は募集人員を上回ったものの 33 名に留まった。新型コロナウイルス感染症の取扱いが変わり社会経済活動が再開されたことに伴い、事業主側の都合による離職や非正規雇用化が減り自己都合離職者の割合が高まるという求職者の質の変化（自分の意に反する離職等により職業訓練も活用せざるを得ない緊急性を伴う求職者の割合の減）の影響により、一般の公共職業訓練と同様、応募者数に影響したのではないかと想定される。これを反映するように、応募者 33 名のうち失業者が 5 名（昨年度 23 名）、非正規雇用労働者が 5 名（昨年度 13 名）と昨年度を大幅に下回り、反対に比較的転職の緊急性が高くなく、また自身のスキルアップに重きを置いている者が少なからず存在していると考えられる正規雇用労働者が 23 名（昨年度 24 名）と昨年度とほぼ変わらず、その割合は 70%（昨年度 40%）と昨年度を大幅に上回っている。以上のようなことも影響してか就職率、新規就職・転職者数等（2 月 28 日現在）が数値目標に達していない。
- 事業の数値目標として就職率を掲げること自体は、事業の趣旨に鑑みやむを得ないこととは思われるが、そのことだけに囚われると事業の本質を見誤る恐れがある。受講者の中には、必ずしも就職・転職の緊急性や強い拘りがなく、大学が行う高度なプログラムを受講すること自体や自身のスキルアップに重きを置いている者が、選考段階でのアンケート調査や面接での質疑をすり抜け、少なからず存在していると思われる。このような状況の中で、事業の真の効果を知るためには、就職・転職者数の多少よりもむしろ、就職・転職者の追跡調査をすることが重要であるため、12 月に昨年度のプログラム修了者に対する追跡調査を行った。結果は、例えばプログラム修了後 3 か月の間に就職しなかった失業者が、受講をきっかけに様々な IT に関する資格を取得し、それを活かしてインフラエンジニアとして企業の正規雇用職員へ就職する等、就労状況のステップアップを実現させた事例が確認できた。また、多くの回答者から、身に付けた IT 知識が仕事で活かされる場面が多々ある、様々な価値観を持った人たちとプログラムを最後まで学んだことが自分自身を見つめ直すきっかけになった、IT を本格的に勉強するためのきっかけになった等の高評価を受けたところである。（「(7) 昨年度のプログラム受講者の追跡調査」参照）。
- 事業を円滑に進め今後も当事業を継続・発展させる上で、受講者に係る就労体験の場を提供し、最終的には雇用する立場にある企業側の本事業に対する理解・協力が必要不可欠である。事業を実施する大学等や関係機関はもとより、国全体として経済界に対する事業への理解を深める取組の積極的な推進が必要不可欠である。

(7) 昨年度のプログラム修了者の追跡調査

①取組の概要

プログラムの真の効果を知るため、昨年度のプログラム修了者のうち連絡先を把握できている者に対しアンケートによる追跡調査を実施した。

○アンケート期間：12月19日（火）～1月5日（金）

○対象者数：33名

○回答者数（率）：13名（39%）

○質問事項・回答：追跡調査結果のとおり

資料8-5：昨年度のプログラム修了者の追跡調査結果

(1) プログラム修了後、就業している者に対する質問（回答9名）

質問1. プログラム修了後の勤務先・職種等については、次のとおりと承知しています。誤りがあれば訂正してください。

- ・企業名：
- ・雇用形態：
- ・採用年月：
- ・職種：

9名全員訂正なし

質問2. 現在の勤務先・職種等について、次のいずれかを選択してください。

☐ 質問1の内容と同じ

8名

☐ 質問1の内容と異なる（差し支えない範囲で変更後の内容をご記入ください。）

- ・企業名：
- ・雇用形態：
- ・採用（異動）年月：
- ・職種：

1名

非正規雇用（受講前から勤務）

→ 令和5年6月 他社 非正規雇用（1社目）

(2) プログラム修了後、就業していない者に対する質問（回答4名）

質問1. 現在の就労状況について、次のいずれかを選択してください。

☐ 求職中である

3名

☐就職している（差し支えない範囲で勤務先の状況をご記入ください。）

- ・企業名：_____
- ・雇用形態（正規雇用・非正規雇用の別）：_____
- ・採用年月：_____
- ・職種（営業、経理、製造、システム管理など）：_____

1名

令和5年6月 正規雇用（インフラエンジニア）（1社目）

（3）プログラム修了後、就業している者、並びにプログラム修了後、就業していなかったが、現在就業している者に対する質問（回答10名）

質問3. プログラム受講で身に付けたスキル・知識が、現在の職場で活かされていると思いますか。次のいずれかを選択してください。

☐活かされている（どのように活かされているか簡潔にご記入ください。）

7名

- 業務でのアイデア創出（装置（機器）の管理及び運用の指導法など）
- お客様との会話の中でマルウェア（ウイルス）が話題になることが多く、受講中に身に付けた知識が活かされている
- プログラム受講で身に付けたスキルが自信となり、仕事をするうえで常に活かされている
- PowerPoint を使用したスライド作りなども経験していたので、操作説明の動画制作を任せて頂きました。福井銀行 HP にも作った動画を載せて貰っています
- プログラムの言語が分かるだけでも進めやすく感じた。プログラムを組むときにも役に立っていると思っています。
- 学んだ基礎的な IT 知識が、業務にも出てくる
- 暗号鍵や HASH 値、情報セキュリティの3要素など基礎的な知識があることを前提で現場の SE は会話する。その前提がなければ会話の内容も理解できないし、人手不足のためそれを0から教えてくれる人もいないため、学べて良かったと本当に思う。

☐活かされていない

3名

- そもそも DX 人材の求人がない
- ゼロではないが、ほぼ活用できていない
- （理由不記載）

質問 4. プログラム受講中又は受講後に、新たに IT に関する資格を取得し、又は試験に合格しましたか。次のいずれかを選択してください。

☐ 取得（合格）した（資格・試験名をご記入ください。）

○CCNA（レベル 2） 1 名

○LPIC レベル 1（レベル 1） 1 名

○ITIL ファンデーション（レベル 1） 1 名

○情報セキュリティマネジメント（レベル 2） 1 名

※IT 以外：国家資格キャリアコンサルタント 1 名

☐ 取得（合格）していない

11 名

質問 5. 今後、同様のプログラムを福井大学が実施する場合、他の人に受講を勧めたいと思いますか。次のいずれかを選択してください。

☐ 勧めたい（簡潔にその理由をご記入ください。）

12 名

○DX プログラムが必ずその人が探す職に合っていない場合でも、必ず役に立つ

○IT のことだけではなく、事業化可能性調査等の社会人として活躍できる実践的な知識を身に付けることができると感じたから。また、いろいろな考え方や価値観を持った方と学べたことは、貴重な経験になったため

○仕事上で役に立ったから

○フリーランスのスキルアップと思い参加しましたが、同じ悩みを持つ者が集まり、とてもいい刺激にもなりました。私は、最終的にプログラムとは違う以前勤めていた職種での再就職を選びましたが、スキルアップにしろ、再就職にしろ、自分を顧みるいい機会になりました。なので、ぜひとも勧めたいと考えています

○スケジュールの調整もあるので、誰にでも勧められるわけではないですが、興味がありそうな人には勧めたいです。人によって向き不向きがある内容でもあるので、自分である程度は学習できる環境と意志が必要かと思います

○まずは知る機会を得ることや、刺激を受けることが貴重な体験と考えます

○自分のキャリアアップにつながると思っているから

○IT 系未経験の人が転職を目指すには良いステップになり、キャリアになると思う

- 本プログラムが今後のキャリアを考えるきっかけになると思うから。
特に転職を考えている人には、本当に IT 業界へ飛び込む覚悟があるか、プログラムを通して IT 知識を学ぶことを楽しい、もっと知りたいと思えるか、自分自身をテストするきっかけになると思う
- 現代社会を生き抜く上で、必要な知識を統合的に学ぶことができる。
また、その学習スタイルは、パッシブラーニングではなく、アクティブラーニングであり、同じ志を持った同志と共に切磋琢磨し学べることは、とても貴重な機会である。ここで培った体験、新たな繋がり、今後生きる上で大きな機会だったと感じる
- 自分自身を見つめ直すきっかけになる、いろんな人の考え方を知ることができ新たな発見があるから。自己成長につながる
- 私は元々の専門が IT 関連ですが、サイバーセキュリティやデータサイエンスなどで改めて新しい内容を学び直してスキルアップを図るきっかけにできたと思います。前職は県外での開発職でしたが、リサーチ&プレゼンテーションでこれまでの職種であまり深く掘り下げる機会のなかったことが学べたのと、キャリア概論や地域産業論で福井の産業に関して様々な知識を得られて有意義でした。私のように県外からリターンして戻って来て、地元のニーズにあわせた新たな職種に挑戦する際に役立てられると思います。

□勧めたいとは思わない（簡潔にその理由をご記入ください。）

1 名

- 社会で理解されていないから

②成果

- プログラム修了後 3 か月たった後に、次のようなステップアップを実現させた事例が確認できた。
 - ・プログラム修了後 3 か月の間に就職できなかった失業者が、受講をきっかけに様々な IT に関する資格を取得し、それを活かして 6 月にインフラエンジニアとして企業の正規雇用職員へ就職：1 名
- 多くの回答者から、身に付けた IT 知識が仕事で活かされる場面が多々ある、様々な価値観を持った人たちとプログラムを最後まで学んだことが自分自身を見つめ直すきっかけになった、IT を本格的に勉強するためのきっかけになった等の高評価を受けた。
- IT の基本スキル・知識を身に付けたことで、さらに上位の IT に関する資格を取得しようとする動機付けとなっていることが伺えた。

③課題

○個人情報に関するデリケートな調査となるため協力を得ることが難しく、回答率は39%に留まり、修了者全体の状況把握はできなかった。

9. 事業終了後の継続等の今後の展望

福井大学は令和元年から地域企業に必要な人材に関するニーズ調査を行い、令和3年度にはリカレント教育推進本部を設置した。この取り組みは、社会人が時代の変化に応じて学び直す機会を提供し、地域社会との連携を深めることを目的としている。主な対象は福井大学同窓経営者の会の会員企業の従業員であり、失業者や転職希望者向けのプログラムとは異なる。本年度も昨年度、一昨年度に引き続き、設定した受講者数を上回る申込みと高い満足度を得ているが、今後の取り組みには更なる検討が必要である。次の事項が挙げられる。

(1) プログラム実施経費について

①受講者負担の困難性

本事業の受講者負担の困難性に関しては、従来、福井大学同窓経営者の会会員企業等に所属する従業員が対象のリカレント教育においては、受講料が企業によって支払われていた。これは、従業員のスキル向上が目的であるためである。

しかし、失業者や転職希望者を対象とする本事業では、受講者が現に所属する企業による負担がなく、国の100%の補助がない場合、受講料の自己負担が必要となる。受講料の自己負担は、特に失業者にとっては大きな負担である。

②国の労働政策としての理解の必要性

教育へのアクセスは、個人の経済的能力に左右されるべきではない。大学に経営の自走化を求めると、受講料の負担が個人にのしかかり、特に経済的に困難な状況にある失業者や低所得者にとって、教育を受ける機会が制限されることになる。これは社会的な不平等を増大させる。

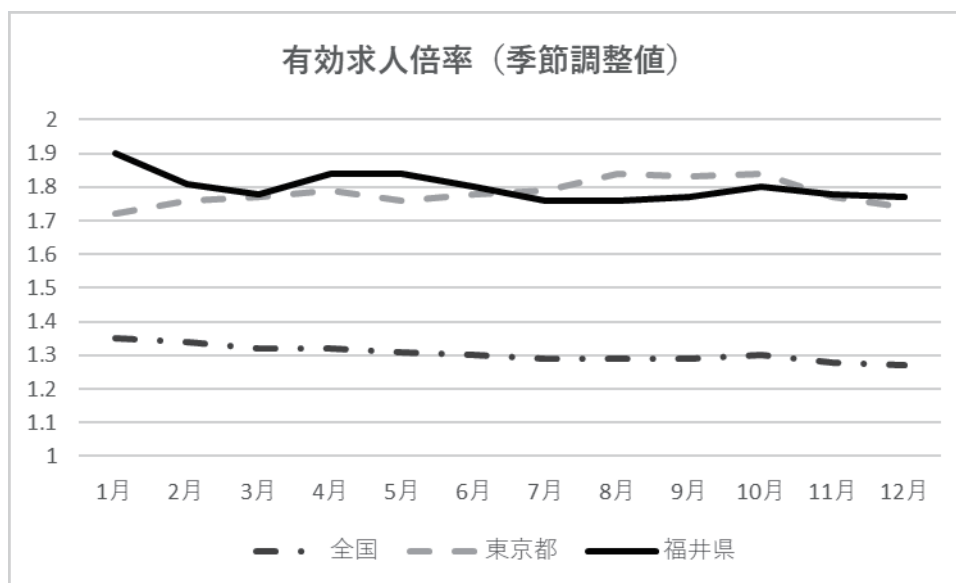
労働市場の変化に対応し、失業者やキャリア変更を望む人々を支援することは、国の重要な役割の一つである。経済や産業の構造変化に伴う雇用の不安定化を緩和し、社会の持続可能な成長を促進するためには、国が積極的に介入し、教育・再教育プログラムを通じて個人のスキルアップを支援することが必要である。教育とスキル開発への投資は、長期的な視点から見れば、より高い社会的・経済的リターンをもたらす。失業者や転職希望者への適切な支援は、彼らが再び労働市場に参加し、経済活動に貢献するための基盤を作る。

(2) 事業実施における企業側、受講者側の双方のニーズについて

①地域企業の人材ニーズに合わせた教育の提供

厚生労働省「一般職業紹介状況」によると、福井県の有効求人倍率は、この1年間(2023年1月～2023年12月)において1.76倍から1.90倍で推移しており、依然、全国で東京都と並んで1位を競う状況である。このことから失業者や転職希望者向けの労働政策が急務である。福井県内の職業訓練では汎用的なITスキルの研修が多い

が、県内企業のニーズは、DX 化などを担う専門的な人材にある。従来の職業訓練だけでなく、DX 化に対応可能な高度なスキルを持った人材の育成が必要であることが明らかになった。



有効求人倍率（季節調整値）												
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
全国	1.35	1.34	1.32	1.32	1.31	1.30	1.29	1.29	1.29	1.30	1.28	1.27
東京都	1.72	1.76	1.77	1.79	1.76	1.78	1.79	1.84	1.83	1.84	1.77	1.74
福井県	1.90	1.81	1.78	1.84	1.84	1.80	1.76	1.76	1.77	1.80	1.78	1.77

図 9－1：2023 年 1 月～2023 年 12 月の有効求人倍率の推移

（厚生労働省「一般職業紹介状況」より数値を抜粋し作成）

（数値出所：<https://www.jil.go.jp/kokunai/statistics/shuyo/0210.html>）

②受講者における本事業の価値の向上

求職者側である受講者にとって効果的な教育の提供という視点で考察する。米国労働省によれば、アプレンティス制度は、高成長産業や新興産業の数百の職種にアクセスすることができる。

実習生が実習プログラムを修了した後の平均初任給は 80,000 ドル（1200 万円、1 \$ 150 円換算）となっており、昨年同時点の 77,000 ドル（1000 万円、1 \$ 130 円換算）、一昨年同時点の 72,000 ドル（828 万円、1 \$ 115 円換算）よりさらに上昇している。また実習終了後に 90%（昨年同時期 93%、一昨年同時期 92%）の雇用が維持されていると報告されており、受講生にとっても非常に魅力的なものになっている。



図 9－2 本学が本事業実施の参考とした米国アプレンティス制度
(<https://www.apprenticeship.gov/>、米国労働省 HP、2024 年 2 月 14 日参照)

(3) 大学における本事業の継続性について

大学や高等教育機関は、単なる企業ではなく、教育という公共財を提供する社会的な役割を持っている。したがって、教育のアクセスを確保することは、国や社会全体の責任であるべきといえる。失業者や転職希望者への教育機会の提供は、単に個人のキャリア開発を支援するだけでなく、経済的・社会的安定を促進するためにも重要で

ある。その意味を踏まえ、本事業の事業採算性には複数の課題が存在する。

第一に、受益者の特定が難しい点が挙げられる。大学のリソースは限られており、特定の企業の従業員を対象にした場合は受益者が明確であるが、本事業のように広範な対象を持つ場合、受益者の特定とそれに伴う費用負担の割り当てが困難である。

第二に、不特定多数の失業者や転職希望者を対象とするための広報費用が高額になる点がある。さらに、本事業では高度な IT・DX スキル研修など、大学外のリソースを利用する必要がある、これにも費用が発生する。

これらの課題を踏まえると、大学に過度な経費負担を求めない財政支援の継続が必要である。本学においては、今後も大学経営のリスクを慎重に見極めつつ、地域の人材育成に貢献していく。

本報告書は、文部科学省の人材育成推進事業費補助金による補助事業として、国立大学法人福井大学が実施した令和4年度「成長分野における即戦力人材輩出に向けたリカレント教育推進事業」の成果をとりまとめたものです。

